

令和4年度
(2022年度)

事業年報

通巻第51号

公益財団法人 静岡県予防医学協会
Shizuoka Health Service Association

はじめに

令和4年度の事業年報を発刊するに当たり、ご挨拶申し上げます。

当協会は、「みんなの健康を守る」という理念のもと、長年にわたり予防医学事業として健診・検査、保健・栄養・運動指導、普及啓発活動を推進し、県民の公衆保健の向上に努めているところであります。

これはひとえに、静岡県、静岡県医師会をはじめ、地区医師会、市町、教育委員会、各事業所、その他各関係団体のご指導とご支援の賜物と深く感謝申し上げます。

さて、令和4年度を振り返りますと、地域社会や地域住民の健康への希求に応え、健診機会の確保を図り、また、安全安心に健診を受診できるように新型コロナウイルスへの感染防止対策を引き続き、講じてまいりました。

コロナ禍が継続する中、新型コロナウイルスワクチンの接種については、各自治体からの要請により医療スタッフを派遣し、また、藤枝市内2か所と浜松市内の拠点において、地域住民へのワクチン接種を実施し、接種率の向上にも寄与してまいりました。

また、当協会の重要事案としての静岡事務所及び附属診療所の令和5年度内の新築移転に向けて、事業計画に基づき、設計・施工業者の選定と新施設の設計図面の検討などを実施してきたところです。

学校保健、地域・職域保健及び人間ドックを合わせた全体の受診者数については、コロナ感染拡大の影響で、令和3年度に比べて微減することになりました。

そうした中でも、主要事業のひとつである人間ドックは、基本ドックの受診者数が年々増加し、令和4年度には13,937人となり、前年度を335人上回りました。また、利用者アンケートの結果、満足度は90.1%となりました。

設備投資においては、浜松健診センターに新たに放射線棟を増築し、胸部胃部X線投影装置を設置し、受診者の利便性の向上を図りました。

なお、啓蒙事業のうち学校保健セミナー及び産業保健セミナーについては、新型コロナウイルス感染予防の観点から中止しておりましたが、令和5年3月に学校保健セミナーを3年ぶりに開催いたしました。

今後も、東西に長い静岡県において、東部・中部・西部に跨る5か所の事業所を有する総合健診（検診）機関としての特徴を活かしながら、県民の皆様にご満足いただけるように健（検）診体制の充実と精度の向上に一層の努力をしてまいりますので、さらに一段のご指導とご鞭撻をお願い申し上げます。

公益財団法人 静岡県予防医学協会
理事長 横田 通夫

■ 基本理念

みんなの健康を守る

■ 基本方針

1. 予防医学事業を積極的に推進し、地域医療に貢献します。
2. 安全安心で精度の高い医療サービスの提供を目指します。
3. 公益財団法人の自覚をもって、社会的な価値のある仕事を常に模索し、全職員が創意工夫を凝らして仕事に当たります。

幸せは健康から

「円満な家庭」これこそ人間生活の中で最高の幸せではないでしょうか。しかし、私達は、この幸福が家族一人一人の健康から成りたっていることを往々にして忘れがちです。

「病気になって始めて健康のありがたさを知る」というように、いったん病気になってしまうと、かつての元気な毎日の生活がいまさらながらうらやましく、健康のありがたさが痛感されます。

社会生活をいきいきと過ごすためにも年齢を問わず、積極的な健康づくりが必要です。そのためには定期的な健診を受けて、健康であることを確かめておくことが大切です。

病気によっては症状があらわれてくるまでに、相当な期間がかかるものがあります。

また、症状がはっきりあらわれてきたときには、病状が進んでしまって、これを治すには長い期間と多額の経費がかかります。

しかし、これらは適切な検査をすることによって、早期にその兆候をとらえて発病を予防することができるのです。

幸せな家庭を、そしてみんなが楽しめる社会をつくりだすために、私達は、自らの手で健康づくりを行い、疾病予防と健康の保持増進のためにお役に立ちたいと願うものです。

受診者の権利・義務

公益財団法人静岡県予防医学協会では、健康診断の受診者の権利・義務について、以下のとおり定めております。

1. 良質な健康診断を受ける権利

受診者は、その社会的経済的地位・国籍・地域・人種・宗教・性別によって差別されることなく、平等・公平に、良質で適切な健康診断を受ける権利があります。

2. 自己決定の権利

受診者は、ご自身が受ける健康診断について納得された上で、検査を受けるか否かを決定できる権利があります。

ただし、所属団体や健康保険組合との契約を締結している場合は、所属団体や健康保険組合との契約内容が優先されます。

3. 情報に対する権利

受診者は、健康診断によって得られた検査データのすべてについて、その内容を知る権利があります。

4. プライバシー保護に対する権利

受診者は、ご自身の健康診断結果や問診情報、並びにあらゆる個人情報について、当会が定める「個人情報保護方針」に基づき保護される権利があります。

5. 情報提供の義務

受診者は、医師・健診スタッフに対し、ご自身の健康に関する情報を正確に知らせる義務があります。

6. 遵守の義務

受診者は、快適な健診・検査が受けられるよう、当会の規則並びに健診スタッフの指示を遵守し、他の受診者に対して適切な健診環境が保てるよう、安全性や静寂性の配慮を行う義務があります。

2023年4月1日

公益財団法人 静岡県予防医学協会

理事長 横田 通夫

個人情報保護方針

公益財団法人静岡県予防医学協会（以下、「当会」という）は、高度情報化社会の到来と共に個人情報の利用が拡大しているという現実を重視し、個人の人格尊重の理念の下に個人情報の適正な取り扱い、保護および管理に万全を期することを社会的責務と考え、個人情報に関するご本人様の基本的な権利利益を保護するために以下のとおり方針を定めます。

- (1) 当会は、利用目的の達成に必要な限度において、ご本人様の個人情報を取得しています。ご本人様の個人情報は別紙の利用目的に利用されます。
- (2) 利用目的の達成に必要な範囲を超えてご本人様の個人情報を利用する場合は、法令の定めに従って、あらかじめ、ご本人様に通知し、ご本人様の同意をいただきます。
- (3) 当会は、一部の検査業務等を外部の第三者に委託する場合があります。この際、信頼のおける委託先を選定するとともに、個人情報が適切に取り扱われるよう委託契約書を取り交わし、必要かつ適切な監督を行います。
- (4) 当会は、ご本人様の個人情報について、ご本人様から開示、訂正、利用停止、削除等のご依頼があった場合、法令の定めに従い遅滞なく応じます。（なお、情報公開には書類作成等で手数料をいただく場合があります。）
- (5) 当会で個人情報の取り扱いに従事するすべての者は、個人情報保護に関する法令、国が定める指針その他の規範並びに当会の内部規程を遵守します。
- (6) 当会は、個人情報の漏えい、滅失又はき損に対する予防並びに是正対策を講じ、個人情報の安全性、正確性の確保を図ります。
- (7) 当会は、個人情報を適正に取り扱うため、個人情報保護管理者を置き、従業員の教育、訓練を実施するとともに、当会の個人情報保護マネジメントシステムを従業員および関係事業者等に周知させ、必要かつ適切な監督を行います。
- (8) 当会は、JISQ15001：2017に準拠した個人情報保護マネジメントシステムを策定し、実施し、維持します。また、個人情報保護マネジメントシステムは適宜見直し、継続的な改善を図ります。

制定年月日：2005年3月9日
最終改訂年月日：2022年4月1日
公益財団法人 静岡県予防医学協会
理事長 横田 通夫
代表者 加藤 吉隆

当会でのご本人様の個人情報の取り扱いに関する苦情及び相談は下記にご連絡ください。

〒426-0053
藤枝市善左衛門 2-11-5
公益財団法人 静岡県予防医学協会
総務課
TEL：054-636-6461
FAX：054-636-6462
E-mail：syobo-kojinsodan@shsa.net

別紙

ご本人様の個人情報の利用目的

1. ご本人様への健康管理サービスの提供に必要な利用

- (1) 健康管理サービス（健康診断、保健指導、診療及び精密検査）
- (2) 委託元から受託して行なう健康管理サービスにおける委託元や皆様への結果の報告
- (3) 他の医療機関からの照会への回答
- (4) 各種検体検査の実施及び結果等の報告
- (5) 健康管理サービス、その他保健事業にかかる料金の請求
- (6) 健康診断の予約、受付、診察、結果報告にかかわる業務
- (7) 健康診断の結果、精密検査や再検査が必要となった場合の受診勧奨及び追跡調査

2. 他の事業者等への情報提供

- (1) 当社がご本人様に提供する健康管理サービスのうち、
 - ア. 他の病院、診療所、助産所、介護サービス事業者及び産業保健スタッフ等との連携
 - イ. 他の医療機関等からの照会への回答
 - ウ. ご本人様の健康管理サービスにあたり、外部の医師等の意見及び助言を求める場合
 - エ. 検体検査業務の委託その他の業務委託
 - オ. 健康診断委託元（市町村・事業所・健康保険組合・学校等）への結果報告
- (2) 医師賠償責任保険などに係る、医療に関する専門の団体・保険会社等への相談又は届出等
- (3) 関係法令等に基づく行政機関及び司法機関等への提出等
- (4) 外部審査機関への情報提供

3. 当社での利用

当社の管理運営業務

- (1) 利用にあたっては、仮名化 又は 匿名化します。
 - ア. 健康診断業務の維持・改善の基礎資料
 - イ. 当社の内部において行われる従業者教育
- (2) 利用にあたっては、匿名化します。
 - ウ. 学会・研究会等への発表

4. 認定個人情報保護団体について

※当社の健康診断結果及び業務サービスに関する問い合わせ先ではありません。

- ・認定個人情報保護団体の名称
一般財団法人日本情報経済社会推進協会
- ・苦情の解決の申出先
個人情報保護苦情相談室
- ・住所、電話番号
〒 106-0032 東京都港区六本木一丁目9番9号 六本木ファーストビル内
☎ 03-5860-7565 / 0120-700-779

目 次

はじめに		3. 人間ドック	
基本理念・基本方針		1) 人間ドック	89
受診者の権利・義務		4. 母子保健	
個人情報保護方針		1) 先天性代謝異常症等検査	99
第一章 事業概要		第三章 健康啓発、会議、人事等	
令和4年度事業概要	1	1. 健康啓発	103
検査・健(検)診件数の年次推移	4	2. 全国団体等への参加	103
		(会議、研修会、研究会等)	
第二章 検査・健(検)診事業		3. 行事・会議	103
1. 学校保健		4. 人事	104
1) 学校腎臓病・糖尿病検診	7	5. 総合健診センター	104
2) 学校心臓検診	15		
3) 学校貧血検査	36	第四章 研究業績	
4) 脊柱側彎症検診	46	付録 協会案内	
5) 学校寄生虫卵検査	49	1. (公財)静岡県予防医学協会の沿革	105
6) 小児生活習慣病予防健診	52	2. (公財)静岡県予防医学協会役員名簿	108
		3. (公財)静岡県予防医学協会組織図	109
2. 地域・職域保健		4. 協会の健(検)診・検査業務内容	110
1) 一般健康診断及び生活習慣病健診	59	5. 案内図	111
2) 特殊健康診断	64		
3) ストレスチェック	66		
4) 喀痰細胞診による肺がん検診	68		
5) 婦人科細胞診による子宮頸がん検診	69		
6) 血液型検査	71		
7) 細菌検査	72		
8) 寄生虫卵検査	73		
9) 住民健診	74		
10) 特定健診・特定保健指導	84		
11) ワクチン接種	88		

ま え が き

- 令和4年(2022年)4月1日から令和5年(2023年)3月31日までの当協会が実施した検査・健(検)診活動についてまとめたものである。
- 大分類を四章に分け、第一章 事業概要、第二章 検査・健(検)診事業、第三章 健康啓発、会議、人事等、第四章 研究業績とした。
- 第二章の検査・健(検)診事業は、学校保健、地域・職域保健、人間ドック、母子保健の四中分類に分けた。
- 学校保健の成績表は、原則として市町単位にまとめ掲載した。
- 職域保健の定期健康診断等は、労働基準監督署管内別とした。
- 表中の集計欄「東部、中部、西部」地区の範囲は、東部は富士市、富士宮市以東、中部は静岡市以西～川根本町、島田市、牧之原市以東、西部は掛川市、菊川市、御前崎市以西の市郡とした。
- 百分率(%)は、小数点以下第1位を求めたものは第2位を四捨五入し、第2位を求めたものは第3位を四捨五入した。

第一章 事業概要

令和4年度 事業概要

令和4年度 検査・健(検)診件数の年次推移

令和4年度事業概要

事業の実績

1 健診・検査事業

1) 学校保健

(ア) 尿検査

腎臓病・糖尿病の検診は、学校保健法によって小学生から高校生までの全学年を対象に実施することが義務づけられている。

令和4年度の受検者数は215,064人であった。二次陽性者数は1,050人(0.49%)であった。

(イ) 心臓検診

心電図検査が義務付けられた小・中学校、高等学校の各1年生と、任意で実施の他学年について心電図、心電音図検査を実施した。特別支援学校等を含めた令和4年度の総受診者数は67,641人、要精密検査は1,869人(2.8%)であった。

(ウ) 寄生虫卵検査

寄生虫卵検査は、蟯虫検査と糞便検査を行っている。

蟯虫検査は、ウスイ式セロファンテープを用い、二日にわたって採卵する二日法で実施している。平成28年度より学校保健法の指定がなくなり、受検者数は激減した。令和4年度の受検者はいなかった。

糞便検査は、幼稚園・保育園等を対象にセロファン厚層塗抹法を実施していた。平成28年度から検査依頼がなくなっている。現在でも輸入野菜や国内産野菜での化学肥料に頼らない栽培や無農薬栽培があるため、今後も十分な注意が必要である。

寄生虫感染症対策には、集団全体での駆除と感染予防に対する衛生教育が重要である。

(エ) 小児生活習慣病予防健診

小児生活習慣病予防健診は、主に小学校は4年生、中学校は1年生、高等学校は1年生を対象に実施している(学校によっては他の学年を実施)。令和4年度は小・中学校合わせて57校3,642人実施した。今年度も高校1年生については実施していない。

健診の実施に当たっては、地元医師会等の指導のもとに健診を実施し、疾病の早期発見に努めているが、統一的なフォローアップ体制が整備されておらず、主目的であるライフスタイルの改善には、個々の保護者を含めた健康教育が必要であり、各機関の指導のもとに改善に努力する必要がある。

(オ) その他

貧血検査、脊柱側彎症検査は小・中学校及び高等学校を対象として実施した。その他、聴力及び血圧測定についても昨年度同様実施した。

2) 成人保健

(ア) 定期健康診断

出張健診を主とし、定期健康診断のほか法規等に基づく特殊健診を各事業所と連絡を密にして実施した。

(イ) 大腸がん検査

大腸がん検査は、免疫学的便潜血反応(金コロイド比色法)による検査を行っている。

令和4年度の受診者数は70,332人(男性38,822人、女性31,510人)であった。そのうち、陽性者数は4,077人(5.80%)(男性2,464人、女性1,613人)であった。陽性者には受診を促すなど、例年同様に実施した。

(ウ) 骨粗鬆症検査

主として、DEXA法(X線検査)により実施した。

(エ) その他

循環器検査、眼底検査、消化器検査等について、昨年度同様、定期健康診断の一環として実施した。

また、労働安全衛生法の改正により、労働者50人以上いる事業所では、平成27年12月から毎年1回、ストレスチェック制度の実施が義務付けられた。令和4年度は268団体27,157人が受診した。

3) その他の検査

(ア) 腸内細菌検査

主に赤痢菌、サルモネラ菌、腸管出血性大腸菌（0157）を行い、依頼に応じてさらにノロウイルス検査（外部委託）を食品取扱業者、保育従事者などから受注している。現在では、環境・食品衛生の状況がよく、赤痢菌やチフス菌の保菌者が検出されることは非常に稀となっている。

(イ) 母子保健

先天性代謝異常症や内分泌の病気の中には、発症前に発見し治療を開始すれば、障害の予防または軽減を期待できる病気がある。このような病気に対して、出生後すぐに検査を行い、早期発見・治療することにより障害を防ぐことを目的としたスクリーニングが行われている。

新生児を対象に、先天性代謝異常症及び甲状腺機能低下症・先天性副腎過形成症の検査を県・政令市の委託を受け実施している。

現在、県下の新生児数は年間 22,000 人弱であり、対象疾患は 21 疾患である。

2 総合健診センター（ヘルスポート）

健診事業の一層の充実を図るため、総合健診センター（ヘルスポート）を平成 9 年度に藤枝市に開設し、平成 24 年 1 月には新棟がオープンし 11 年が経過した。人間ドック受診者数は年々増加し、令和 4 年度には 13,937 人となった。

今後も健診精度の向上を図り、疾病の早期発見・予防医学を目的として渉外・PR 等積極的に行い、利用者の増加に努める。

3 調査研究事業

業務遂行に伴う検査情報をまとめ、学校保健に関する統計調査、適正な検査がされているかの精度管理などを目的に調査研究を進めている。

- ・健診検査データの活用による調査研究と健康づくりのための情報提供
- ・学童尿及び学童心電図における統計調査
- ・がん検診におけるプロセス指標

4 機器等の整備

健診需要の増加、保有機材の陳腐化、さらに新たな健診項目の取り組みなどに対応するた

め、健診・検査機器等の導入・更新を図っている。令和 4 年度に購入した機器の一部を以下に示す。

- ・胃・胸部検診車
- ・デジタル乳房撮影装置
- ・解析付心電計
- ・全自動血圧計
- ・無散瞳デジタル眼底カメラ
- ・聴力 BOX
- ・VDT 視力計

5 啓蒙事業

予防思想普及のため、協会ホームページによる情報発信に努めるとともに、印刷物を発行又は購入して関係機関や事業所等に配布した。

1) 講演会の開催

新型コロナウイルスの感染者数が令和 5 年の年明け以降減少傾向となり、3 月に学校保健セミナーを 3 年ぶりに開催した。

2) 印刷物の発行等

- ・広報紙「けんこう静岡」（年 4 回発行）
14,000 部
- ・「令和 3 年度事業年報」（発行）
1,000 部
- ・「予防医学ジャーナル」（配布）
864 部

6 その他

1) 関係団体との連携

静岡県（健康福祉部）、県・市町教育委員会、県・郡市医師会、予防医学事業中央会、健康教育推進本部、全国労働衛生団体連合会等関係団体と密接な連携のもとに事業の推進に努めた。

2) 精度管理・研修

日本医師会等が行う外部精度管理調査事業※に参加し、精度管理に努めた。

また、例年実施している講師を招いての内部研修会、外部研修会・研究会等へ参加はコロナ禍の状況により中止としたが、リモート参加可能な外部研修会・研究会については新規知識並びに技術習得のため参加し、職員の資質向上を図った。

（※予防医学事業中央会・全国労働衛生団体連合会・日本総合健診医学会・静岡県医師会精度管理委員会等の行う精度管理調査）

令和4年度 検査・健(検)診の受診(検)者数

(主たるもの)

区 分	検査・健(検)診名	受診(検)者数	摘 要
学 校 保 健	腎臓病検診	215,064	従来法: 0 新方式: 215,064
	糖尿病検診	215,064	従来法: 0 新方式: 215,064
	心臓検診	67,641	(A方式) 10,379 人 (B方式) 57,262 人
	貧血検査	28,965	
	脊柱側彎症検診	8,192	対象:小学校 1,960 中学校 6,151 高校 81
	寄生虫卵検査	0	(蟯虫検査) 0 人
	小児生活習慣病予防健診	3,642	
地 域・職 域 保 健	一般健康診断	194,212	
	特殊健康診断	44,190	
	貧血検査	131,183	
	がん検診	262,616	(胃) 27,502 人 (肺) 137,418 人 (子宮) 9,733 人 (大腸) 70,332 人 (乳房) 11,422 人 (前立腺) 6,209 人
	ストレスチェック	27,157	高ストレス者: 3,993 人
人 間 ド ッ ク		13,937	
母 子 保 健	先天性代謝異常検査	21,455	初回検査
	甲状腺機能低下症検査	21,455	〃
	副腎過形成症検査	21,455	初回検査
そ の 他	細菌検査	73,314	(腸内細菌) 37,475 人 (O-157) 35,839 人
	寄生虫卵検査	242	(寄生虫卵検査) 242 人 (蟯虫検査) 0 人
	ワクチン接種	37,014	コロナ、インフルエンザ、B型肝炎、感染症
合 計		1,386,798	

【参 考】 令和4年度に協会が実施した学校検診検査者数

対 象 校	県内在籍 人 員	検 診 検 査 項 目					
		腎臓病	糖尿病	貧血	心臓	寄 生 虫	
						寄生虫卵 (厚層塗抹法)	蟯虫卵 (セロテープ法)
幼	64,370	21,480	21,480	0	94	0	0
小	180,451	79,628	79,628	798	27,774	0	0
中	97,226	44,942	44,942	9,382	16,179	0	0
高	91,243	64,277	64,277	17,815	22,191	0	0
計	433,290	210,327	210,327	27,995	66,238	0	0

- ・ 県内在籍人数は、令和4年度静岡県学校名簿(静岡県教育委員会発行)より
- ・ 保育園児の受検者は幼稚園欄に含めて掲載
- ・ 特別支援学校及び施設は除く

検査・健（検）診件数の年次推移
NUMBER OF CLASS IN VARIOUS ITEMS OF HEALTH EXAMINATION BY THE YEAR

種目 Item	年度 Year	寄生虫 Helminth egg		細菌 Microbic logical exam		尿 Urine			貧血 Anemia	血液学 (血液型) ABO Rh, HB TOXO Blood typing	臨床化学 Bio-chemic 成人病 Adult disease 肝 Hepatic function etc.	心電図 Electro- cardio- gram (心音計)	血圧 測定 Sphy- gmo- mano- metry	眼底 検査 Fundus- copy	細胞診 Cytolo- gical screen- ing	特殊健 康診断 Occup- ational dise- ase diag- noses	便秘血 反 Occid- ent Blood in Feces	定期健 康診断 Regular Health Exam (胸部 胃X線 その他)	入間リンク Complete medical checkup	脊柱 側彎症 Scolio- sis	先天性 代謝 異常症 Inborn errors of meta- bolism	先天性 甲状腺 機能 低下症 Cretin- ism	副腎 皮質 過形成 CAH	神経系 細胞腫 Neuro- blastma	ホルター 心電図 24hrs. Analy- sis of ECG	小児 生活 習慣病 Child life style related disease	ワクチ ン接種 Vaccina- tion	被爆者 hba- kusha Atomic bomb Victims
		厚層 塗抹法 Thick smear technic (KATO)	テープ法 Scotch tape technic	腸内 細菌 Intes- tinal bacteria	食品 感染 Food infect- ion	腎・糖 腎病 Kidney diseases	糖 尿病 Diaba- etes	その他 others																				
19	2007	1,071	128,257	84,936	96	408,068	407,985	5,988	127,897	26,882	699,173	134,692	105,774	8,147	4,682	25,401	30,295	101,308	6,969	10,001	35,501	35,501	674	0	12,966			
20	2008	985	127,826	86,091	86	482,357	418,618	6,264	128,208	33,601	750,422	136,960	103,597	8,118	7,276	25,918	36,242	105,402	7,718	9,943	34,818	34,818	1,804	0	10,152			
21	2009	942	143,430	80,049	79	425,859	360,175	5,820	129,395	42,710	768,824	140,639	108,123	5,945	8,071	25,946	35,601	111,569	8,149	10,001	34,033	34,033	2,014	0	9,772			
22	2010	884	141,644	78,518	74	379,639	379,746	5,866	145,701	43,939	992,734	151,683	125,581	6,257	14,640	26,478	53,460	175,983	8,500	9,937	33,897	33,897	1,577	0	10,232			
23	2011	808	138,822	76,256	101	366,452	366,378	5,644	135,323	35,185	794,135	140,640	127,121	5,877	13,120	26,068	43,881	126,690	8,764	9,822	33,514	33,514	1,409	0	9,175			
24	2012	767	118,179	76,129	58	387,925	387,784	6,102	146,822	43,653	788,431	153,905	141,991	6,353	12,108	23,999	51,055	123,994	9,285	9,675	32,425	32,425	1,487	0	8,778			
25	2013	938	116,273	75,010	53	389,098	389,071	7,935	144,977	34,276	855,731	153,152	145,983	5,109	12,650	25,049	52,869	119,045	9,878	9,650	32,018	32,018	1,431	0	8,558			
26	2014	469	108,002	76,043	26	389,199	389,130	7,531	149,326	34,689	921,913	156,516	150,150	4,982	12,492	27,405	59,910	148,521	10,362	9,715	30,495	30,495	1,001	0	8,539			
27	2015	459	105,534	73,134	22	417,919	415,764	9,988	171,869	41,210	1,378,302	177,250	174,885	18,329	15,104	30,463	77,663	160,984	10,989	9,476	30,197	30,197	0	0	8,458			
28	2016	230	32,450	72,780	18	413,438	411,160	10,691	168,786	60,069	1,425,633	177,291	176,881	19,080	18,425	35,598	78,338	163,974	11,669	9,149	28,951	28,951	0	0	8,253			
29	2017	215	5,743	71,805	17	423,344	420,975	11,963	176,535	60,031	1,524,818	185,866	184,532	19,861	17,669	34,216	79,746	165,966	12,215	9,072	27,622	27,622	0	0	6,796			
30	2018	243	203	72,648	19	423,631	421,372	11,414	217,051	62,650	1,652,211	197,942	192,184	21,412	18,666	38,971	81,636	171,125	12,617	8,389	26,450	26,450	0	0	4,549			
令和元	2019	248	201	74,630	15	423,586	421,074	11,640	220,487	62,175	1,719,064	204,847	194,523	22,235	18,505	41,588	85,439	174,132	12,938	8,688	24,894	24,894	0	0	4,052			
2	2020	237	49	71,518	15	403,770	402,794	11,480	209,594	62,775	1,682,723	199,265	185,761	22,871	16,955	43,676	83,688	165,478	13,107	8,108	23,710	23,710	0	0	4,052			
3	2021	246	70	75,498	20	398,817	398,637	10,433	207,637	62,572	1,703,963	198,557	184,475	23,246	15,745	45,782	84,475	165,593	13,602	8,684	22,886	22,886	0	0	3,763	89,833		
4	2022	242	0	73,331	15	392,477	392,475	10,417	205,446	62,643	1,704,283	198,948	183,474	23,704	16,327	44,190	84,067	164,920	13,937	8,192	21,455	21,455	0	0	3,642	37,014		

第二章 検査・健(検)診事業

1. 学 校 保 健
2. 地 域・職 域 保 健
3. 人 間 ド ッ ク
4. 母 子 保 健

第二章 検査・健(検)診事業

1. 学 校 保 健

- 1) 学校腎臓病・糖尿病検診
- 2) 学校心臓検診
- 3) 学校貧血検査
- 4) 脊柱側彎症検診
- 5) 学校寄生虫卵検査
- 6) 小児生活習慣病予防健診

1) 学校腎臓病・糖尿病検診	表8・9 貧血検査成績年齢別平均値及び2SDの範囲(男性・女性).....39
図1 腎臓病・糖尿病検診のフローチャート(現方式).....8	
表1 年度別における受検者数と腎臓病検診の陽性率.....9	図1・2 貧血要受診者率の年次推移(男子・女子).....40
図2 学校腎臓病・糖尿病検診のフローチャート(旧方式).....9	図3・4 年齢・性別平均値及び2SDの範囲.....40
表2 腎臓病・糖尿病検診成績学校別集計表(現方式).....10	表10 貧血検査成績学校別集計表.....41
表3 腎臓病・糖尿病検診成績学年別集計表(現方式).....11	表11 貧血検査成績学年別集計表.....42
表4 腎臓病・糖尿病検診成績表(現方式).....12	表12 貧血検査成績表.....42
2) 学校心臓検診	4) 脊柱側彎症検診
図1 学校生活管理指導表(小学生用).....16	表1 過去20年間の推移.....47
図2 学校生活管理指導表(中学・高校生用).....17	図1 小学校の受診者数及び有所見者率の推移.....47
表1 年度別学校数と受診者数.....18	図2 中学校の受診者数及び有所見者率の推移.....47
表2 有所見者心疾患別内訳.....18	表2 脊柱側彎症検診成績表.....48
表3 心電図異常団体別件数.....19	5) 学校寄生虫卵検査
表4 精密検査受診結果管理別内訳.....19	表1 寄生虫卵検査成績学校別集計表.....49
表5 静岡県内1年生在籍数と 当協会で行った心臓検診受診者数と割合.....19	表2 蟻虫卵検査年次推移.....50
図3 心臓検診のシステム.....19	表3 寄生虫卵検査年次推移.....51
表6 先天性心疾患の所見別内訳.....20	6) 小児生活習慣病予防健診
表7 後天性心疾患の所見別内訳.....20	表1 項目別判定基準.....53
表8 心筋症・川崎病既往の内訳.....20	表2 5段階判定・評価内容.....53
表9 調査票等の内訳.....20	表3 総合判定と指導区分.....53
表10 心音図異常の所見別内訳.....21	図1 判定別集計.....54
表11 心電図異常の所見別内訳.....21	図2 所見別集計.....54
表12 心臓検診成績全体集計表.....22	図3 学校数および受診者数の年次推移.....54
表13 心臓検診成績方式別集計表.....24	表4～7 小児生活習慣病予防健診実施数の推移.....54
3) 学校貧血検査	表8～11 小児生活習慣病予防健診結果.....56
表1 貧血(血液)検査成績判定基準.....37	
表2 貧血検査受検者数の年次推移.....37	
表3・4 貧血要受診者年次推移(男子・女子).....38	
表5 事後処置調査表による小・中・高校別回答率.....38	
表6・7 事後処置調査表による回答(男子・女子).....38	

1) 学校腎臓病・糖尿病検診

【はじめに】

昭和48年に学校保健法の施行規則が改正され、学校検尿が開始した。現在も継続して行われ、慢性腎疾患や先天性の腎臓病の早期発見、治療・管理することを目的としている。また、平成4年度から尿糖検査が義務付けられ、糖尿病の早期発見に繋げている。

静岡県では平成25年に「静岡県 医師会学校保健対策委員会 学校腎臓検診結果検討小委員会」において、「学校検尿指針」が全面改訂され、学校腎臓検診システムが確立された。(図1参照)

令和3年度以降は全ての学校でこの指針を採用している。

【検査法】

採尿は早朝第一尿の中間尿をお願いしている。早朝第一尿の採取は、健康な人でも排出される体位性・運動性による蛋白尿を除外するため、中間尿は尿道に繁殖した細菌を除外するためである。検査項目は尿蛋白・尿潜血・尿糖であり、試験紙法にて判定している。

【判定】

一次・二次検査の判定基準

尿蛋白は (+) 30mg/dl 以上

尿潜血は (+) 0.06mg/dl 以上

尿糖 は (+) 100 mg/dl 以上

【結果】

令和4年度の一次検査受検者数は、215,064人であった。

全体の一次陽性率は3.24% (昨年度3.15%)。学校別の一次陽性率は、幼保園0.71%、小学校

1.30%、中学校5.47%、高等学校4.90%であった。また、全体の二次陽性率は0.49% (昨年度0.46%)。学校別の二次陽性率は、幼保園0.13%、小学校0.24%、中学校0.73%、高等学校0.71%であった。

二次検査まで行うことで有所見者の振り分ができていくことがわかる。また、一次陽性率、二次陽性率ともに昨年度と比較して大きな変動はみられなかった。

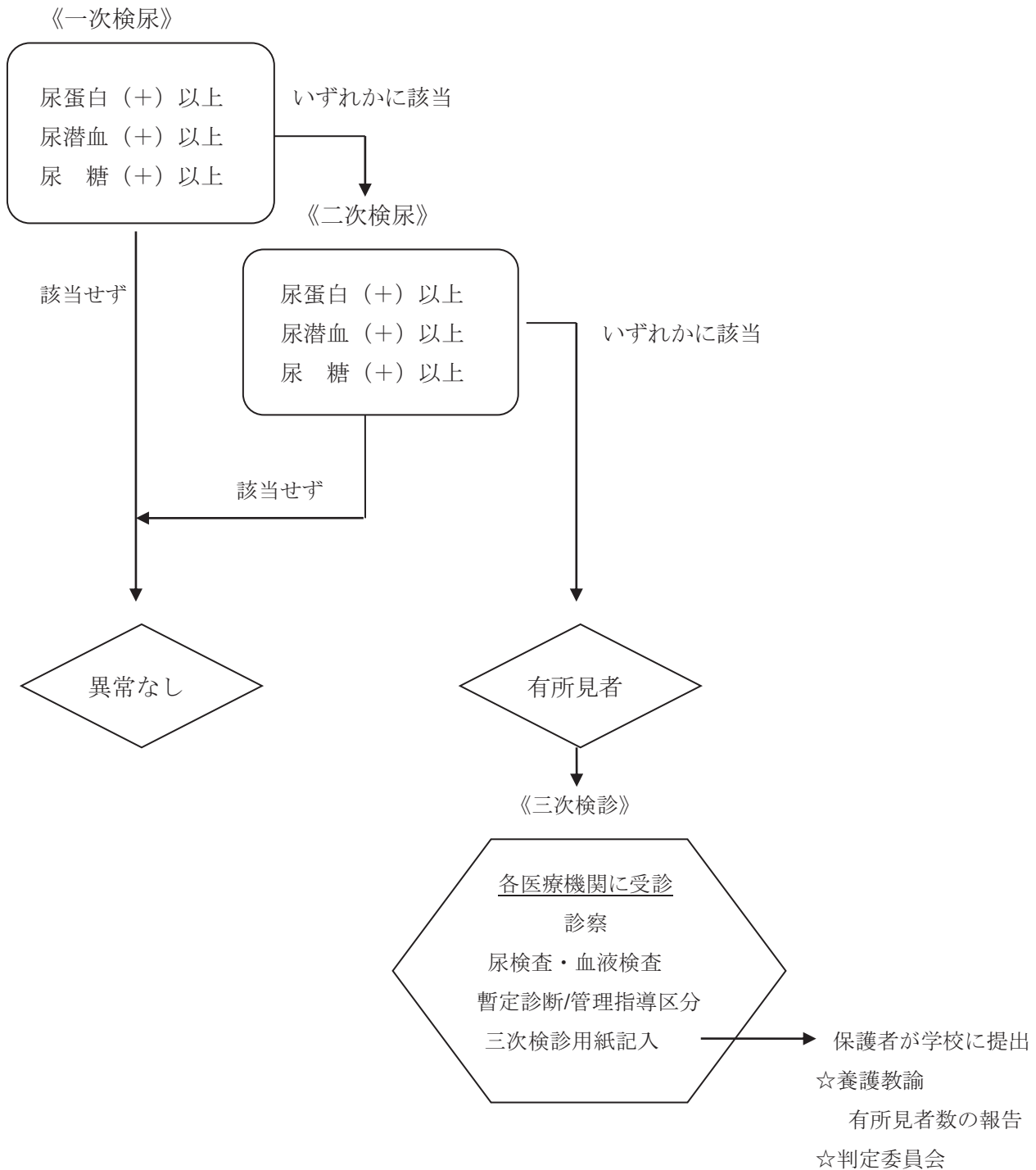
【まとめ】

学校検尿は無症状時期の児童・生徒を早期に発見し、適切な治療や生活管理を行うことで腎疾患の悪化を防ぐことができるようになり、小児期の末期腎不全は減少してきた。しかし、現在は先天性腎尿路異常(CAKUT)の割合が増えてきている。IgA腎症・ネフローゼ症候群・急性腎炎等の腎疾患や1型、2型糖尿病・単一遺伝子糖尿病も含め、早期発見するためには大規模かつ定期的な学校検尿制度は重要な検査といえる。

学校検尿を侮らず、正しい方法で採尿を行い、「要受診」といわれたら医療機関でしっかり診ていただきたい。

(米山 実香)

図1 学校腎臓病・糖尿病検診のフローチャート（現方式）



緊急受診システム

対象：尿蛋白（4+）以上または尿糖（3+）以上（すでに医療機関で管理中の児は除く）

- 緊急報告は、協会より迅速に各市町教育委員会と各学校に連絡する。
- 緊急受診用紙と一緒に三次検診セット渡す。各学校は対象児が既に管理中かどうかを把握した後、初めての場合は学校から保護者に至急連絡し、可及的速やかに医療機関への受診を勧める。

表 1 年度別における受検者数と腎臓病検診の陽性率

年度	現方式				旧方式				
	一次検査		二次検査		一次検査		二次検査		
	受検者数	陽性率	受検者数	陽性率	受検者数	陽性率	受検者数	陽性率	要受診率
平成27	202,727	2.07	4,176	0.31	48,031	2.67	1,219	0.44	0.35
28	202,330	2.64	5,259	0.40	40,765	4.31	1,702	0.68	0.41
29	200,676	2.91	5,724	0.46	40,801	4.74	1,881	0.96	0.55
30	197,996	2.62	5,035	0.40	40,781	5.02	1,981	0.75	0.42
令和元	198,947	3.05	5,953	0.48	35,311	4.93	1,690	0.92	0.58
2	226,214	3.29	7,294	0.47	703	3.98	28	1.14	0.57
3	220,343	3.05	6,621	0.45	0	0	0	0	0
4	215,064	3.24	6,558	0.49	0	0	0	0	0

図 2 学校腎臓病・糖尿病検診のフローチャート(旧方式)

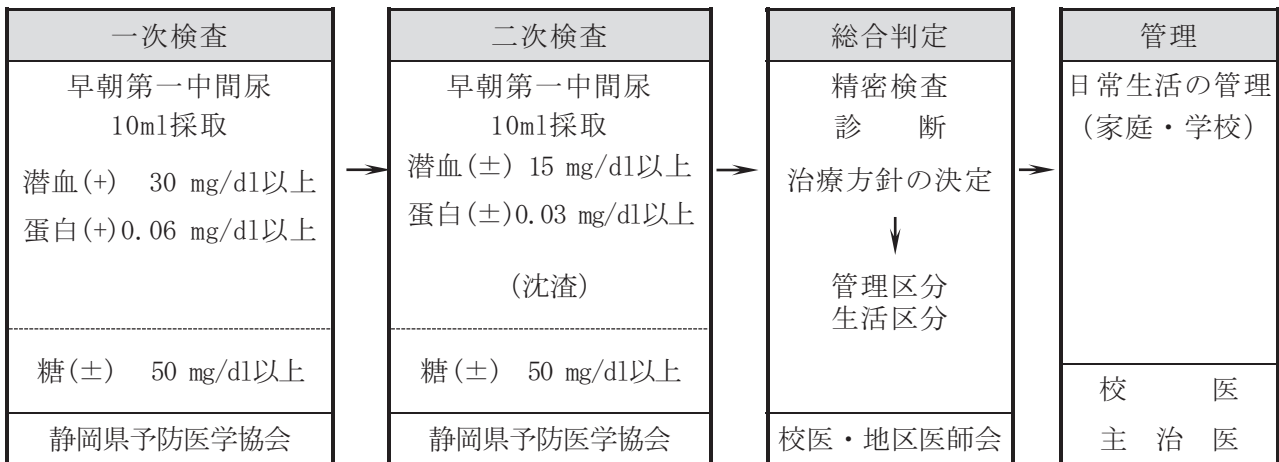


表 2 腎臓病・糖尿病検査成績学校別集計表（現方式）

区分 団体名	項目	一 次 検 査						二 次 検 査										
		受検者数			陽性者数 (%)			受検者数			陽性者数 (%)							
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計					
幼保園	潜血				27 (0.25)	64 (0.61)												
	蛋白			152	19 (0.17)	26 (0.25)												
	糖	10,930	10,550	21,480	1 (0.01)	5 (0.05)	45	77	122	4	23	27	3	19	3 (0.03)	1 (0.01)	3 (0.03)	
小学校	潜血				86 (0.21)	409 (1.05)												
	蛋白			1,034	176 (0.43)	301 (0.78)												
	糖	40,849	38,779	79,628	5 (0.01)	26 (0.07)	256	721	977	59	136	195	4	7	4 (0.01)	2 (0.00)	5 (0.01)	
中学校	潜血				82 (0.36)	1,137 (5.14)												
	蛋白			2,460	733 (3.21)	375 (1.70)												
	糖	22,821	22,121	44,942	15 (0.07)	71 (0.32)	822	1,522	2,344	156	171	327	8	23	8 (0.04)	5 (0.02)	3 (0.01)	
高等学校	潜血				119 (0.36)	1,438 (4.58)												
	蛋白			3,148	942 (2.87)	403 (1.28)												
	糖	32,864	31,413	64,277	35 (0.11)	124 (0.39)	1,084	1,887	2,971	212	244	456	19	27	19 (0.06)	11 (0.03)	11 (0.04)	
大専学校	潜血				4 (0.01)	1 (0.00)												
	蛋白			19	1 (9.09)	11 (8.66)												
	糖	11	127	138	2 (1.57)	2 (1.57)	1	11	12	2	2	2						
特別支援学校	潜血				1 (9.09)	3 (2.36)												
	蛋白			147	9 (0.32)	32 (2.35)												
	糖	2,805	1,361	4,166	71 (2.53)	11 (0.81)	85	41	126	32	9	41	5	5	5 (0.18)	21 (0.75)	1 (0.07)	
施設	潜血				12 (0.43)	6 (0.44)												
	蛋白			3	2 (0.07)													
	糖	291	142	433	4 (1.37)	5 (3.52)	3	3	6		2	2						
合計	潜血				328 (0.30)	3,096 (2.96)												
	蛋白			6,974	1,943 (1.76)	1,120 (1.07)												
	糖	110,571	104,493	215,064	57 (0.05)	230 (0.22)	2,296	4,262	6,558	463	587	1,050	133	197	133 (0.12)	274 (0.25)	197 (0.19)	
	潜血				104 (0.09)	88 (0.08)												
	蛋白			3	6 (0.01)	2 (0.00)												
	糖			3	1 (0.34)													
	潜血				328 (0.30)	3,096 (2.96)												
	蛋白			6,974	1,943 (1.76)	1,120 (1.07)												
	糖			3	2 (0.69)	2 (1.41)												
	潜血				1 (0.34)													
	蛋白			3	6 (0.01)	2 (0.00)												
	糖			3	1 (0.34)													

※糖尿病検査の陽性者＝「糖」＋「腎・糖」の陽性者

※下段は構成比です。

表 3 腎臓病・糖尿病検診成績集計表（現方式）

学 年	一 次 検 査											二 次 検 査																		
	受検者数					陽性者数(%)					陽性者内訳(%)					受検者数					陽性者数(%)					陽性者内訳(%)				
	男		女		計	清血		蛋白		潜・蛋		糖		腎・糖		男		女		計	清血		蛋白		潜・蛋		糖		腎・糖	
	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
1 年	6,453	6,210	12,663	20	52	72	12	31	8	17	1	0	0	3	0	0	18	50	68	6	15	21	3	13	2	1	1	1	1	1
2 年	6,584	6,083	12,677	16	47	63	7	19	8	25	2	0	0	1	0	0	15	42	57	4	10	14	2	4	1	1	1	1	1	1
3 年	6,795	6,481	13,276	42	61	103	24	26	14	32	1	2	3	1	0	0	37	61	98	13	16	29	9	7	3	5	1	3	1	1
4 年	7,013	6,475	13,488	28	81	109	11	35	14	44	0	0	0	2	0	0	22	79	101	7	17	24	4	12	1	5	1	1	1	1
5 年	6,895	6,779	13,674	59	171	230	16	84	41	79	1	4	1	4	0	0	56	162	218	9	27	36	7	15	2	10	1	1	1	1
6 年	7,109	6,741	13,850	116	341	457	16	214	91	104	3	17	6	6	0	0	108	327	435	20	51	71	6	27	13	21	1	1	2	2
他学年																														
1 年	7,505	7,261	14,766	221	557	778	20	386	189	140	4	23	8	8	0	0	210	536	746	41	65	106	11	27	28	1	10	1	1	1
2 年	7,569	7,347	14,916	308	514	822	36	356	264	122	3	28	5	7	0	0	296	486	782	58	59	117	19	26	36	2	9	1	2	2
3 年	7,747	7,513	15,260	327	533	860	26	395	280	113	8	20	13	5	0	0	316	500	816	57	47	104	9	23	40	18	5	4	3	1
他学年																														
1 年	11,126	10,872	21,998	493	758	1,251	44	522	422	175	15	50	12	11	0	0	473	715	1,188	96	89	185	22	38	64	40	7	9	3	2
2 年	10,599	10,120	20,719	355	646	1,001	38	468	293	122	10	37	13	18	1	1	335	607	942	60	82	142	15	44	36	25	6	8	3	5
3 年	11,019	10,373	21,392	289	598	887	37	445	224	106	10	37	15	10	3	3	270	563	833	55	72	127	18	45	27	13	6	10	4	4
4 年	120	48	168	6	3	9	3	3	3	3	0	0	0	3	0	0	6	2	8	1	1	2	0	0	0	1	1	1	1	1

※下段は構成比です。

表 4 腎臓病・糖尿病・糖尿病検査成績表（現方式）

幼稚園・保育園（市町別）

Table showing examination results for kindergarten and preschool children across various municipalities. The table is divided into two main sections: '一次検査' (First Examination) and '二次検査' (Second Examination). Each section includes columns for school names, number of students, sex, age groups, and specific test results for urine protein, glucose, and glycoalbumin. Summary rows are provided for each section, showing total counts for males and females.

小学校（市町別）

Table showing examination results for elementary school children across various municipalities. The table is divided into two main sections: '一次検査' (First Examination) and '二次検査' (Second Examination). Each section includes columns for school names, number of students, sex, age groups, and specific test results for urine protein, glucose, and glycoalbumin. Summary rows are provided for each section, showing total counts for males and females.

大学・専門学校

区分 市町名	一次検査										二次検査															
	受検者					陽性者					陽性者内訳					受検者					陽性者内訳					
	男		女		計	男		女		%	蛋白		潜血		陽性者		蛋白		潜血		陽性者		蛋白		潜血	
	数	%	数	%	数	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	
東部	55	3	5.45	3	5.45	2	1	1	3	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
中部	72	8.3	19.44	16	19.28	1	9	1	3	8	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
西部	11	1.27	13.39	10	13.77	1	11	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
計	6	11	127	138	2	18.18	17	13.39	10	13.77	1	11	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	

特別支援学校

区分 市町名	一次検査										二次検査															
	受検者					陽性者					陽性者内訳					受検者					陽性者内訳					
	男		女		計	男		女		%	蛋白		潜血		陽性者		蛋白		潜血		陽性者		蛋白		潜血	
	数	%	数	%	数	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	
東部	654	3.62	1,016	2.76	35	3.44	4	7	18	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	
中部	10	8.63	425	1,298	34	3.94	18	4	24	52	4.04	3	12	28	5	1	2	1	6	9	1.04	6	1	41	15	
西部	14	1,288	574	1,862	36	2.80	24	4	18	60	3.22	2	13	25	3	2	7	6	2	30	18	48	11	0.85	3	
計	32	2,905	1,361	4,166	95	3.39	52	3.82	147	3.83	9	32	71	11	1	3	12	6	2	85	41	126	32	1.14	9	

施設

区分 市町名	一次検査										二次検査															
	受検者					陽性者					陽性者内訳					受検者					陽性者内訳					
	男		女		計	男		女		%	蛋白		潜血		陽性者		蛋白		潜血		陽性者		蛋白		潜血	
	数	%	数	%	数	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%	
東部	86	4.6	132	4	8.70	8	6.06	2	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
中部	7	1	8	3	3.16	6	2.05	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
西部	95	1.88	293	3	1.52	3	3.16	6	2.05	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
計	12	291	142	433	7	2.41	7	4.93	14	3.23	4	5	2	2	1	1	1	1	1	3	3	6	2	1.41	2	

2) 学校心臓病検診

〔はじめに〕

昭和 48 年の学校保健法施行規則の改正に伴い学校における心臓病検診が推奨され、平成 6 年の学校保健法施行規則の一部改正によって小・中学校、高等学校 1 年生全員の心電図検査が義務付けられた。平成 14 年度に学校生活管理指導表が作成され、静岡県では平成 25 年度から静岡県医師会の指導により県下統一書式の使用を開始した。

学校心臓病検診の主な目的は、①心疾患の早期発見、②突然死の防止、③心疾患の適切な管理指導である。

当協会では、平成 18 年度より一部の小・中学校において、専門医療機関受診の際に診療情報提供書を作成し追跡調査を行っている。また一次検診で不整脈や心筋疾患を正しくスクリーニングするために、平成 29 年度には省略 4 誘導心電図（I、aVF、V₁、V₆）を実施していた地区の検査を標準 12 誘導心電図へ移行した。

〔検査方法〕

当協会では一次検診として心臓病検診調査票（問診票）、標準 12 誘導心電図を実施している。検査方法については、小・中学校は主に教育委員会ごと、高等学校は学校ごとに指定され、一部の学校では心音図も実施している。

〔判定〕

当協会の検診システムは A 方式と B 方式がある。A 方式は一次検診（心臓病検診調査票、心電図）の判定後、二次検診（専門医診察、安静時心電図、必要に応じて負荷心電図等）を実施し、総合判定を行ってから専門医療機関を受診する。B 方式は一次検診の判定後、専門医療機関を受診する。

（図 3）

〔結果〕

令和 4 年度に当協会が心臓病検診を実施した小・中学校、高等学校は 510 校（A 方式 145 校、B 方式 365 校）、受診者数 66,144 人（A 方式 10,379 人、B 方式 55,765 人）で、管理中 466 人（0.7%）、要精密 1,793 人（2.7%）であった。

小・中学校、高等学校別に比較すると、小学校は 253 校（A 方式 95 校、B 方式 158 校）、受診者数 27,774 人（A 方式 6,385 人、B 方式 21,389 人）で、管理中 188 人（0.7%）、要精密 647 人（2.3%）であった。検診システム別では A 方式の要二次検診 171 人（A 方式の 2.7%）、要精密 81 人（A 方

式の 1.3%）であった。B 方式の要精密 566 人（B 方式の 2.6%）であった。

中学校は 152 校（A 方式 50 校、B 方式 102 校）、受診者数 16,179 人（A 方式 3,994 人、B 方式 12,185 人）で、管理中 80 人（0.5%）、要精密 467 人（2.9%）であった。検診システム別では A 方式の要二次検診 105 人（A 方式の 2.6%）、要精密 42 人（A 方式の 1.1%）であった。B 方式の要精密 425 人（B 方式の 3.5%）であった。

高等学校は 105 校（B 方式のみ）、受診者数 22,191 人で、管理中 198 人（0.9%）、要精密 679 人（3.1%）であった。

その他に特別支援学校 34 校、大学・専門学校 3 校、幼稚園 1 園、施設 1 軒実施した。特別支援学校の受診者数は 1,218 人、管理中 89 人（7.3%）、要精密 69 人（5.7%）であった。

総受診者数は 67,641 人で、昨年度より 138 人増加した。（表 1 および全体集計表）

〔まとめ〕

最近ではほとんどの先天性心疾患は入学前に診断・治療され、専門医の管理を受けていることが多く、心肺蘇生法や AED（自動体外式除細動器）の普及が児童生徒の救命につながる時代となった。一方、心臓病検診の目的を達成するための課題として、『心臓病検診調査票の正確性』、『小学 4 年生での検診実施』があげられる。調査票は児童生徒本人が記入するのではなく、遺伝や症状を理解した保護者等が正確に記入することが望ましい。また学年がすすむにつれて増加する不整脈や心筋疾患を早期発見するために、小学 1 年生と中学 1 年生の間にもう一度検診を受けることが望ましいとされており、当協会でも小学 4 年生で実施している学校が多い。

心疾患がある児童生徒が過度の運動・生活制限をされることなく、よりよい学校生活を送るためには、主治医、保護者、学校、学校医に加え、児童生徒自身が病態を把握し、学校生活管理指導表を適切に活用して個々に合った管理をすることが重要である。

我々検診機関も心疾患の早期発見に貢献するために、専門医と連携して精度の高い検診を行い、児童生徒が安心・安全で充実した学校生活を送ることができるよう努力を重ねていきたい。

（瀧口 真由美）

図1 学 校 生 活 管 理 指 導 表 (小学生用)

① 診断名(所見名)		理学的所見		学校名
		胸部レントゲン		年・組・番
		心電図(12誘導)		年 月 日 生 (歳)
		運動負荷心電図		氏 名
		ホルター心電図		年 月 日 生 (歳)
		心エコー		年 月 日 生 (歳)
② 指導区分 要管理 (A ・ B ・ C ・ D ・ E)		③ 運動クラブ活動 可 ・ 禁		受診日 年 月 日
【 (A ・ B ・ C ・ D ・ E) ④ 次回受診 () 年 () カ月後 または異常があるとき (ただし、) 可 ・ 禁				受診医療機関
管理不要				医師名 印
【指導区分:A・・・在宅医療・入院が必要 B・・・登校はできるが運動は不可 C・・・軽い運動は可 D・・・中等度の運動まで可 E・・・強い運動も可】				
体育活動	体ほぐしの運動 多様な動きをつくる運動遊び 体ほぐしの運動 多様な動きをつくる運動 体ほぐしの運動 体力を高める運動	軽い運動 (C・D・Eは "可") 体のパランスをとる運動遊び (体操ふ、起る、座る、立つなどの動きで構成される遊びなど) 体のパランスをとる運動 (体操ふ、起る、座る、立つ、ケンケンなど動きで構成される遊びなど) 体の柔らかさを高める運動(ストレッチングを含む)、軽いウォーキング いろいろな歩き方、ゴム跳び遊び	中等度の運動 (D・Eは "可") 用具を操作する運動遊び (用具を持つ、降ろす、回す、転がす、くぐるなどの動きで構成される遊びなど) 用具を操作する運動 (用具をつかむ、持つ、回す、降ろす、なわなどの動きで構成される遊びなど) 巧みな動きを高めるための運動 (リズムに合わせての運動、ボール・輪・棒を使った運動) ケンパー跳び遊び	強い運動 (Eのみ "可") 体を移動する運動遊び (這う、走る、跳ぶ、はねるなどの動きで構成される遊び) 力試しの運動(人を押す、引く動きや力比べをする動きで構成される運動)基本 的な動きを組み合わせた運動 時間やコースを決めて行う全身運動 (短なわ、真なわ跳び、持久走) 全力でのかけっこ、折り返しリレー遊び 低い障害物を用いてのリレー遊び 全力でのかけっこ、周回リレー、小型ハードル走 短い助走での幅跳び及び高跳び 全力での短距離走、ハードル走 助走をした走り幅跳び、助走をした走り高跳び
運動	ウォーキング、軽い立ち幅跳び その場でボールを投げたり、ついたり、構ったりしながら行つた当て遊び 基本動作 (バス、キック、キック、ドリブル、シュート、バントイングなど)	ウォーキング、軽い立ち幅跳び その場でボールを投げたり、ついたり、構ったりしながら行つた当て遊び 基本動作 (バス、キック、キック、ドリブル、シュート、バントイングなど)	ウォーキング、軽い立ち幅跳び その場でボールを投げたり、ついたり、構ったりしながら行つた当て遊び 基本動作 (場の工夫、用具の工夫、基本的操作を踏まえたゲーム)	ウォーキング、軽い立ち幅跳び その場でボールを投げたり、ついたり、構ったりしながら行つた当て遊び 基本動作 (場の工夫、用具の工夫、基本的操作を踏まえたゲーム)
領域	器械、器具を使っての運動遊び 器械運動 マット、跳び箱、鉄棒	器械、器具を使っての運動遊び 器械運動 マット、跳び箱、鉄棒	器械、器具を使っての運動遊び 器械運動 マット、跳び箱、鉄棒	器械、器具を使っての運動遊び 器械運動 マット、跳び箱、鉄棒
等	水遊び 浮く、泳ぐ運動 水泳	水に慣れる遊び (水かけっこ、水につかっつての電車ごっこなど) 浮く運動(体し浮き、背浮き、くらげ浮きなど) 泳ぐ動作(ばた足、かえる足など)	水につかっつての体し浮き、水中でのジャンケン(ならめっこなど) 浮く動作(けし浮きなど) 泳ぐ動作(連続したポビングなど)	水につかっつてのリレー遊び、バブリング・ポビングなど 補助具を使ったクロール、平泳ぎのストロークなど クロール、平泳ぎ
	表現リズム遊び 表現運動	まねっこ遊び(鳥、昆虫、恐竜、動物など) その場での即興表現	まねっこ遊び(飛行機、遊園地の乗り物など) 軽いリズムダンス、フォークダンス、日本の民謡の簡単なステップ	リズム遊び(弾む、回る、ねじる、スキップなど) 強化のある動きをつなげた表現(ロック、サンバなど) 強い動きのある日本の民謡 スキースケートの滑走など
	雪遊び、氷上遊び、スキー、スケート、水辺活動	雪遊び、氷上遊び	雪遊び、氷上遊び	スキースケートの滑走など 体力を相当使つて吹く楽器(トランペット、トロンボーン、オーボエ、バサーン、ホルンなど)、リズムのかなり強い曲の演奏や指揮、行進を伴うマーチングバンドなど
	文 化 的 活 動	体力の必要が長時間の活動を除く文化活動	右の強い活動を除くほとんどの文化活動	スキースケートの滑走など 体力を相当使つて吹く楽器(トランペット、トロンボーン、オーボエ、バサーン、ホルンなど)、リズムのかなり強い曲の演奏や指揮、行進を伴うマーチングバンドなど
	学校行事、その他の活動	▼運動会 体育祭、球技大会、スポーツフェスタなどは上記の運動強度に該当する。 ▼指導区分、E、以外の児童の遠足、宿泊学習、修学旅行、林間学校、随海学校などの参加について不明な場合は学校医、主治医と相談する。 ▼陸上運動系、水泳系の距離(学習指導要領参照)については、学校医、主治医と相談する。	▼運動会 体育祭、球技大会、スポーツフェスタなどは上記の運動強度に該当する。 ▼指導区分、E、以外の児童の遠足、宿泊学習、修学旅行、林間学校、随海学校などの参加について不明な場合は学校医、主治医と相談する。 ▼陸上運動系、水泳系の距離(学習指導要領参照)については、学校医、主治医と相談する。	スキースケートの滑走など 体力を相当使つて吹く楽器(トランペット、トロンボーン、オーボエ、バサーン、ホルンなど)、リズムのかなり強い曲の演奏や指揮、行進を伴うマーチングバンドなど
	その他注意事項			

《軽い運動》 同年齢の平均的児童にとって、ほとんど息がはずまない程度の運動。
 《中等度の運動》 同年齢の平均的児童にとって、少し息がはずむが長くは続かない程度の運動。パートナーがいれば共に会話ができる程度の運動。
 《強い運動》 同年齢の平均的児童にとって、息がはずみ息苦しさを覚えるほどの運動。
 * 体づくり運動(レジスタンス運動(等尺運動)を含む)。

図2 学校生活管理指導表 (中学・高校生用)

① 診断名(所見名)		理学的所見	
		胸部レントゲン	
		心電図(12誘導)	
		運動負荷心電図	
		ホルター心電図	
		心エコー	
② 指導区分 要管理 (A・B・C・D・E)		④ 次回受診 ()年()月()日 または異常があるとき	
管理不要		可・禁 部 可・禁	
【指導区分・A・・・登校はできるが運動は不可 C・・・軽い運動は可 D・・・中等度の運動まで可 E・・・強い運動も可】			
体育活動	運動強度	軽い運動 (C・D・Eは "可")	中等度の運動 (D・Eは "可")
* 体づくり運動	体ほぐしの運動 体力を高める運動	仲間と交流するための手軽な運動、基本的な運動 基本の運動(投げる、打つ、捕る、蹴る、跳ぶ)	体の柔らかさやおまひ巧みな動きを高める運動、動き 最大限の持久運動、最大限のスピードでの運動、最大筋力での運動 を維持する能力を高める運動
器械運動	(マット、跳び箱、鉄棒、平均台)	準備運動、簡単なマット運動、パランス運動、簡単な跳躍	簡単な技の練習、助走からの支持、ジャンプ・基本的な技(回転系の技を含む)
陸上競技	(競走、跳躍、投てき)	基本動作、立ち幅跳び、負荷の少ない投てき、 軽いジャンピング(走るのは不可)	長距離走、短距離走の競走、競技、タイムレース
水泳	(クロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライ)	水慣れ、浮く、伏し浮き、けし伸びなど	競泳、遠泳(長く泳ぐ)、タイムレース、スタート・ターン
球技	バスケットボール ハンドボール サッカー ラグビー バレーボール 卓球 テニス バドミントン ソフトボール 野球	基本動作 (パス、シュート、ドリブル、フェイント、リフティング、 トラッピング、スローイング、キッキング、ハンドリングなど)	簡易タイムレース、ゲーム時間、コート広さ、用具の工夫などを取り入れた連携プレー、攻撃、防御
武道	柔道、剣道、相撲	基本動作(投げ身、素振り、さばきなど)	応用練習、試合
ダンス	創作ダンス、フォークダンス 現代的なリズムのダンス	基本動作(手ぶり、ステップ、義理など)	各種のダンス発表会など
野外活動	雪遊び、氷上遊び、スキー、 スケート、キャンプ、登山、 遠泳、水辺活動	水・雪・氷上遊び	登山、遠泳、潜水、カヌー、ボート、サーフィン、ウインドサーフィンなど
文化的活動	体力が必要な長時間の活動を除く文化活動	右の強い活動を除くほとんどの文化活動	体力を相当使って歌く楽器(トランペット、トロンボーン、オーボエ、バスーン、ホルンなど)、リズムのかなり速い曲の演奏や指揮、行進を伴うマーチングなど
学校行事、その他の活動	▼運動会、体育祭、球技大会、スポーツフェスタなどは上記の運動強度に準ずる。 ▼指導区分"E" 以外の生徒の選定、宿泊学習、修学旅行、林間学校、臨海学校などの参加について不明な場合は学校医、主治医と相談する。		
③ その他注意すること			

《軽い運動》 同年齢の平均的生徒にとって、ほとんど息がはずまない程度の運動。
 《中等度の運動》 同年齢の平均的生徒にとって、少し息がはずむが息苦しくない程度の運動。パートナーがいれば楽に会話ができる程度の運動。
 《強い運動》 同年齢の平均的生徒にとって、息がはずみ息苦しさを感ずるほどの運動。
 * 体づくり運動、レジスタンス運動(等尺運動)を含む。

表1 年度別学校数と受診者数

	年度	学校数			受診者数 a			要精密検査者数 b			% (b/a)		
		A方式	B方式	計	A方式	B方式	計	A方式	B方式	計	A方式	B方式	計
小学校	令和元	96	161	257	6,892	22,057	28,949	75	692	767	1.09	3.14	2.65
	2	96	161	257	6,809	21,869	28,678	60	598	658	0.88	2.73	2.29
	3	94	158	252	6,764	21,299	28,063	70	580	650	1.03	2.72	2.32
	4	95	158	253	6,385	21,389	27,774	81	566	647	1.27	2.65	2.33
中学校	令和元	54	103	157	4,229	12,492	16,721	55	472	527	1.30	3.78	3.15
	2	54	102	156	4,254	12,675	16,929	59	400	459	1.39	3.16	2.71
	3	54	96	150	4,179	12,359	16,538	66	377	443	1.58	3.05	2.68
	4	50	102	152	3,994	12,185	16,179	42	425	467	1.05	3.49	2.89
高等学校	令和元	0	109	109	0	23,831	23,831	0	737	737	0	3.09	3.09
	2	0	105	105	0	22,654	22,654	0	688	688	0	3.04	3.04
	3	0	105	105	0	21,429	21,429	0	595	595	0	2.78	2.78
	4	0	105	105	0	22,191	22,191	0	679	679	0	3.06	3.06
その他	令和元	0	39	39	0	1,541	1,541	0	71	71	0	4.61	4.61
	2	0	37	37	0	1,470	1,470	0	54	54	0	3.67	3.67
	3	0	37	37	0	1,473	1,473	0	56	56	0	3.80	3.80
	4	0	39	39	0	1,497	1,497	0	76	76	0	5.08	5.08
合計	令和元	150	412	562	11,121	59,921	71,042	130	1,972	2,102	1.17	3.29	2.96
	2	150	405	555	11,063	58,668	69,731	119	1,740	1,859	1.08	2.97	2.67
	3	148	396	544	10,943	56,560	67,503	136	1,608	1,744	1.24	2.84	2.58
	4	145	404	549	10,379	57,262	67,641	123	1,746	1,869	1.19	3.05	2.76

表2 有所見者心疾患別内訳

	年度	受診者数	先天性心疾患		後天性心疾患		心電図異常		心音図異常		心電心音図異常		心筋症		川崎病既往		調査票異常	
			数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合	数	割合
小学校	令和元	28,949	107	0.37	7	0.02	488	1.69					1	0.003	78	0.27	86	0.30
	2	28,678	88	0.31	10	0.03	390	1.36			6	0.02	4	0.01	92	0.32	68	0.24
	3	28,063	82	0.29	13	0.05	384	1.37	1	0.004	12	0.04	2	0.007	102	0.36	55	0.20
	4	27,774	91	0.33	5	0.02	388	1.40			8	0.03	1	0.004	90	0.32	64	0.23
中学校	令和元	16,721	45	0.27	10	0.06	402	2.40	2	0.01	3	0.02	1	0.006	7	0.04	57	0.34
	2	16,929	35	0.21	6	0.04	363	2.14	3	0.02	6	0.04			1	0.01	45	0.27
	3	16,538	42	0.25	7	0.04	339	2.05	3	0.02	8	0.05	1	0.006	5	0.03	38	0.23
	4	16,179	47	0.29	7	0.04	355	2.19	2	0.01	9	0.06			5	0.03	42	0.26
高等学校	令和元	23,831					688	2.89	29	0.12	3	0.01					17	0.07
	2	22,654	1	0.004			660	2.91	7	0.03	4	0.02					18	0.08
	3	21,429	1	0.005			540	2.52	21	0.10	3	0.01					33	0.15
	4	22,191					636	2.87	14	0.06	5	0.02					24	0.11

表3 心電図異常団体別件数

*重複所見を含む

順位	小学校 (心電図異常 396 人)			中学校 (心電図異常 364 人)			高等学校 (心電図異常 641 人)		
	所見	人数	%	所見	人数	%	所見	人数	%
1	不完全右脚ブロック	153	38.64	不完全右脚ブロック	127	34.89	不完全右脚ブロック	146	22.78
2	心室性期外収縮	85	21.46	心室性期外収縮	79	21.70	左室肥大	115	17.94
3	上室性期外収縮	38	9.60	S T-T異常	34	9.34	心室性期外収縮	110	17.16
4	WPW	20	5.05	上室性期外収縮	23	6.32	S T-T異常	65	10.14
4	左軸偏位	20	5.05						
5	洞性不整脈	18	4.55	WPW	18	4.95	完全右脚ブロック	33	5.15

表4 精密検査受診結果管理別内訳

対象名	精検対象者	要医療	要観察	管理不要	未回収・不明
幼稚園	6		1	5	
小学校	647		38	118	491
中学校	467		30	111	326
高等学校	679		70	325	284
大学・専門学校	0				
特別支援学校	69		12	28	29
施設	1				1
計 (%)	1,869		151 (8.08)	587 (31.41)	1,131 (60.51)

1 ; (A方式は二次、B方式は一次検診にて要精検となった生徒の追跡調査結果)

表5 静岡県内1年生在籍数と当協会で実施した心臓検診受診者数と割合 (%)

	校数及在籍生徒数		心電心音図実施数		心電図のみ実施数		実施数合計	
	校数	人数	校数	人数	校数	人数	校数	人数
小学校	500	28,628	0	0	253 (50.6)	13,930 (48.7)	253 (50.6)	13,930 (48.7)
中学校	286	31,755	4 (1.4)	213 (0.7)	148 (51.7)	15,848 (49.9)	152 (53.1)	16,061 (50.6)
高等学校	159	30,334	8 (5.0)	1,949 (6.4)	97 (61.0)	19,956 (65.8)	105 (66.0)	21,905 (72.2)
計	945	90,717	12 (1.3)	2,162 (2.4)	498 (52.7)	49,734 (54.8)	510 (54.0)	51,896 (57.2)

図3 心臓検診のシステム

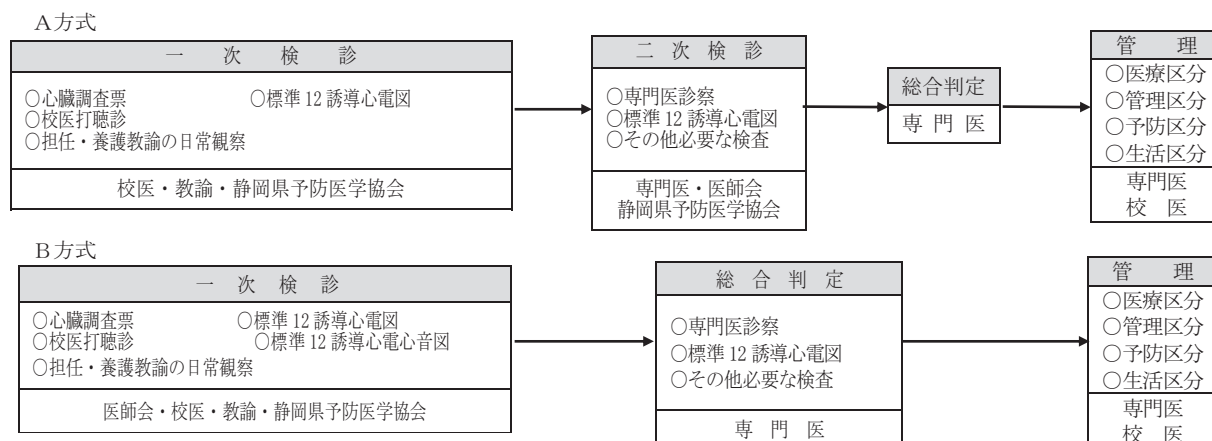


表6 先天性心疾患の所見別内訳

区 分	小学校		中学校		高等学校		その他	
	A方式	B方式	A方式	B方式	A方式	B方式	A方式	B方式
心室中隔欠損症		35 (11)		21 (7)				
心房中隔欠損症		16 (10)		12 (9)				
肺動脈狭窄症		12 (1)		4				
ファロー四徴症		4 (4)						
両大血管右室起始症		2 (2)						
完全大血管転位症		1 (1)						
総肺静脈還流異常症		1 (1)		2 (2)				
部分肺静脈還流異常症		2 (1)		1 (1)				
肺動脈閉鎖症		1 (1)		1 (1)				
純型肺動脈閉鎖症		1 (1)		1 (1)				
大動脈縮窄複合		1 (1)		1 (1)				
大動脈縮窄症		1 (1)		1				
大動脈二尖弁		2		1				
動脈管開存症		4 (3)						
卵円孔開存症		2						
左心低形成症候群		1 (1)						
無脾症候群		2 (2)		1 (1)				
多脾症候群				1				
右二尖弁		1						
僧帽弁異形成		1		1				
上行大動脈拡大		1						
三心房心		1						
冠動脈瘻		1						
E b s t e i n 奇形		1						
大動脈弓離断複合		1 (1)						
完全房室中隔欠損症		1 (1)						
逆流弁				1				
計	96 (43)		49 (23)					

() 内の数字はその診断項目の手術済み数を示す。

表7 後天性心疾患の所見別内訳

区 分	小学校		中学校		高等学校		その他	
	A方式	B方式	A方式	B方式	A方式	B方式	A方式	B方式
僧帽弁閉鎖不全症				4				
大動脈弁閉鎖不全症		1 (1)		1				
肺動脈閉鎖不全症								
三尖弁閉鎖不全症		1						
僧帽弁逆流		1		2				
弁逆流		2						
三尖弁逆流		1		1				
大動脈弁逆流		2						
肺動脈弁逆流				1				
計	8 (1)		9					

() 内の数字はその診断項目の手術済み数を示す。

表8 心筋症・川崎病既往の内訳

区 分	小学校		中学校		高等学校		その他	
	A方式	B方式	A方式	B方式	A方式	B方式	A方式	B方式
心筋症		1						
川崎病既往		92		6				
計	93		6					

表9 調査票等の内訳

区 分	小学校		中学校		高等学校		その他	
	A方式	B方式	A方式	B方式	A方式	B方式	A方式	B方式
心雑音		7		3				
調査票	1	46	1	32		24		3
不整脈		10		6				
計	64		42		24		3	

表10 心音図異常の所見別内訳

区 分	小学校		中学校		高等学校		その他	
	A方式	B方式	A方式	B方式	A方式	B方式	A方式	B方式
収縮期雑音				2		9		10
収縮期クリック						2		
II音分裂				1		5		1
心雑音	8		8					
III音						1		
無害性雑音								
無拡張期雑音						3		
その他								
計	8		11		20		11	

(A方式の心音図異常は医師の聴診による)

表11 心電図異常の所見別内訳

区 分	小学校		中学校		高等学校		その他	
	A方式	B方式	A方式	B方式	A方式	B方式	A方式	B方式
洞 性	頻 脈	1	2	1	7	25		1
	徐 脈		7			6		
房 室	解 離		2	1	1			
左 脚	不 完 全							
	完 全							
右 脚	不 完 全	10	143	5	122	146		27
	完 全	5	12	4	10	33		1
房室ブロック	(第1度)		4	1	4	24		1
	(第2度)		1		2	7		
	(第3度)		1			1		
期外収縮	上 室 性	8	30	2	21	29		
	心 室 性	22	63	12	67	110		9
W P W	3	17	1	17	15		2	
L G L				6		1		
Q T 延 長	2	4	2	15	16		1	
異常 P 波		7		8	13			
異常 Q 波	3	4	1	4	6		9	
Q S 型	1							
S T ・ T 異常	2	11	2	32	65		4	
肥 大	右	6	5	2	2	4		5
	左	5	10	5	8	115		2
軸偏位	右		9		8	21		
	左	5	15		5	27		5
軸 (不定軸・軸偏位・回転)		1				2		
調律 (結節性・接合部・補充)		1		1		5		
洞 性 不 整 脈		18		10		18		
洞 房 ブ ロ ッ ク								
R 波 増 高 不 良		2		2				
ブルガダ症候群						15		1
心室内伝導障害	1							
陰 性 T 波			3			2		3
平 低 T 波		1		1		1		
左 房 負 荷						1		
心室内ブロック						12		2
洞 不 全 症 候 群						1		
左 脚 前 枝 ブ ロ ッ ク	3					1		
移動性ペースメーカー								
低 電 位								2
異 所 性 心 房 調 律	2			1		9		
右 室 内 伝 導 遅 延		4						
その他	5		2	2		5		1
計	458		400		736		76	

表12 心臓検診成績全体集計表(A方式)

区分 検査方法	学校数	一次受診者数		管理中		要二次検診		二次受診者数		二次検診結果				二次検診者所見者心疾患別診断内訳(要観察・要精検)				調査票による要診結果				未 回 収 明	
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	A	B	C	D	E		
																							要観察
小学校	95 (9)	3,249	3,136	6,385	41	82	101	70	171	96	65	161	0	44	37	81					19	33	29
中学校	50 (6)	1,991	2,003	3,994	25	42	51	54	105	46	51	97	0	19	23	42					11	18	13
A方式合計	145 (15)	5,240	5,139	10,379	66	124	152	124	276	142	116	258	0	63	60	123					30	51	42

* () 内数字は、「他学年」(昨年度未受診者・今年度編入者・今年度受診する必要がある者などで、今年度の対象学年外であるが、検診を併せて実施した学校数)

有所見者の疾患別内訳

区分 団体名	学校数	有所見者		先天性心疾患		後天性心疾患		調査票異常等		後川崎病		心音異常		洞性		心電図異常				異常心電図				軸偏位							
		男	女	計	VSD	ASD	PS	T/F	その他	MI	AI	その他	後川崎病	心音異常	頻脈	徐脈	房室解離	左ブロック不全	右ブロック不全	房室ブロック I	II	III	WPW	LGL	QT延長	QT異常P波	異常Q波	QT-ST-T異常	肥大	左	右
小学校	95 (9)	44	37	81					3	5	8	4	1	1	1	6	4					7	10	1	3	1	1	4	3	3	5
中学校	50 (6)	19	23	42					8	1				1	1	10	5					8	22	3	2	3	1	2	6	5	11
合計	145 (15)	63	60	123					11	6	8	4	5	2	2	16	9	15	9	1	1	10	34	4	4	4	4	8	10	5	16

* () 内数字は、上述注記と同じ

心臓検診成績全体集計表(B方式)

B方式集計

Table with columns for school type, number of students, and various medical examination results categorized by gender and age group.

浜松市立小・中は回収しない。小404、中247

* () 内数字は、「他学年」(昨年度未受診者・今年度編入者・今年度受診する必要がある者などで、今年度の対象学年外であるが、検診を併せて実施した学校数)

有所見者の疾患別内訳

Detailed table showing the breakdown of detected conditions by school type, including categories like congenital heart disease, arrhythmias, and structural heart disease.

* () 内数字は、「先天性心疾患」「後天性心疾患」の有所見者のうち、手術済み者数を示す。

表13 心臓検査成績方式別集計表

幼稚園	区分	園数	受診者数		管理中		要観察		要精密検査		先天性心疾患		後天性心疾患		心電図異常		川崎病後遺症		心筋症		調査票異常等		調査票による受診結果					未回収
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	A	B	C	
	検査方法																											
	B方式12誘導	1	48	46	94	0	0	0	5	1	6	10.42	2.17	6.38								1						5
	幼稚園合計	1	48	46	94	0	0	0	5	1	6	10.42	2.17	6.38								1					5	

小 学 校

小学校	区分	校数	受診者数		管理中		要観察		要精密検査		先天性心疾患		後天性心疾患		心電図異常		川崎病後遺症		心筋症		調査票異常等		調査票による受診結果					未回収	
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	A	B	C		D
	検査方法																												
	A方式12誘導	95	3,239	3,131	6,370	41	82	0	44	37	81	1.36	1.18	1.27								1					19	33	29
	計	95	3,239	3,131	6,370	41	82	0	44	37	81	1.36	1.18	1.27								1					19	33	29
	A方式12誘導	9	10	5	15	0	0	0	0	0	0																		
	計	9	10	5	15	0	0	0	0	0	0																		
	A方式12誘導	95	3,249	3,136	6,385	41	82	0	44	37	81	1.35	1.18	1.27								1					19	33	29
	B方式12誘導	158	11,009	10,370	21,379	55	106	0	309	255	564	2.81	2.46	2.64	43	48	1	197	119			27	34			19	85	460	
	計	158	11,009	10,370	21,379	55	106	0	309	255	564	2.81	2.46	2.64	43	48	1	197	119			27	34			19	85	460	
	B方式12誘導	6	5	5	10	0	0	0	2	0	2	40.00	20.00									2						2	
	計	6	5	5	10	0	0	0	2	0	2	40.00	20.00									2						2	
	B方式12誘導	158	11,014	10,375	21,389	55	106	0	311	255	566	2.82	2.46	2.65	43	48	1	197	119			29	34			19	85	462	
	計	158	11,014	10,375	21,389	55	106	0	311	255	566	2.82	2.46	2.65	43	48	1	197	119			29	34			19	85	462	
	B方式12誘導	253	14,263	13,511	27,774	96	188	0	355	292	647	2.49	2.16	2.33	43	48	1	238	150			29	35			38	118	491	
	小学校合計	158	14,263	13,511	27,774	96	188	0	355	292	647	2.49	2.16	2.33	43	48	1	238	150			29	35			38	118	491	

* 「小学校数」() は、「他学年」の検診を実施した学校数 (内数)

* 浜松市については事後処置調査票を回収しないため、B方式12誘導の要精密検査計=調査票による受診結果+管理不要+未回収・不明とならない。

中学校区分	学校数	受診者数		管理中		要観察		要精密検査		先天性心疾患		後天性心疾患		心電図異常		心音図異常		川崎病後遺症		心筋症		調査票による受診結果		未回収 不明			
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	A	B		C	D	E
		計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計		計	計	
A方式12誘導	50	1,985	1,999	3,984	25	17	42	0	19	23	42	0.96	1.15	1.05	15	18	4	4					1		11	18	13
計	50	1,985	1,999	3,984	25	17	42	0	19	23	42	0.96	1.15	1.05	15	18	4	4					1		11	18	13
A方式12誘導	6	6	4	10			0	0			0																
計	6	6	4	10			0	0			0																
A方式計	50	1,991	2,003	3,994	25	17	42	0	19	23	42	0.95	1.15	1.05	15	18	4	4					1		11	18	13
B方式12誘導	98	6,039	5,825	11,864	18	20	38	0	224	186	410	3.71	3.19	3.46	4	171	141			5		21	18		19	85	306
B方式2心音12誘導	4	114	99	213			0	0	5	3	8	4.39	3.03	3.76	2	3	2	1								5	3
計	102	6,153	5,924	12,077	18	20	38	0	229	189	418	3.72	3.19	3.46	4	173	144	1	5	5	21	18		19	90	309	
B方式計																											
B方式12誘導	18	32	76	108			0	0	1	6	7	3.13	7.89	6.48	1	4						2			3	4	
B方式2心音12誘導				0			0	0																			
計	18	32	76	108			0	0	1	6	7	3.13	7.89	6.48	1	4						2			3	4	
B方式計	102	6,185	6,000	12,185	18	20	38	0	230	195	425	3.72	3.25	3.49	4	174	148	1	5	5	21	20		19	93	313	
中学校合計	152	8,176	8,003	16,179	43	37	80	0	219	218	467	3.05	2.72	2.89	4	189	166	5	4	5	21	21		30	111	326	
(24)																											

* 「学校数」() は、「他学年」の検診を実施した学校数(内数)

* 浜松市については事後処置調査票を回収しないため、B方式12誘導の要精密検査計=調査票による受診結果+管理不要+未回収・不明とならない。

高等学 校区分	検査方法	要精密検査の心疾患別内訳												調査票による受診結果														
		受診者数		管理中		要観察		要精密検査		先天性心疾患		後天性心疾患		心電図異常		川崎病後遺症		心筋症		調査票異常等		未 回 取 明						
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	A	B	C	D		E					
A 方式計																												
B 方式12誘導	97	10,200	9,756	19,956	91	85	176	0	0	394	191	585	384	180							10	11	2	59	265	239		
B 方式2心音12誘導	8	1,006	943	1,949	12	9	21	0	0	46	33	79	38	21	3	10	3	1					2	1	7	31	41	
計	105	11,206	10,699	21,905	103	94	197	0	0	440	274	664	422	201	3	10	3	1					12	12	2	66	316	280
B (他学年)																												
B 方式12誘導	6	159	109	268	0	1	1	0	8	4	12	8	4													2	9	1
B 方式2心音12誘導	2	8	10	18		0	0	0	1	2	3	1	1														3	
計	8	167	119	286	0	1	1	0	9	6	15	8	5											2	9	4	4	
B 方式計	105	11,373	10,818	22,191	103	95	198	0	449	230	679	430	206	3	11	4	1					12	12	2	68	325	284	
高等学校合計	105	11,373	10,818	22,191	103	95	198	0	449	230	679	430	206	3	11	4	1					12	12	2	68	325	284	

大学・専門学校

大学・専門学 校区分	検査方法	要精密検査の心疾患別内訳												調査票による受診結果													
		受診者数		管理中		要観察		要精密検査		先天性心疾患		後天性心疾患		心電図異常		川崎病後遺症		心筋症		調査票異常等		未 回 取 明					
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	A	B	C	D		E				
B 方式12誘導	3	71	85	156	1	3	4	0	0	0	0																
大学・専門学校合計	3	71	85	156	1	3	4	0	0	0	0																

特別支援学校

高等学 校区分	検査方法	要精密検査の心疾患別内訳												調査票による受診結果														
		受診者数		管理中		要観察		要精密検査		先天性心疾患		後天性心疾患		心電図異常		川崎病後遺症		心筋症		調査票異常等		未 回 取 明						
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	A	B	C	D		E					
B 方式計	34	824	394	1,218	54	35	89	0	56	13	69	45	11	4	1	5	1					2			1	11	28	29
特別支援学校合計	34	824	394	1,218	54	35	89	0	56	13	69	45	11	4	1	5	1					2			1	11	28	29

施設

施設 区分	検査方法	要精密検査の心疾患別内訳												調査票による受診結果														
		受診者数		管理中		要観察		要精密検査		先天性心疾患		後天性心疾患		心電図異常		川崎病後遺症		心筋症		調査票異常等		未 回 取 明						
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	A	B	C	D		E					
B 方式計	1	17	12	29	3	0	3	0	1	0	1	1	1															1
施設合計	1	17	12	29	3	0	3	0	1	0	1	1	1															1

* 「学校数」() は、「他学年」の検診を実施した学校数(内数)

A方式 小学校 (12誘導)

区 分校 数	校 数	学 年	受診者数		管理中		要二次検診		受診者数		二次検診結果				二次検診有所見者心疾患別内訳(要総観・要精検)				調査票による 受診結果												
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計	男	女	計	先天性 心疾患	後天性 心疾患	心電図異常	心音異常	心音異常 心音異常	山崎病 後遺症	心筋症	脚査票 異常等	A	B	C	D	E		
			計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	
熱海市	7	1.4	119	112	231	5	2	7	1	2	0	1	1	2																	
伊東市	9	1.4	343	330	673	3	4	7	6	4	10	5	4	9																	
下田市	7	1.4	115	97	212	1	0	1	6	2	8	6	2	8																	
伊豆市	7	1.4	131	162	293	0	4	4	6	3	9	5	3	8																	
伊豆の国市	6	1.4	347	360	707	4	6	10	11	10	21	10	10	20																	
富士宮市	22	1.4	1,088	1,029	2,117	14	12	26	45	34	79	44	30	74																	
御殿場市	11	1	365	357	722	3	5	8	8	4	12	8	4	12																	
裾野市	9	1.4	446	417	863	9	6	15	12	5	17	12	4	16																	
東部市計	78		2,954	2,864	5,818	39	39	78	95	63	158	91	58	149																	
賀茂郡東伊豆町	2	1.4	52	52	104	0	1	1	1	1	2	1	1	2																	
河津町	3	1.4	49	43	92	0	0	0	1	0	1	1	0	1																	
南伊豆町	3	1.4	46	37	83	0	0	0	2	1	3	1	1	2																	
松崎町	1	1.4	31	28	59	0	0	0	0	0	0	0	0	0																	
西伊豆町	3	1.4	24	22	46	0	0	0	0	1	1	0	1	1																	
駿東郡小山町	5	1	83	85	168	2	1	3	2	4	6	2	4	6																	
東部郡計	17		266	267	533	2	2	4	6	7	13	5	7	12																	
東部計	95		3,239	3,131	6,370	41	41	82	101	70	171	96	65	161																	
A方式12誘導 小学校計	95		3,239	3,131	6,370	41	41	82	101	70	171	96	65	161																	
(他学年)																															
東部計	9		10	5	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0																	
他学年計	9		10	5	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0																	

A方式 中学校 (12誘導)

市町村名	学 校 数	一 次 検 査											二 次 検 査 結 果											診 察 (医師の診察・聴打診)							調査票による 受診結果							未 回 理 不 要		
		受診者数			管理中			要二次検診					要観察			要精密検査			先天性 心疾患	後天性 心疾患	二次検診有所見者		心疾患別内訳		要精検		調査票 異常等													
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女			計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	A	B	C	D	E					
																																				川崎病 後遺症	心電図異常		心音異常	心電図異常
		熱 海 市	3	1	67	74	141	2	0	2	0	3	3	0	2	2	0	0	1	1.35	0.71				1															
伊 東 市	5	1	189	214	403	2	1	3	4	4	8	4	4	8	0	3	2	1.59	0.93	1.24			1														1	4		
下 田 市	1	1	72	63	135	0	1	1	3	0	3	3	0	3	0	1	0	4.17		0.74			1														1			
伊 豆 市	4	1	100	86	186	0	1	1	0	4	4	0	4	4	0	2	2	4.65	2.15	2.33	1.08		2														1	1		
伊 豆 の 国 市	3	1	178	180	358	2	3	5	6	3	9	6	3	9	0	4	1	3.37	1.67	2.51	1.40		3															2	3	
富 士 宮 市	13	1	592	552	1,144	8	5	13	18	23	41	15	21	36	0	4	7	3.04	4.17	3.58	0.68	1.27	0.96	3	6	1												3	3	5
御 殿 場 市	6	1	402	399	801	4	6	10	13	10	23	12	10	22	0	4	8	3.23	2.91	2.87	1.00	1.00	1.00	3	3	1												3	4	1
裾 野 市	5	1	223	244	467	6	0	6	4	2	6	3	2	5	0	1	2	1.79	0.82	1.28	0.48	0.82	0.64	1	1	1												2	1	
東 部 市 計	40		1,823	1,812	3,635	24	17	41	48	49	97	43	46	89	0	17	19	2.63	2.70	2.67	0.93	1.05	0.99	13	14	4	4								1		11	14	11	
賀茂郡 東伊豆町	2	1	25	34	59						0																													
河 津 町	1	1	21	20	41				0	1	0	1	0	1	0	1	0	4.76	2.44		4.76	2.44		1														1		
南伊豆町	2	1	18	24	42				0	2	2	0	2	2	0	0	1																					1		
松 崎 町	1	1	12	23	35				0	0	1	0	1	1	0	0	1				4.35	2.86		1														1		
西伊豆町	1	1	24	16	40	1	0	1			0																													
駿東郡 小山町	3	1	62	70	132				0	2	2	2	4	4	0	2	3	3.23	2.86	3.03	1.61	2.86	2.27	1	2													1	2	
東 部 郡 計	10		162	187	349	1	0	1	3	5	8	3	5	8	0	2	4	1.85	2.67	2.29	1.23	2.14	1.72	2	4													4	2	
東 部 計	50		1,995	1,999	3,994	25	17	42	51	54	105	46	51	97	0	19	23	2.57	2.70	2.64	0.98	1.15	1.05	15	18	4	4											11	18	13
A方式 12誘導 中学校 計	50		1,995	1,999	3,994	25	17	42	51	54	105	46	51	97	0	19	23	2.57	2.70	2.64	0.98	1.15	1.05	15	18	4	4											11	18	13
(他 学 年)																																								
東 部 計	6		6	4	10				0		0																													
他 学 年 計	6		6	4	10				0		0																													

B方式 幼稚園 (12誘導)

区分 市町村名	対象 学年 数	受診者数		管理中		有所見者内訳		要精密検査の心疾患別内訳												調査票による受診結果					未 回 管理 不要 説明			
		男	女	計	男	女	計	要 精密 検査	先天性 心疾患		後天性 心疾患		心電図異常 心音異常		川崎病 後遺症		心筋症		調査票 異常等		A	B	C	D		E		
									男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女							男	女
浜松市	1	48	46	94	0	0	0	5	1	6	0	0	4	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	5
B方式12誘導幼稚園計	1	48	46	94	0	0	0	5	1	6	0	0	4	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	5

B方式 小学校 (12誘導)

区分 市町村名	対象 学年 数	受診者数		管理中		有所見者内訳		要精密検査の心疾患別内訳												調査票による受診結果					未 回 管理 不要 説明						
		男	女	計	男	女	計	要 精密 検査	先天性 心疾患		後天性 心疾患		心電図異常 心音異常		川崎病 後遺症		心筋症		調査票 異常等		A	B	C	D		E					
									男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女							男	女	男	女	
静岡市	3	1,4	223	242	465	5	4	9	0	9	17	0	0	9	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	7	9	
島田市	14	1,4	660	644	1,304	10	9	19	0	11	21	0	0	11	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	9	9
中部計	17	883	1,769	886	1,769	15	13	28	0	20	38	0	0	20	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	16	18		
浜松市	98	1,4	7,109	6,693	13,802	1	3	4	0	215	405	42	48	1	110	63	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	404	
磐田市	22	1,4	1,517	1,492	2,919	12	16	28	0	47	20	0	0	44	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	30	31	
袋井市	12	1,4	863	812	1,675	14	11	25	0	3	10	1,43	2,30	0	9	12	21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	17	2
湖西市	6	1,4	487	447	934	9	8	17	0	18	11	29	1	16	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	18	5
西部市計	138	9,976	9,354	19,330	36	38	74	0	289	233	522	43	48	1	177	99	37	53	1	0	0	0	0	0	0	0	27	32	15	65	442
周智郡森町	3	1,4	150	130	280	4	0	4	0	0	4	0	0	0	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0
西部郡計	3	150	130	280	4	0	4	0	0	4	4	0	0	0	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0
西部郡計	141	10,126	9,484	19,610	40	38	78	0	289	237	526	43	48	4	177	103	37	53	1	0	0	0	0	0	0	0	27	32	15	69	442
B方式12誘導小学校計	158	11,009	10,370	21,379	55	51	106	0	309	255	564	43	48	4	197	119	37	53	1	0	0	0	0	0	0	27	34	19	85	460	
(他学年)																															
西部郡計	6	他	5	10	0	0	0	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	0	0
他学年計	6	5	10	0	0	0	0	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	0	0	0

*浜松市については専後如置調査票を回収しないため、要精密検査計＝調査票による受診結果＋管理不要＋未回収・不明とならない。

B方式 中学校 (12誘導)

市町村名	学 区 分	校 数	学 年 数	受診者数		管 理 中		要 観 察		要 精 密 検 査		有 所 見 者 内 訳		要精密検査の心疾患別内訳																				調査票による受診結果				
				男	女	男	女	男	女	男	女	計	計	先天性 心疾患	後天性 心疾患	心電図異常	心音異常	川崎病 後遺症	心筋症	調査票 異常等	A	B	C	D	E	未 回												
				78	5,131	4,891	10,022	11	9	20	0	201	167	389	24	23	3	4	148	125	5	5	21	15	10	70	288											
				2	72	53	125	0	1	1	2	2	4	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2										
富士宮市		1	35	35	70	0	1	1	0	2	0	2																										
富士市		1	8	9	17			0			5.71	2.60																										
裾野市		1	0	85	85	0	2	2	0	1																												
東 部 計		3	43	129	172	0	3	3	0	2	4.65	0.78	1.74	2	1	19	13	5	3	3	3			2	10	9												
静岡市		10	437	385	822	3	5	8	0	13	2.97	2.08	2.55	13	5	6	8							2	10	9												
鳥田市		5	356	367	723	4	2	6	0	6	1.69	2.18	1.94	6	8	19	13	5	3	3	3			5	4	5												
中 部 計		15	793	752	1,545	7	14	14	0	19	2.40	2.13	2.27	19	13	5	3	3	3	3	3			7	14	14												
浜松市		57	3,609	3,402	7,011	2	1	3	0	149	4.13	3.53	3.84	24	22	3	4	88	80	5	5			3	17	249												
磐田市		11	775	796	1,571	5	6	11	0	30	3.87	2.89	3.37	1				29	22	1	1			3	21	29												
袋井市		4	465	414	879	4	1	5	0	4	0.86	1.45	1.14	4	5			4	5	1	1			1	4	5												
菊川市		1	26	29	55			0	0	0				0																								
湖西市		5	256	250	506	0	1	1	0	18	7.03	7.20	7.11	17	18			17	18		1				3	28	5											
西 部 市 計		78	5,131	4,891	10,022	11	9	20	0	201	3.92	3.41	3.67	24	23	3	4	148	125	5	5			21	15	10	70	288										
周智郡 森町		2	72	53	125	0	1	1	0	2	2.78	3.77	3.20	2	2			2	2							2	1	1										
西 部 郡 計		2	72	53	125	0	1	1	0	2	2.78	3.77	3.20	2	2			2	2							2	1	1										
西 部 計		80	5,203	4,944	10,147	11	10	21	0	203	3.90	3.42	3.67	24	23	3	4	150	127	5	5			21	15	12	71	289										
B方式12誘導中学校 計		98	6,039	5,825	11,864	18	20	38	0	224	3.71	3.19	3.46	24	23	3	4	171	141	5	5			21	18	19	85	306										
(他学年)																																						
東 部 計					0		0	0	0	0																												
中 部 計		1	1	0	1	0		0																														
西 部 計		17	31	76	107	0		0	0	1	3.23	7.89	6.54	1	4			1	4					2		3	4											
他 学 年 計		18	32	76	108	0		0	0	1	3.13	7.89	6.46	1	4			1	4					2		3	4											

* 浜松市については事後如置調査票を回収しないため、要精密検査計＝調査票による受診結果＋管理不要＋未回収・不明とならない。

B方式 中学校 (2心音12誘導)

区分	市町村名	学校数	対象学年		受診者数		管理中		有所見者内訳		要精密検査の心疾患別内訳										調査票による受診結果													
			男	女	男	女	男	女	男	女	要精密検査	先天性心疾患	後天性心疾患	心電図異常	心音図異常	心電心音図異常	川崎病後遺症	心筋症	調査票異常等	A	B	C	D	E	不要	取明								
			計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計								
藤枝市	2	1	43	46	89	0	0	0	1	3	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2					
中部計	2	43	46	89	0	0	0	1	3	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2						
浜松市	2	1	71	53	124	0	0	0	4	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1			
磐田市	1				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
西部計	2	71	53	124	0	0	0	4	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1		
B方式2心音12誘導中学校計	4	114	99	213	0	0	0	5	3	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	3		
(他学年)																																		
浜松市					0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
西部計					0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
他学年計					0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

B方式 高等学校 (12誘導)

区分	市町村名	学校数	対象学年		受診者数		管理中		有所見者内訳		要精密検査の心疾患別内訳										調査票による受診結果																	
			男	女	男	女	男	女	要精密検査	先天性心疾患	後天性心疾患	心電図異常	心音図異常	心電心音図異常	川崎病後遺症	心筋症	調査票異常等	A	B	C	D	E	不要	取明														
			計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計											
熱海市	1	1	30	13	43	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1				
沼津市	8	1	995	924	1,919	7	14	0	32	17	49	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	17	27		
三島市	1	1	54	56	110	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1			
富士宮市	4	1	387	496	883	6	11	0	10	3	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13		
富士市	7	1	728	655	1,383	7	13	0	21	4	25	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	9	13	
					0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
裾野市	1	1	0	81	81	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	
東都市計	22	2,194	2,225	4,419	4,419	20	40	0	65	27	92	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	27	57

B方式 高等学校 (12誘導)

市町村名	校区	対象学年	受診者数		管理中		有所見者		内 訳		要精密検査の心疾患別内訳											調査票による受診結果					不明												
			男	女	計	男	女	計	男	女	計	先天性心疾患	後天性心疾患	心電図異常		心音図異常		心電心音図異常		川崎病後遺症		心筋症		調査票異常等		A		B	C	D	E	管理不要	回	説明					
														男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女										男	女	男	女	男
該当なし																																							
東京都計	0		0		0			0		0																													
東 部	22	2,194	2,225	4,419	20	20	40	0	65	27	92				64	24									1	3							8	27	57				
静 岡 市	22	2,298	2,293	4,591	23	24	47	0	69	35	103				65	30								3	5									1	11	52	39		
島 田 市	4	314	302	616	3	2	5	0	4	2	6				4	2																	1			5			
焼 津 市	1	118	53	171			0	0	2	2	4				2	2																			2	2			
藤 枝 市	1	207	31	238	3	0	3	0	9	0	9				9																					9			
中 部 市	28	2,937	2,679	5,616	29	26	55	0	83	39	122				80	34								3	5						1	14	54	53					
中 部	28	2,937	2,679	5,616	29	26	55	0	83	39	122				80	34								3	5						1	14	54	53					
浜 松 市	28	3,153	3,001	6,154	27	27	54	0	148	59	207				144	56								4	3							28	131	48					
磐 田 市	6	688	766	1,454	7	3	10	0	41	26	67				41	26																		1	3	36	27		
掛 川 市	4	463	346	809	3	1	4	0	16	14	30				15	14							1														30		
袋 井 市	2	223	206	429	1	1	2	0	9	3	12				8	3							1														12		
御 前 崎 市	1	54	59	113	1	0	1	0	4	6	10				4	6																					6	4	
菊 川 市	2	184	275	459	1	3	4	0	6	15	21				6	15																			2	14	5		
湖 西 市	3	169	133	302	0	3	3	0	14	2	16				14	2																					2	13	1
西 部 市	46	4,934	4,786	9,720	40	38	78	0	238	125	363				232	122							6	3							1	35	200	127					
周 智 郡 森 町	1	135	66	201	2	1	3	0	8	0	8				8																			2	4	2			
西 部 郡	1	135	66	201	2	1	3	0	8	0	8				8																				2	4	2		
西 部 市	47	5,069	4,852	9,921	42	39	81	0	246	125	371				240	122							6	3									1	37	204	129			
B方式12誘導高等学校計	97	10,200	9,756	19,956	91	85	176	0	394	191	585				384	180							10	11								2	59	285	239				

B方式 高等学校 (12誘導) 他学年

市区町村名	校数	対象学年	受診者数		管理中		要観察		要精密検査		要精密検査の心疾患別内訳												調査票による受診結果					
			男	女	男	女	男	女	男	女	計	先天性心疾患	後天性心疾患	心電図異常	心電図異常	心電図異常	心電図異常	川崎病後遺症	心筋症	調査票異常等	A	B	C	D	E			
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
沼津市	1	他	8	8	0	16	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
富士市	1	他	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
東部市計	2		9	8	0	17	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
該当なし																												
東部郡計	0				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
東部計	2		9	8	0	17	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
島田市	1	他	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
中部市計	1		1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
中部計	1		1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
浜松市	2	他	1	18	19	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
磐田市	1	他	148	83	231		0	0	0	7	4	11	4	73	4	82	4	76	7	4	7	4	7	4	1	9	1	
西部計	3		149	101	250	0	1	0	0	7	4	11	4	73	4	82	4	76	7	4	7	4	7	4	1	9	1	
他学年計	6		159	109	268	0	1	0	0	8	4	12	5	53	3	67	4	48	8	4	8	4	8	4	2	9	1	

B方式 高等学校 (2心音12誘導)

市区町村名	校数	対象学年	受診者数		管理中		要観察		要精密検査		要精密検査の心疾患別内訳												調査票による受診結果						
			男	女	男	女	男	女	男	女	計	先天性心疾患	後天性心疾患	心電図異常	心電図異常	心電図異常	心電図異常	川崎病後遺症	心筋症	調査票異常等	A	B	C	D	E				
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
島田市	1	1	166	33	199	1	0	0	0	0	0	4	1	2	41	2	01	4	4	4	4	4	4	4	1	3			
藤枝市	2	1	273	249	522	1	2	3	0	21	13	34	7	69	5	22	6	51	17	9	1	2	1	1	2	1	6	18	10
中部計	3		439	282	721	2	2	4	0	25	13	38	5	69	4	61	5	27	21	9	1	2	1	1	2	1	7	21	10
浜松市	5	1	567	661	1,228	10	7	17	0	21	20	41	3	70	3	03	3	34	17	12	2	8	2	2	8	2	10	31	
西部計	5		567	661	1,228	10	7	17	0	21	20	41	3	70	3	03	3	34	17	12	2	8	2	2	8	2	10	31	
B方式2心音12誘導	8		1,006	943	1,949	12	9	21	0	46	33	79	4	57	3	50	4	05	38	21	3	10	3	1	2	1	7	31	41

B方式 高等学校 (2心音12誘導) 他学年

区分 市町村名	学校数	对象学年	受診者数		管理中		有所見者内訳			要精密検査の心疾患別内訳										調査票による受診結果														
			男	女	男	女	計	要観察	要精密検査	先天性心疾患		後天性心疾患		心電図異常		心電音異常		川崎病後遺症		心筋症		調査票異常等		A	B	C	D	E	未 回 取 明					
										男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女							男	女	男	女	男
島田市		他		0	0			0																										
藤枝市		他		0	0			0																										
中部計	0		0	0	0			0																										
浜松市	2	他	8	10	18	0	0	0	1	2	3	0	12.50	20.00	16.67																			3
磐田市		他		0	0			0																										
西部計	2		8	10	18	0	0	0	1	2	3	0	12.50	20.00	16.67																			3
他学年計	2		8	10	18	0	0	0	1	2	3	0	12.50	20.00	16.67																			3

B方式 大学・専門学校 (12誘導)

区分 市町村名	学校数	对象学年	受診者数		管理中		有所見者内訳			要精密検査の心疾患別内訳										調査票による受診結果														
			男	女	男	女	計	要観察	要精密検査	先天性心疾患		後天性心疾患		心電図異常		心電音異常		川崎病後遺症		心筋症		調査票異常等		A	B	C	D	E	未 回 取 明					
										男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女							男	女	男	女	
静岡市				0	0			0																										
中部計	0			0	0			0																										
浜松市	2	1	70	72	142	1	2	3	0	0	0																							
磐田市	1	1	1	13	14	0	1	1																										
西部計	3		71	85	156	1	3	4	0	0	0																							
B方式12誘導 大学専門学校計	3		71	85	156	1	3	4	0	0	0																							

B方式 特別支援学校

市町村名	受診者数		管理中		有所見者内訳				要精密検査の心疾患別内訳												調査票による受診結果					
	男	女	男	女	要精密検査		先天性心疾患	後天性心疾患	先天性心疾患		後天性心疾患		川崎病後遺症		心臓病後遺症		心臓病		調査票異常等	A	B	C	D	E		
					男	女			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女							男	女
沼津市	48	27	75	1	2	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2		
富士宮市	15	11	26	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1		
富士市	64	37	101	4	8	0	9	1	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10		
御殿場市	34	18	52	2	3	0	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2		
東都府計	161	93	254	7	15	0	14	2	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	12	
田方郡函南町	7	7	14	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
東都府計	168	100	268	7	16	0	14	2	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	12	
静岡市	179	91	270	16	10	26	6	8	11	4	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	
島田市	4	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
焼津市	9	9	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
藤枝市	63	26	89	5	1	6	0	3	1	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	
牧之原市																										
中部市計	255	126	381	21	32	0	16	5	21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	9	
榛原郡吉田町	28	13	41	2	0	2	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
中部郡計	28	13	41	2	0	2	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	
中部計	283	139	422	23	34	0	16	6	22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	9	
浜松市	216	87	303	12	9	21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	
磐田市	9	5	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
掛川市	58	16	74	5	1	6	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
袋井市	54	26	80	5	3	8	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
御前崎市	7	5	12	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
湖西市	29	16	45	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	
西部市計	373	155	528	24	15	30	0	25	5	31	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	6	
西部計	373	155	528	24	15	30	0	25	5	31	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	6	
呂方特別支援学校計	824	394	1,218	54	35	89	0	56	13	69	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11	28	

B方式 施設

市町村名	受診者数		管理中		有所見者内訳				要精密検査の心疾患別内訳												調査票による受診結果					
	男	女	男	女	要精密検査		先天性心疾患	後天性心疾患	先天性心疾患		後天性心疾患		川崎病後遺症		心臓病後遺症		心臓病		調査票異常等	A	B	C	D	E		
					男	女			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女								
伊東市	17	12	29	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
東都府計	17	12	29	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	
浜松市																										
磐田市																										
西部計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
B方式施設計	17	12	29	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	

3) 学校貧血検査

〔はじめに〕

学校貧血検査は、成長著しいこの時期において、健康状態を把握する指標の一つとして有意義な検査である。

当協会で令和4年度に実施した学校貧血検査は28,965人であり、そのうち把握しているだけでも184人の貧血と診断された児童を見つけている。本検査は、自動血球計数機 XE-2100L(シスメックス製)にておこない、赤血球数(RBC)、血色素量(HGB)、赤血球容積比(HCT)といった赤血球系の貧血検査に加え、白血球数(WBC)についても検査をしている。また、これらの測定値から平均赤血球容積(MCV)、平均赤血球血色素量(MCH)、平均赤血球血色素濃度(MCHC)を算出し、貧血の種類の鑑別に役立てている。

〔成績〕

当協会の貧血検査の判定基準を表1に示した。赤血球数では性差が、血色素量と赤血球容積比では性差と年齢差が見られるので、性別及び学年別の基準の設定を行っている。

貧血検査受検者数の年次推移を表2に示した。令和4年度は、令和3年度の学校保健関係29,553人と比べ588人の減少となった。平成27年度以降、児童数の減少などが影響し持続的な減少傾向を示している。成人保健関係は131,183人と、昨年度に比べ1,172人の減少となり、総数160,148人の内訳は、学校保健関係が全体の18.1%、成人保健関係が81.9%という比率であった。

表3・4は、貧血検査受検者のうち要受診となった対象者(以下、要受診者)の年次推移を男女別に示したものである。この要受診者の比率をグラフにしたのが、図1・2である。令和4年度の要受診者の比率は、小学生では男子1.0%、女子0.8%、中学生では男子1.2%、女子3.8%、高校生では男子1.0%、女子4.3%の割合であった。小学生に比べ、中学生・高校生では要受診者の出現頻度が高く、特に女子に高い傾向が認められた。

〔追跡調査結果〕

表5は、要受診者が医療機関で受診後、診断結果を記載した事後処置調査表の回答率を示したものである。今年度は、全体で48.0%の回答率が得られた。診断結果を把握することで、本検査の意義を客観的に評価でき、さらに高精度の検査に繋げることが可能となる。

表6・7は、事後処置調査表による回答を男女別に赤血球系低値及び高値、白血球数高値及び低値の4つに分類しまとめたものである。回答の内訳をみると、男女合わせた総数717人のうち赤血球系低値が462人であり、全体の64.4%を占めている。また、受検者数に対する要受診者の比率を算出してみると、赤血球系低値は男子全体の13,919人中のうち51人(0.4%)、女子全体の14,076人中のうち411人(2.9%)であり、赤血球系高値は男子全体で32人(0.2%)、女子全体で70人(0.5%)であった。白血球数高値は男子全体で59人(0.4%)、女子全体で82人(0.6%)であり、白血球数低値は男子全体で4人(0.03%)、女子全体で8人(0.06%)と、赤血球系低値以外は要受診者の比率に有意な男女差はみられなかった。

また、医療機関を受診した者について調べると、赤血球系低値では男子全体で25人、そのうち異常なしが2人(8.0%)、貧血群が13人(52.0%)、経過観察と診断された者は10人(40.0%)であった。一方、女子全体では207人のうち異常なしが10人(4.8%)、貧血群が163人(78.7%)、経過観察と診断された者は34人(16.4%)であった。赤血球系高値では、男女45人のうち、異常なしが37人(82.2%)、経過観察が8人(17.8%)であった。

白血球数高値では、男女61人のうち、異常なしが50人(82.0%)、経過観察が8人(13.1%)、その他が3人(4.9%)であった。白血球数低値では、男女6人のうち、異常なしが4人(66.7%)、経過観察が2人(33.3%)であった。

この結果から、特に赤血球系低値で受診した男女232人のうち176人(75.9%)が貧血群と診断

され、過観察とされた者が44人(25.0%)となり、これらを合わせると当協会にて調査した医療機関に受診した者のうち94.8%は治療もしくは生活上の改善が必要といえる。このことは、現在用いている基準値が極めて適正に働いていると考えられる。

〔年齢別平均値及び2SDの範囲〕

平成19年度より、学年・性別毎判定基準値方式へ変更のため、学校保健関係と成人保健関係に分離した。

表8・9は、令和4年度の検査成績を男女別学年別に分け、平均値と標準偏差(SD)を計算し、基準範囲(平均値±2SD)として表したものである。

また、図3・4は、そのうちの白血球数と血色素量をグラフにしたものである。

白血球数の基準値は、小学3年生以下の年齢で他の年代より高めになる傾向が認められているため、

判定基準もやや高めに設定してある。

血色素量の基準値は、学年と性別ごとに差がみられ、特に男子は成長期にあたる中学1年生から高校1年生にかけて著しい上昇傾向が認められるため、判定基準もそれらに準じた設定をしてある。

〔まとめ〕

貧血検査の要受診率は、近年ほぼ横這いの状態である。これは、食育が注目される一方で、朝食を抜いたりダイエットをするなど、十分な栄養が取れていない子どもがいることなども原因のひとつと推測される。

今回の追跡調査結果を今後の保健指導に活用していただき、また充実した学校生活を送るためにも、学校からの受診勧奨に力を入れていただければ幸いである。(尾崎 栄世)

表1 貧血(血液)検査成績判定基準

(平成19年3月1日より)

種目 性別・年齢		判定区分 (単位)	血色素量 (HGB)	赤血球容積比 (HCT)	赤血球数 (RBC)	赤血球恒数 (MCV) fL (MCH) ㎎ (MCHC) %	白血球数 (WBC)
			g/dl	%	μl		μl
男	中学3年以上	要受診 要注意 正常	11.9以下・18.1以上 12.0~13.4 13.5~18.0	35.9以下・54.1以上 36.0~39.9 40.0~54.0	<正常範囲> 400~570万	・MCV 小学6年以下 要受診 69.0以下 111.0以上 要注意 { 100.1 ~ 110.9 69.1 ~ 74.9 正常 75.0 ~ 100.0 中学1年以上 要受診 69.0以下 111.0以上 要注意 { 100.1 ~ 110.9 69.1 ~ 80.9 正常 81.0 ~ 100.0	・大学・短大等以上 要受診 { 2,900以下 10,100以上 要注意 { 3,000~ 3,400 9,100~10,000 正常 3,500~ 9,000
	中学1・2年	要受診 要注意 正常	11.4以下・17.1以上 11.5~12.4 12.5~17.0	34.9以下・51.1以上 35.0~36.9 37.0~51.0			・小学3年~高校 要受診 { 2,900以下 12,000以上 要注意 { 3,000~ 3,400 10,100~11,900 正常 3,500~10,000
	小学生	要受診 要注意 正常	10.9以下・16.1以上 11.0~11.4 11.5~16.0	32.9以下・48.1以上 33.0~34.4 34.5~48.0			・MCH <正常範囲> 25.0~35.0 ・MCHC <正常範囲> 31.0~35.4
女	大学・短大等以上	要受診 要注意 正常	9.9以下・16.1以上 10.0~11.9 12.0~16.0	31.9以下・48.1以上 32.0~34.9 35.0~48.0	<正常範囲> 370~510万	~計算式~ $MCHC = \frac{HCT}{RBC} \times 1000$ $MCH = \frac{HGB}{RBC} \times 1000$ $MCHC = \frac{HGB}{HCT} \times 100$	・小学2年以下 要受診 { 2,900以下 12,500以上 要注意 { 3,000~ 3,400 11,100~12,400 正常 3,500~11,000
	中学校・高等学校	要受診 要注意 正常	10.9以下・16.1以上 11.0~11.9 12.0~16.0	31.9以下・48.1以上 32.0~34.9 35.0~48.0			
	小学校	要受診 要注意 正常	10.9以下・16.1以上 11.0~11.4 11.5~16.0	32.9以下・48.1以上 33.0~34.4 34.5~48.0			

表2 貧血検査受検者数の年次推移

	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
学校保健関係	44,537	40,490	39,636	35,872	34,973	31,402	29,553	28,965
成人保健関係	112,687	113,182	121,575	129,071	134,267	130,319	132,355	131,183
合計	157,224	153,672	161,211	164,943	169,240	161,721	161,908	160,148
								18.1%
								81.9%
								100.0%

表3 貧血受診者年次推移 (男子)

年度	小学校		中学校		高等学校		
	受診者数	率	受診者数	率	受診者数	率	
平成15	2,352	9	59	0.8	115	0.8	
16	2,387	9	62	0.9	121	0.8	
17	2,512	3	56	0.9	106	0.8	
18	2,209	5	49	0.7	125	1.0	
19	1,209	2	82	1.0	13,409	88	0.7
20	1,411	3	82	1.0	13,409	88	0.7
21	1,312	3	55	0.7	13,214	85	0.6
22	1,298	1	68	1.0	13,162	95	0.7
23	1,345	15	97	1.3	13,470	179	1.3
24	1,244	10	107	1.5	13,050	195	1.5
25	1,231	3	62	0.9	13,156	58	0.4
26	1,207	17	109	1.5	13,398	175	1.3
27	1,205	14	121	1.7	12,781	185	1.4
28	1,279	13	98	1.4	12,350	171	1.4
29	1,222	12	103	1.6	11,504	162	1.4
30	1,092	13	71	1.5	11,265	161	1.4
令和元	845	12	14	1.4	10,868	149	1.4
2	443	7	62	1.2	9,459	100	1.1
3	452	2	4	0.4	4,585	49	1.1
4	402	4	50	1.2	9,233	92	1.0

表4 貧血受診者年次推移 (女子)

年度	小学校		中学校		高等学校		
	受診者数	率	受診者数	率	受診者数	率	
平成15	2,262	10	228	2.8	16,860	602	3.6
16	2,245	9	255	3.2	15,567	631	4.1
17	2,436	5	225	3.1	14,503	623	4.3
18	2,098	8	194	2.5	13,643	586	4.3
19	1,173	4	195	2.3	13,641	551	4.0
20	1,329	1	224	2.5	13,171	511	3.9
21	1,176	3	197	2.4	13,629	523	3.8
22	1,252	1	178	2.2	13,317	458	3.4
23	1,184	9	244	2.9	13,757	592	4.3
24	1,190	14	257	3.1	13,242	618	4.7
25	1,174	2	168	2.1	12,917	427	3.3
26	1,171	12	262	3.1	13,019	543	4.2
27	1,117	15	285	3.5	12,678	517	4.1
28	1,200	13	240	3.3	11,280	506	4.5
29	1,113	10	276	3.9	11,167	473	4.2
30	1,060	6	165	2.9	10,519	408	3.9
令和元	856	8	186	3.1	10,255	377	3.7
2	391	8	181	3.1	9,084	317	3.5
3	423	3	165	3.1	8,467	294	3.5
4	396	3	195	3.8	8,582	373	4.3

表5 事後処置調査表による小・中・高校別回答率

区分	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度	
	要受診者数	回答率(率)	要受診者数	回答率(率)	要受診者数	回答率(率)	要受診者数	回答率(率)	要受診者数	回答率(率)	要受診者数	回答率(率)
小学校	22	19(86.3)	19	14(73.7)	20	15(75.0)	7	3(42.9)	5	1(20.0)	7	4(57.1)
中学校	379	221(58.3)	242	128(52.9)	261	153(58.6)	243	129(53.1)	214	102(47.7)	245	115(46.9)
高等学校	635	635(48.3)	589	261(45.9)	526	289(51.1)	417	191(45.8)	371	161(43.4)	465	225(48.4)
計	1,036	547(52.8)	830	403(48.6)	807	437(54.2)	667	323(48.4)	590	264(44.7)	717	344(48.0)

表6 事後処置調査表による回答 (男子)

区分	受診者	要受診者の内訳		回答者 〔医療機関を受診した者〕		回答内容 (診断内容)						
		異常なし	貧血群	経過観察	増多症	感染症	減少症	その他				
小学校	402	4	赤血球系低値 赤血球系高値 白血球数高値 白血球数低値	1 3 2	1 2							
中学校	4,284	50	赤血球系低値 赤血球系高値 白血球数高値 白血球数低値	22 9 19 10	12 2 10 8	2 2 10 2	3 7					
高等学校	9,233	92	赤血球系低値 赤血球系高値 白血球数高値 白血球数低値	28 23 37 4	13 11 12 3	10 3	3					
合計	13,919	146	赤血球系低値 赤血球系高値 白血球数高値 白血球数低値	51 32 59 4	25 13 24 3	10 9 22 2	2					

表7 事後処置調査表による回答 (女子)

区分	受診者	要受診者の内訳		回答者 〔医療機関を受診した者〕		回答内容 (診断内容)						
		異常なし	貧血群	経過観察	増多症	感染症	減少症	その他				
小学校	396	3	赤血球系低値 赤血球系高値 白血球数高値 白血球数低値	1 1 1	1 1							
中学校	5,098	195	赤血球系低値 赤血球系高値 白血球数高値 白血球数低値	143 17 33 2	72 4 15 2	3 4 12 2	59 10					1
高等学校	8,582	373	赤血球系低値 赤血球系高値 白血球数高値 白血球数低値	267 52 48 6	135 27 21 3	7 24 15 3	104 34					2
合計	14,076	571	赤血球系低値 赤血球系高値 白血球数高値 白血球数低値	411 70 82 8	207 32 37 3	10 28 28 3	163 4 6 3					3

表8 令和4年度 貧血検査成績年齢別平均値及び2SDの範囲 (男性) (含:定期健康診断)

学校保健関係

Table with 18 columns: 学年区分, WBC, RBC, HGB, HCT, MCV, MCH, MCHC. Each column has sub-columns for '対象者(人)', '平均', and '2SD'. Rows include age groups (小1~3 to 高3).

成人保健関係

Table with 18 columns: 年齢(歳), WBC, RBC, HGB, HCT, MCV, MCH, MCHC. Each column has sub-columns for '対象者(人)', '平均', and '2SD'. Rows include age groups (19 to 65~69).

※平成19年度より、学校保健関係は学年・性別毎判定基準値方式へ変更の為、成人保健関係と分離

表9 令和4年度 貧血検査成績年齢別平均値及び2SDの範囲 (女性) (含:定期健康診断)

学校保健関係

Table with 18 columns: 学年区分, WBC, RBC, HGB, HCT, MCV, MCH, MCHC. Each column has sub-columns for '対象者(人)', '平均', and '2SD'. Rows include age groups (小1~3 to 高3).

成人保健関係

Table with 18 columns: 年齢(歳), WBC, RBC, HGB, HCT, MCV, MCH, MCHC. Each column has sub-columns for '対象者(人)', '平均', and '2SD'. Rows include age groups (19 to 65~69).

※平成19年度より、学校保健関係は学年・性別毎判定基準値方式へ変更の為、成人保健関係と分離

〈学校保健〉

図1 貧血要受診者率の年次推移（男子）

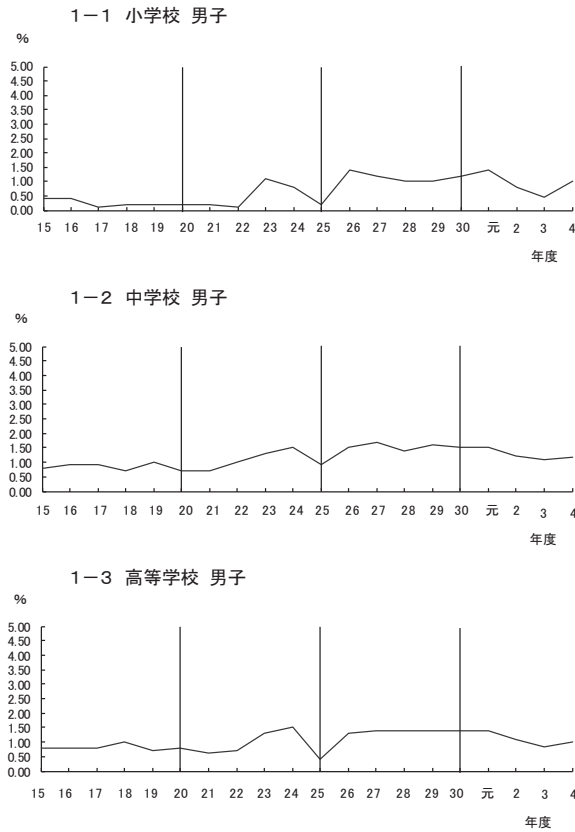


図2 貧血要受診者率の年次推移（女子）

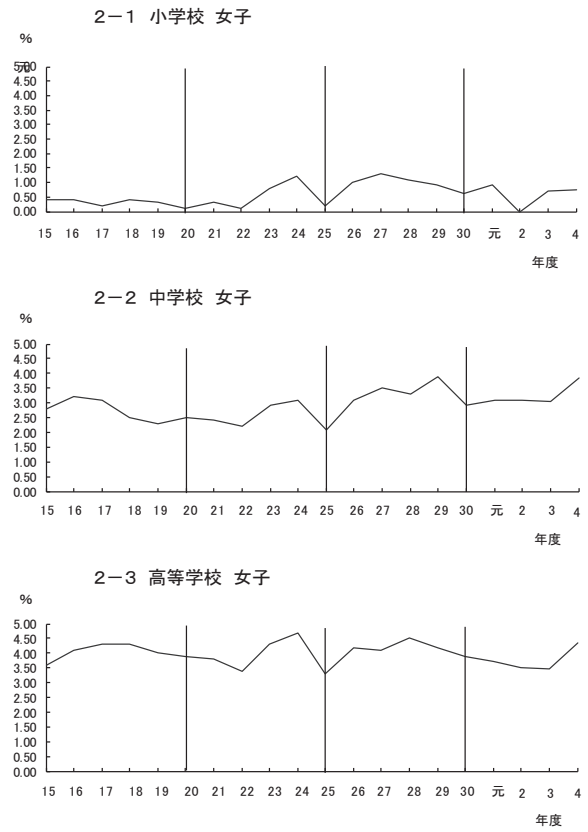


図3 令和4年度 年齢・性別平均値及び2SDの範囲(白血球数) (含:定期健康診断)

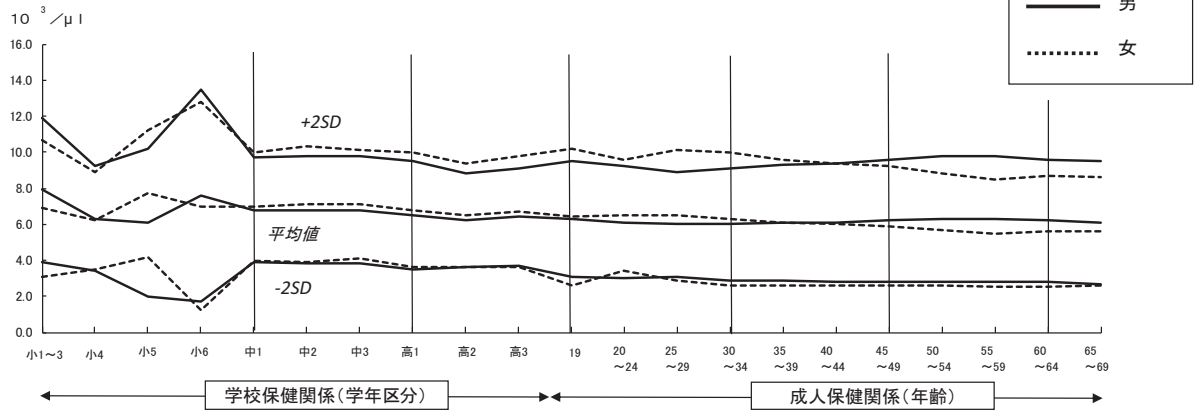
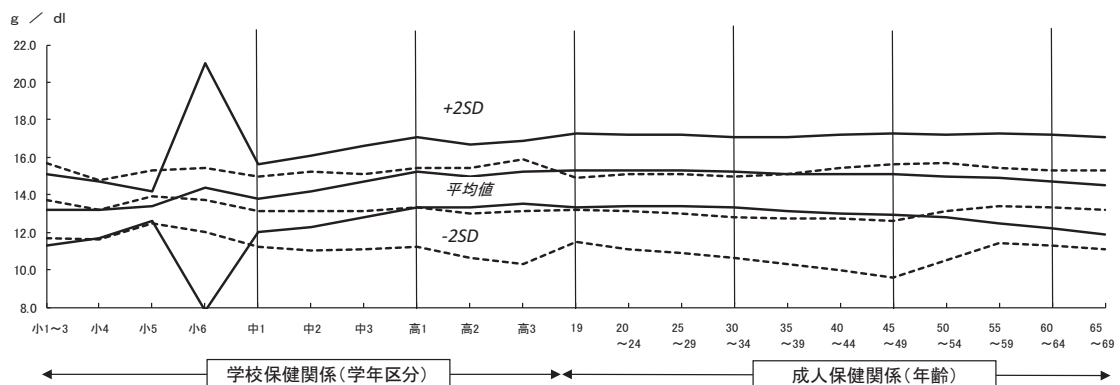


図4 令和4年度 年齢・性別平均値及び2SDの範囲(血色素量) (含:定期健康診断)



※平成19年度より、学校保健関係は学年・性別毎判定基準値方式へ変更の為、成人保健関係と分離

表10 貧血検査成績学校別集計表

区分 団体名	学校数	貧血検査				貧血以外の要受診者と調査表による受診結果				貧血以外の要受診者による受診結果				貧血以外の要受診者による受診結果																						
		受検者数		要受診者数		調査表による受診結果		貧血以外の要受診者による受診結果		貧血以外の要受診者による受診結果		貧血以外の要受診者による受診結果		貧血以外の要受診者による受診結果																						
		人数	(%)	人数	(%)	異常なし (%)	貧血症 (%)	経過観察 (%)	その他 (%)	不明 (%)	赤系白血球値	異常なし	増多症	経過観察	その他	不明	白血球値	異常なし	増多症	感染症	経過観察	その他	不明	白血球値	異常なし	増多症	経過観察	その他	不明							
小学校	19	男	402	2	0.5	1				1							3	2					1													
		女	396	6	1.5	1				0.2	1						1	1																		
		計	798	8	1.0	2				0.3	2						4	3					1													
中学校	107	男	4,284	336	7.8	22	3	0.05	0.1	0.2	7	10				9	1	8				2	9													
		女	5,098	398	7.8	143	3	0.59	1.0	0.2	10	7				17	4	12				2	18													
		計	9,382	734	7.8	165	5	1.2	0.2	0.4	17	14				26	5	20				4	27													
高等学校	86	男	9,233	359	3.9	28	10	0.1	0.1	0.0	3	15				23	8	12					25	4												
		女	8,582	639	7.4	267	7	1.04	1.2	0.3	24	132				52	24	25				2	27													
		計	17,815	998	5.6	554	17	1.2	0.6	0.2	47	282				75	32	37				2	52													
特別支援学校 施設	29	男	630	55	8.7	6	3	0.5	0.2	2	1				7	4	2					3	1													
		女	340	44	12.9	9	5	1.5	0.5	0.3	4	4				5	1	4					1	1												
		計	970	99	10.2	15	8	0.8	0.2	0.5	6	5				12	5	6					4	2												
合計	241	男	14,549	752	5.2	57	16	0.1	0.1	12	27				39	13	21					5	1													
		女	14,416	1,087	7.5	420	10	1.68	1.2	0.2	34	208				75	29	42					5	3												
		計	28,965	1,839	6.3	997	26	1.84	0.6	0.2	61	477				114	42	63					10	4												

表11 貧血検査成績学年別集計表

区分 団体名	実施学年	貧血検査										貧血以外の要受診者との調査表による受診結果																		
		貧血検査					調査表による受診結果					受診結果					受診結果													
		受診者数 人数	要注意 人数	%	人数	%	貧血 異常し	貧血症	経過観察	その他	不明	赤系 血球値	異常し	増多症	経過観察	その他	不明	白血球 値	異常し	増多症	経過観察	その他	不明	白血球 値	異常し	増多症	経過観察	その他	不明	
小学校	4	394	2	0.5	1	0.3					1	1	1					2	2											
中学校	5	392	6	1.5	1	0.3																								
高等学校	6	7																												
小学校計		402	2	0.5	1	0.2					1	1	1					3	2											
中学校計		386	6	1.5	1	0.3					1	1	1					1	1											
高等学校計		2,693	239	8.7	16	0.6	1	2	7	6	5	1	3	10	4	2	4	10	4	4	2	4								
小学校	1	3,302	24	0.7	88	2.7	3	44	5	36	10	3	4	15	7	2	1	15	7	3	2	1	5	1						
中学校	2	1,026	43	4.2	5	0.5	1	1	1	3	4	1	4	7	3	4		4	3	4	4	4								
高等学校	3	1,037	83	8.0	35	3.4	10	3	3	22	3	1	4	15	4	1	1	15	4	4	3	11	1							
小学校計		565	59	10.3	1	0.2					1	1	1	13	4	1		3	3	1	2	2								
中学校計		789	71	9.4	20	2.6	5	2	3	7	10	9	1	19	8	2	1	7	19	8	2	1	18	2						
高等学校計		5,098	398	7.8	143	2.8	3	59	10	71	17	4	3	13	33	12	2	13	33	12	2	1	18	2						
小学校	1	8,796	340	3.9	27	0.3	7	96	23	15	23	8	3	12	36	12	4	12	36	12	4	2	24	1						
中学校	2	8,343	614	7.4	254	3.0	7	96	23	128	50	22	3	25	48	15	2	25	48	15	4	2	27	5						
高等学校	3	362	16	4.4	1	0.3																								
小学校計		179	22	12.3	10	5.6	6	1	1	3	1	1																		
中学校計		75	3	4.0	2	2.7																								
高等学校計		60	3	5.0	3	5.0																								
小学校	1	9,233	359	3.9	28	0.3	10	3	10	3	15	8	3	12	37	12	4	12	37	12	4	2	25	4						
中学校	2	8,582	639	7.4	267	3.1	7	104	24	132	52	24	3	25	48	15	4	25	48	15	4	2	27	6						
高等学校	3	13,919	697	5.0	51	0.4	2	13	10	28	32	9	4	19	59	22	2	19	59	22	2	3	35	4						
合計		14,076	1,045	7.4	41	2.9	10	163	34	204	70	28	4	38	82	28	3	38	82	28	6	3	45	8						

表12 貧血検査成績表
小学校

区分 市町村名	学校数	実施学年	貧血検査										貧血以外の要受診者との調査表による受診結果																	
			貧血検査					調査表による受診結果					受診結果					受診結果												
			受診者数 人数	要注意 人数	%	人数	%	貧血 異常し	貧血症	経過観察	その他	不明	赤系 血球値	異常し	増多症	経過観察	その他	不明	白血球 値	異常し	増多症	経過観察	その他	不明	白血球 値	異常し	増多症	経過観察	その他	不明
伊豆の国市	6	4.5	178	2	1.1																									
裾野市	9	4.5	174	3	1.7																									
東部計	15		387	2	0.5	1	0.3																							
榛原郡川根本町	4	4.5	378	6	1.6	1	0.3																							
中部計	4		15																											
中部計	4		18																											
総計	19		402	2	0.5	1	0.2																							
			386	6	1.5	1	0.3																							

中学校

区分 市町村名	学校数	実施学年	貧血検査		貧血検査による受診結果		貧血以外の要受診者と調査表による受診結果					受診結果																
			要受診		貧血症		結核		結核		結核		結核		結核		結核											
			人数	%	人数	%	異常なし	貧血症	結核過剰	不明	赤系血球値	異常なし	増多症	結核過剰	不明	白血球値	異常なし	増多症	結核過剰	不明	白血球値	異常なし	増多症	結核過剰	不明			
伊東市	5	1	162	11.68	4	2.5				2	1																	
伊豆市	4	2・3	171	30.169	6	3.4	1	1		4																		
伊豆の国市	3	1・2	87	2.23	1	1.1																						
富士宮市	14	1~3	179	8.45	1	0.6																						
富士市	1	1	33	2.61	2	1.1																						
裾野市	6	1・2	215	22.102	1	0.5																						
賀茂郡河津町	1	1	21	1.48	1	4.8																						
東部計	34		705	46.65	8	1.1	1	3		4	2	1	1															
静岡市	1	3	127	11.87	5	3.9																						
藤枝市	2	1・2	46	5.109																								
榛原郡川根本町	1	1	47	5.106																								
中部計	4		65	7.108																								
浜松市	51	1~3	1,962	185.94	9	0.5	1	4		3	4	1	1															
磐田市	11	1~3	1,994	159.80	58	2.9	2	35		17	1	1	1															
袋井市	4	2	973	71.73	5	0.5	1	1		3	3	3	3															
周智郡森町	2	1~3	1,040	95.91	26	2.5		6		16	7	1	1															
西部計	68		365	14.38																								
総計	106		383	33.86	18	4.7		6		12																		

高等学校

区分 市町村名	学校数	実施学年	貧血				検査				貧血以外の要受診者との調査表による受診結果				受診結果					
			要留意		要受診		異常		貧血症		経過観察		その他		異常		経過観察		その他	
			人数	%	人数	%	異常	不明	貧血症	経過観察	その他	異常	経過観察	その他	異常	経過観察	その他	異常	経過観察	その他
性別	人数	%	人数	%	異常	不明	貧血症	経過観察	その他	異常	経過観察	その他	異常	経過観察	その他	異常	経過観察	その他		
熱海市	1	1	30	1	3.3															
沼津市	7	1~3	13	1	7.7	2	15.4													
三島市	1	1	777	84	10.8	25	3.2			16										
富士宮市	1	1	50	1	2.0															
富士市	6	1~3	55	3	5.5	4	7.3													
裾野市	1	1	240	4	1.7															
東部計	17		286	11	3.8	7	2.4			7										
静岡市	25	1	630	25	4.0	1	0.2													
島田市	2	1	540	35	6.5	10	1.9			5										
焼津市	1	1	81	5	6.2	6	7.4													
藤枝市	2	1~3	1,830	66	3.6	1	0.1													
中部計	30		1,752	130	7.9	54	3.1	1	12	38										
浜松市	25	1~3	1,878	57	3.0	6	0.3			2										
磐田市	6	1~3	1,766	104	5.9	56	3.2	3	28	1										
掛川市	4	1	286	11	3.8															
袋井市	2	1	118	8	6.8	2	1.7													
御前崎市	1	1	118	7	5.9															
菊川市	2	1	53	3	5.7															
湖西市	3	1	280	14	5.0															
周智郡	1	1	254	31	12.2	5	2.0			5										
西部計	44		2,562	89	3.5	6	0.2	2	2	3										
総計	91		2,191	146	6.7	63	2.9	3	28	31										
			3,022	115	3.8	17	0.6	6	2	9										
			2,831	210	7.4	90	3.2	3	45	15										
			670	41	6.1	1	0.1			1										
			764	58	7.6	22	2.9			27										
			444	28	6.3	2	0.5			11										
			339	23	6.8	8	2.4			2										
			203	13	6.4	4	2.0			3										
			51	2	3.9					4										
			59	6	10.2	8	13.6			1										
			184	4	2.2					6										
			273	32	11.7	14	5.1			5										
			116	2	1.7					1										
			103	6	5.8	4	3.9			2										
			135	1	0.7					1										
			67	6	9.0															
			4,841	204	4.2	21	0.4	7	2	12										
			4,639	354	7.6	150	3.2	3	64	20										
			9,233	359	3.9	28	0.3	10	3	15										
			8,582	639	7.4	267	3.1	7	104	24										

特別支援学校

区分 市町村名	学校数	実施学年	貧血検査				貧血以外の要受診者と調査表による受診結果																			
			要受診		検査		受診結果			受診結果			受診結果			受診結果										
			人数	%	人数	%	異常し	貧血症	経観 過察	その他	不明	赤系 血球値	異常し	増多症	感染症	経観 過察	その他	不明	白血 球値	異常し	増多症	感染症	経観 過察	その他	不明	
沼津市	3	1~4	15	21	13.3																					
富士宮市	1	1	15	21	13.3																					
富士市	1	1~4	10	21	20.0																					
西条市	1	1~4	8	35	14.3																					
西条市	1	1	17	41	23.5																					
西条市	1	1	7																							
西条市	1	1	7																							
東部計	6		67	9	13.4																					
静岡市	6	1~6	47	6	12.8																					
焼津市	1	2	164	17	10.4	0.6																				
焼津市	1	2	85	12	14.1	4.7																				
焼津市	1	2	10																							
焼津市	1	2	8			12.5																				
藤枝市	1	2	30	21	6.7																					
藤枝市	1	2	19	21	10.5																					
中部計	8		204	10	9.3	0.5																				
浜松市	8	1~6	112	14	12.5	5	4.5																			
磐田市	1	1~3	186	12	6.5	2.2																				
磐田市	1	1~3	97	12	12.4																					
磐田市	1	1~3	19	11	5.3																					
磐田市	1	1~3	9	31	11.1																					
袋井市	1	1~5	47	31	6.4																					
袋井市	1	1~5	26	21	7.7																					
掛川市	1	1~3-5	48	7	14.6	2.1																				
掛川市	1	1~3-5	19	31	15.8																					
御前崎市	1	1~3	9																							
御前崎市	1	1~3	7	21	28.6	2																				
湖西市	1	1~4	27	11	3.7																					
湖西市	1	1~4	13	31	23.1	2																				
西部計	13		336	24	7.1	5	1.5																			
西条市	1	1~4	171	23	13.5	4	2.3																			
西条市	1	1~4	607	52	8.6	6	1.0																			
西条市	1	1~4	390	43	13.0	9	2.7																			
西部計	27		390	43	13.0	9	2.7																			

施設

区分 市町村名	学校数	実施学年	貧血検査				貧血以外の要受診者と調査表による受診結果																			
			要受診		検査		受診結果			受診結果			受診結果			受診結果										
			人数	%	人数	%	異常し	貧血症	経観 過察	その他	不明	赤系 血球値	異常し	増多症	感染症	経観 過察	その他	不明	白血 球値	異常し	増多症	感染症	経観 過察	その他	不明	
島田市	1	2	1																							
中部計	1		1																							
浜松市	1	1~6	22	31	13.6																					
西条市	1	1~6	10	11	10.0																					
西部計	1		22	3	13.8																					
西条市	1	1~6	10	11	10.0																					
西部計	2		23	3	13.0																					
西条市	1	1~6	10	11	10.0																					

4) 脊柱側彎症検診

〔はじめに〕

脊柱側彎症とは、脊柱（背骨）が左右に曲がっている状態であり、姿勢が悪い事とは根本的に違うものである。早期に発見して適切な治療や経過観察を行うことで重症化を予防できることから、昭和 53 年に学校保健法施行規則の一部が改正され昭和 54 年 4 月より全国規模で検診を実施することとなった。

〔側彎症とは〕

脊柱側彎症の中には、一時的な脊柱（背骨）の曲がり（機能的側彎）と永続的な曲がり（構築性側彎）とがある。

学校保健の中で特に問題になるものは、進行性の構築性側彎症である。これは、進行し悪化すると脊柱の側彎とねじれに伴う胸郭変形のため、体幹の高度変形にとどまらず、肺活量の減少による肺及び心臓への負担から、いろいろな病気を引き起こす原因となる。

構築性側彎症のうち、原因のわからないものが 80～90%あり、これを特発性側彎症という。

この特発性側彎症には、側彎が始まってくる年齢によって三つに区別されている。

(ア)乳児期側彎症：3歳以下の乳幼児に発症し、男子に多い。大部分は自然に治るが、急に進行するものがある。

(イ)学童期側彎症：4歳から10歳(小学4年生頃)までに発症し、男女の比率はほぼ同率である。一般に約8割が悪化する。

(ウ)思春期側彎症：小学5、6年生頃から思春期に発症するもので、成長が止まるまで進行する。中学生の女子に最も多く(男子の7倍)、特発性側彎症の約80%を占める。自然に治ることはなく、5割程度が悪化するとされている。

〔検査法〕

(ア)デジタルモアレ法：赤外線 3D センサで体表面の凹凸を等高線画像として表示し、得られた画像を判定する。読影において、主観的な判定になり、側彎症専門医でないと難しい。受診者数が多い検診に適している。

(イ)シルエッター法：立位・床から 30cm・20cm・10cm の前屈姿勢を撮影し、専用ソフトから、背面隆起の左右の高低差を求め判定する。客観的な判定ができ、側彎症専門医でなくても読影が可能。受診者数が多い検診に適さない。

当協会では、従来のモアレ法に代わり令和 3 年度よりデジタルモアレ法を導入し、デジタルモアレ法とシルエッター法(医師会からの要望がある一部地区のみ実施)の 2 法で検診を実施している。次頁に過去 20 年間の推移をまとめた。

〔まとめ〕

令和 4 年度の小学校・中学校の受診者数は 8,111 人で、昨年度と比べ 496 人減少している。有所見率は、男子においては小学校・中学校ともに上昇している。(小学校 2.9%、中学校 2.4%) 女子においては小学校で低下し、中学校で上昇している。(小学校 5.0%、中学校 12.9%)

令和 4 年度の高等学校の受診者数は 81 名(女子のみ)で、昨年度と比べ横ばいである。有所見率は、上昇している。(12.4%)

ここ数年、成長期の低年齢化から小学校の女子において重篤な症例が見つかっている。

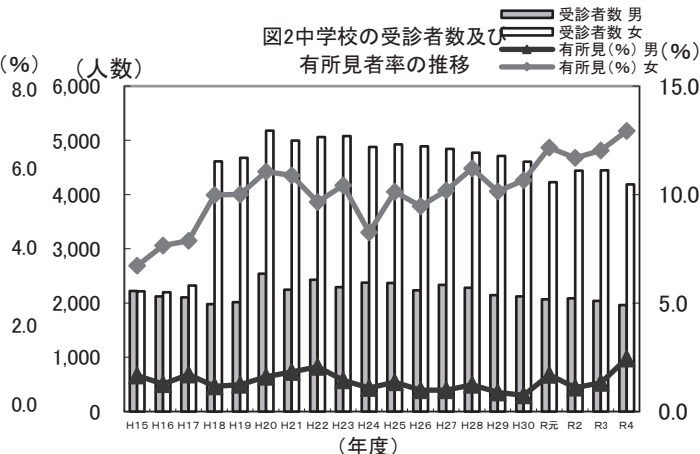
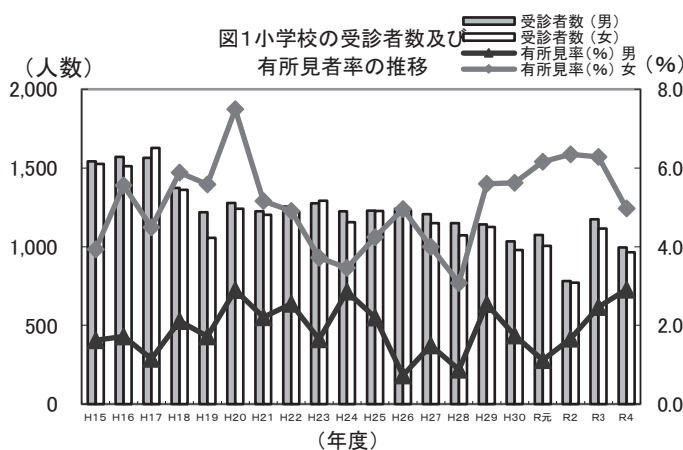
小学校の検診を行っていない地区もあり、早期発見・治療のために小学校における検診の必要性を感じる。

関係各位におかれては、今後とも油断することなく検診を推進していただく必要がある。

(久保田 絵理子)

表1 過去20年間の推移

年度	性別	小学校			中学校			小・中学校計	総計
		受診者数	有所見者	%	受診者数	有所見者	%		
平成15	男	1,542	25	1.62	2,124	27	1.27	3,666	7,389
	女	1,526	60	3.93	2,197	168	7.65	3,723	
16	男	1,571	27	1.72	2,104	36	1.71	3,675	7,511
	女	1,512	84	5.56	2,324	183	7.87	3,836	
17	男	1,564	18	1.15	1,984	23	1.16	3,548	9,785
	女	1,627	73	4.49	4,610	460	9.98	6,237	
18	男	1,373	29	2.11	2,015	25	1.24	3,388	9,425
	女	1,361	80	5.88	4,676	468	10.01	6,037	
19	男	1,218	21	1.72	2,544	41	1.61	3,762	10,001
	女	1,057	59	5.58	5,182	573	11.06	6,239	
20	男	1,277	37	2.90	2,245	41	1.83	3,522	9,758
	女	1,241	93	7.49	4,995	544	10.89	6,236	
21	男	1,224	27	2.21	2,430	50	2.06	3,654	9,918
	女	1,202	62	5.16	5,062	489	9.66	6,264	
22	男	1,256	32	2.55	2,293	33	1.44	3,549	9,850
	女	1,222	60	4.91	5,079	529	10.42	6,301	
23	男	1,275	21	1.65	2,379	26	1.09	3,654	9,822
	女	1,291	48	3.72	4,877	403	8.26	6,168	
24	男	1,224	35	2.86	2,369	32	1.35	3,593	9,675
	女	1,156	40	3.46	4,926	499	10.13	6,082	
25	男	1,229	27	2.20	2,234	22	0.98	3,463	9,581
	女	1,227	52	4.24	4,891	463	9.47	6,118	
26	男	1,241	9	0.73	2,334	23	0.99	3,575	9,646
	女	1,231	61	4.96	4,840	493	10.19	6,071	
27	男	1,206	18	1.49	2,281	28	1.23	3,487	9,408
	女	1,150	46	4.00	4,771	535	11.21	5,921	
28	男	1,150	10	0.87	2,147	19	0.88	3,297	9,081
	女	1,072	33	3.08	4,712	478	10.14	5,784	
29	男	1,142	29	2.54	2,125	16	0.75	3,267	8,998
	女	1,125	63	5.60	4,606	491	10.66	5,731	
30	男	1,033	18	1.74	2,067	35	1.69	3,100	8,311
	女	979	55	5.62	4,232	515	12.17	5,211	
令和元	男	1,074	12	1.12	2,087	23	1.10	3,161	8,608
	女	1,006	62	6.16	4,441	519	11.69	5,447	
2	男	782	13	1.66	2,039	27	1.32	2,821	8,039
	女	772	49	6.35	4,446	535	12.03	5,218	
3	男	1,173	29	2.47	1,998	36	1.80	3,171	8,607
	女	1,114	70	6.28	4,322	517	11.96	5,436	
4	男	995	29	2.91	1,966	48	2.44	2,961	8,111
	女	965	48	4.97	4,185	541	12.93	5,150	



5) 学校寄生虫卵検査

寄生虫卵の検査は、蟯虫検査と糞便検査を行っている。

蟯虫検査はウスイ式セロファンテープを用い、二日にわたって採卵する二日法で実施している。平成 28 年度より学校保健法の指定がなくなり、受検者数は激減した。令和 4 年度の受検者はいなかった。(表 1)(表 2)

蟯虫は、主に睡眠中に肛門の外に這い出し、その周りに 1 万個もの卵を産むと言われており、その卵が下着や寝具にこぼれ落ち、さらには手から手、手から口へと運ばれ他者へ感染する。そのため、生活を共にする家族、学校などでは感染が拡がりやすいと言われ、集団駆虫が勧められている。

糞便検査は幼保園等を対象にセロファン厚層塗抹法を実施していた。平成 28 年度から検査依頼がなくなっている。(表 3)

寄生虫保有率は年々減少しているが、現在でも輸入野菜や国内産野菜での化学肥料に頼らない栽培や無農薬栽培があるため、今後も十分な注意が必要である。

寄生虫感染症対策には、集団全体での駆除と感染予防に対する衛生教育が重要となってくる。

(倉島 友子)

表 1 寄生虫卵検査成績学校別集計表

蟯虫卵検査（セロファンテープ検肛法【ウスイ式】）

区分 団体名	団体数	受検者数	有卵者数	%	後 検 査		
					団 体 数	受検者数	有卵者数
幼稚園・保育園	0	0					
小 学 校	0	0					
中 学 校	0	0					
特別支援学校	0	0					
施 設	0	0					
合 計	0	0					

表 2 蟯虫卵検査年次推移 (昭和 50 年度～令和 4 年度)

年度	幼稚園・保育園			小学校			中学校			特別支援学校・施設			計		
	受検者数	有卵者数	%	受検者数	有卵者数	%	受検者数	有卵者数	%	受検者数	有卵者数	%	受検者数	有卵者数	%
昭和 50	34,774	4,616	13.27	264,790	31,530	11.91	33,607	674	2.01	1,377	88	6.39	334,548	36,908	11.03
51	47,657	6,833	14.34	266,873	31,124	11.66	32,459	613	1.89	1,647	199	12.08	348,636	38,769	11.12
52	61,313	6,461	10.54	316,527	27,702	8.75	40,246	445	1.11	1,838	157	8.54	419,924	34,765	8.28
53	72,123	6,511	9.03	323,640	24,645	7.61	43,060	337	0.78	2,339	156	6.67	441,162	31,649	7.17
54	78,469	6,010	7.66	338,452	21,902	6.47	32,538	182	0.56	2,445	72	2.94	451,904	28,166	6.23
55	82,817	5,163	6.23	323,611	17,846	5.51	32,578	187	0.57	2,931	128	4.37	441,937	23,324	5.28
56	77,365	3,930	5.08	305,833	13,051	4.27	33,053	126	0.38	2,966	127	4.28	419,217	17,234	4.11
57	75,861	3,214	4.24	305,843	11,496	3.76	29,262	90	0.31	2,876	74	2.57	413,842	14,874	3.59
58	72,423	3,157	4.36	308,510	10,877	3.53	36,544	99	0.27	2,975	127	4.27	420,452	14,260	3.39
59	70,002	2,386	3.41	301,290	9,100	3.02	19,542	46	0.24	2,790	86	3.08	393,624	11,618	2.95
60	65,283	2,178	3.34	277,859	8,780	3.16	10,316	22	0.21	3,000	87	2.90	356,458	11,067	3.10
61	64,150	2,073	3.23	256,078	7,877	3.08	8,975	13	0.14	2,892	85	2.94	332,095	10,048	3.03
62	61,937	1,961	3.17	248,015	8,657	3.49	8,328	20	0.24	2,692	75	2.79	320,972	10,713	3.34
63	62,175	2,067	3.32	234,706	6,868	2.93	8,218	12	0.15	2,761	98	3.55	307,860	9,045	2.94
平成元	68,571	1,721	2.51	260,585	6,571	2.52	10,304	18	0.17	2,783	64	2.30	342,243	8,374	2.45
2	67,062	1,454	2.17	259,634	6,318	2.43	7,502	8	0.11	2,753	72	2.62	336,951	7,852	2.33
3	68,046	1,439	2.11	250,600	5,911	2.36	5,022	5	0.10	2,993	76	2.54	326,661	7,431	2.27
4	65,893	1,492	2.26	245,284	6,324	2.58	5,906	9	0.15	2,805	82	2.92	319,888	7,907	2.47
5	63,161	1,095	1.73	235,555	5,141	2.18	4,269	6	0.14	2,740	73	2.66	305,725	6,315	2.07
6	58,709	938	1.60	227,162	4,766	2.10	3,533	2	0.06	3,323	118	3.55	292,727	5,824	1.99
7	56,927	655	1.15	199,110	3,541	1.78	2,951	3	0.10	2,989	70	2.34	261,977	4,269	1.63
8	56,726	634	1.12	181,795	2,541	1.40	2,883	6	0.21	2,462	57	2.32	243,866	3,238	1.33
9	55,521	415	0.75	172,672	2,024	1.17	1,474	1	0.07	2,123	63	2.97	231,790	2,503	1.08
10	59,379	576	0.97	168,641	2,379	1.41	615	0		2,111	60	2.84	230,746	3,015	1.31
11	60,472	464	0.77	161,209	1,673	1.04	639	1	0.16	2,202	49	2.23	224,522	2,187	0.97
12	61,919	327	0.53	156,114	1,300	0.83	12	0		2,364	63	2.66	220,409	1,690	0.77
13	59,472	211	0.35	144,680	1,002	0.69	642	1	0.16	2,290	74	3.23	207,084	1,288	0.62
14	59,836	172	0.29	141,833	848	0.60	583	0		2,446	37	1.51	204,698	1,057	0.52
15	61,974	113	0.18	139,639	592	0.42	12	0		2,415	19	0.79	204,040	724	0.35
16	55,335	81	0.15	112,737	344	0.31	522	0		2,382	15	0.63	171,532	442	0.26
17	51,399	66	0.13	103,023	298	0.29	500	0		2,410	25	1.04	157,332	389	0.25
18	44,996	31	0.07	79,728	215	0.27	7	0		2,254	23	1.02	126,985	269	0.21
19	45,753	26	0.06	79,847	136	0.17				2,252	14	0.62	127,852	176	0.14
20	44,083	23	0.05	80,996	120	0.15				2,337	14	0.60	127,416	157	0.12
21	44,280	17	0.04	96,398	115	0.12				2,323	22	0.95	143,001	154	0.11
22	44,231	13	0.03	94,977	107	0.11				2,012	11	0.55	141,644	131	0.09
23	42,636	14	0.03	93,699	75	0.08				2,035	8	0.39	138,370	97	0.07
24	46,296	8	0.02	71,416	20	0.03				1,811	4	0.22	119,523	32	0.03
25	45,189	5	0.01	68,612	18	0.03				1,973	10	0.51	115,774	33	0.03
26	40,557	4	0.01	65,185	16	0.02				1,835	5	0.27	107,577	25	0.02
27	38,435	9	0.02	65,128	20	0.03				1,668	0		105,231	29	0.03
28	7,872	3	0.04	24,191	12	0.05				325	1	0.31	32,388	16	0.05
29	239	0		5,465	0					21	0		5,725	0	
30	144	0								50	0		194	0	
令和元	147	0								49	0		196	0	
2															
3															
4															

表3 寄生虫卵検査年次推移（昭和50年度～令和4年度 セロファン厚層塗抹法）

年度	幼稚園・保育園			小学校			中学校			高等学校			専門学校			特別支援学校・施設			計		
	受検者数	有卵者数	%	受検者数	有卵者数	%	受検者数	有卵者数	%	受検者数	有卵者数	%	受検者数	有卵者数	%	受検者数	有卵者数	%	受検者数	有卵者数	%
昭和50	15,990	108	0.68	121,797	842	0.69	48,950	370	0.76	7,073	93	1.31	0	0	0	1,562	37	2.37	195,372	1,450	0.74
51	13,284	49	0.37	109,094	469	0.43	25,147	169	0.67	6,793	45	0.66	0	0	0	1,773	35	1.97	156,091	767	0.49
52	10,589	50	0.47	66,372	396	0.6	24,374	173	0.71	2,887	28	0.87	271	0	0	1,683	40	2.38	106,176	684	0.64
53	10,442	35	0.34	69,017	254	0.37	18,699	112	0.6	3,139	24	0.76	225	0	0	1,767	31	1.75	103,289	456	0.44
54	7,699	14	0.18	57,323	165	0.29	17,421	67	0.38	582	3	0.52	176	3	1.7	1,975	39	1.97	85,176	291	0.34
55	7,478	15	0.2	51,500	128	0.25	16,841	42	0.25	1,129	5	0.44	129	0	0	1,951	31	1.59	79,028	221	0.28
56	6,592	11	0.17	51,625	107	0.21	15,962	48	0.3	451	2	0.44	96	0	0	2,282	29	1.27	77,008	197	0.26
57	6,320	8	0.13	39,780	57	0.14	18,329	30	0.16	1,248	2	0.16	78	0	0	2,255	20	0.89	68,010	117	0.17
58	3,838	4	0.1	38,996	58	0.15	10,141	22	0.22	402	2	0.5	111	0	0	2,222	11	0.5	55,710	97	0.17
59	3,108	7	0.23	22,767	19	0.08	8,767	9	0.1	455	1	0.22	144	0	0	1,752	10	0.57	36,993	46	0.12
60	4,734	7	0.15	23,865	38	0.16	12,218	20	0.16	464	4	0.86	137	1	0.73	1,785	7	0.39	43,203	77	0.18
61	2,819	2	0.07	16,519	21	0.13	6,671	5	0.07	434	1	0.23	156	0	0	1,888	24	1.27	28,487	53	0.19
62	3,088	1	0.03	14,976	6	0.04	6,772	6	0.09	428	0	0	0	0	0	1,419	10	0.7	26,683	23	0.09
63	3,837	0	0	20,953	7	0.03	7,214	16	0.22	0	0	0	0	0	1,225	3	0.24	33,229	26	0.08	
平成元	2,342	2	0.09	13,640	13	0.1	6,204	3	0.05	0	0	0	0	0	1,587	6	0.38	23,773	24	0.1	
2	2,234	1	0.04	7,752	3	0.04	2,635	1	0.04	0	0	0	0	0	1,201	1	0.08	13,822	6	0.04	
3	2,151	0	0	6,315	9	0.14	4,114	8	0.19	0	0	0	0	0	1,319	2	0.15	13,899	19	0.14	
5	1,777	0	0	5,324	5	0.09	1,414	1	0.07	0	0	0	0	0	1,217	1	0.08	9,732	7	0.07	
6	1,628	0	0	4,989	4	0.08	2,028	0	0	0	0	0	0	0	855	0	0	5,500	4	0.04	
7	1,431	0	0	2,445	0	0	567	0	0	0	0	0	0	0	642	2	0.31	5,085	2	0.04	
8	1,356	0	0	2,357	3	0.13	528	2	0.38	0	0	0	0	0	415	0	0	4,656	5	0.11	
9	960	0	0	1,533	0	0	857	10	1.17	0	0	0	0	0	370	0	0	3,720	10	0.27	
10	899	3	0.33	1,412	2	0.14	205	3	1.46	0	0	0	0	0	314	2	0.64	2,830	10	0.35	
11	975	2	0.21	1,157	1	0.09	193	2	1.04	0	0	0	0	0	483	0	0	2,808	5	0.18	
12	1,020	2	0.2	1,013	6	0.59	751	23	3.06	0	0	0	0	0	359	1	0.28	3,143	32	1.02	
13	957	0	0	911	1	0.11	188	0	0	0	0	0	0	0	477	2	0.42	2,533	3	0.12	
14	586	0	0	277	0	0	165	2	1.21	0	0	0	0	0	400	0	0	1,428	2	0.14	
15	888	1	0.11	446	0	0	700	13	1.86	0	0	0	0	0	417	0	0	2,451	14	0.57	
16	893	0	0	379	1	0.26	152	2	1.32	0	0	0	0	0	263	0	0	1,687	3	0.18	
17	689	1	0.15	363	0	0	150	0	0	0	0	0	0	0	198	1	0.51	1,400	2	0.14	
18	675	0	0	292	1	0.34	124	0	0	0	0	0	0	0	234	0	0	1,325	1	0.08	
19	314	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	125	0	0	439	0	0	
20	311	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	132	1	0.76	443	1	0.23	
21	344	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	83	0	0	427	0	0	
22	330	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	35	0	0	365	0	0	
23	356	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	23	0	0	379	0	0	
24	345	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	29	0	0	374	0	0	
25	367	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	37	0	0	404	0	0	
26															27	0	0	27	0	0	
27															24	0	0	24	0	0	
28																					
29																					
30																					
令和元																					
2																					
3																					
4																					

6) 小児生活習慣病予防健診

〔はじめに〕

わが国は、社会・経済的に大きな発展を遂げ、その食生活や生活環境は豊かで西欧型になってきている。反面、こうした西欧型生活が動脈硬化を中心とした健康障害をもたらすこと、そしてその影響が若い世代に及ぶことが指摘されている。さらにこうした状況に適切に対応することで、健康障害を予防できることも分かっている。

そこで、この生活習慣病予防健診では、危険因子の有無をスクリーニングし、その危険性を本人に自覚させ、食事や運動を中心とした日常生活上の問題点を改善させることにより、若年性の動脈硬化症の発生を予防することを目的として実施している。

〔健診の実施方法〕

対象者全員に「生活習慣予防健診調査票」を配布し、本人の糖尿病の有無、家族歴を調査する。健診では、身長、体重から肥満度を算出、血圧測定、採血による総コレステロール、HDLコレステロール、LDLコレステロールの測定を行う。その結果から、各健診項目をa、b、c、d、nに5段階判定し（表1、表2）、各項目判定結果の組合せによってI、II、III、IV、Nの5段階総合判定（表3）を行う。

総合判定は、予防医学事業中央会の作成した総合判定に従い、I～Nの5段階の指導区分、コメント（表3）に分類して報告する。

〔健診結果について〕

この健診は、昭和62年より研究調査として始まり、主に小学4年生、中学1年生、高校1年生を対象に行われている。令和4年度は57校3,642人を実施し、昨年度と比べて125人減少した。なお、今年度も高校1年生については実施していない。令和4年度の結果は、以下のとおりであった。

総合判定による指導区分では、小学4年生で要医学的管理（I）1.8%、要経過観察（II）6.9%、要生活指導（III）9.7%となっている。また、中学1年生では要医学的管理（I）1.5%、要経過観察（II）6.3%、要生活指導（III）9.6%

となっている。

つまり、何らかの指導が必要な有所見者は、小学4年生で18.4%、中学1年生で17.4%となる。

項目別にみると、肥満のc区分以上のものは、小学4年生の男子13.6%、女子12.3%、中学1年生の男子13.9%、女子7.4%で、肥満の頻度を学年別にみると、小学生・中学生共に男子が女子を上回っていた。（図1、図2）

また、やせは、小学4年生の男子2.8%、女子2.6%、中学1年生の男子2.3%、女子7.0%であった。

脂質について、c区分以上は、小学4年生の男子7.0%、女子5.9%、中学1年生の男子4.6%、女子9.6%であった。（表9、表11）

血圧について、b区分以上は、小学4年生の男子2.1%、女子0.9%、中学1年生の男子0.3%、女子2.4%であった。（図1、図2）

〔まとめ〕

県内における小児生活習慣病予防健診は、市町の教育委員会の依頼により実施している。この健診の結果、危険因子を持つ子どもたちには食事や運動を軸としたライフスタイルの改善が求められる。その内容を保護者に理解していただき、家庭で実践して子どもたちに反映されることが必須である。子どもたち自身が自分の体の健康について興味と理解を持ち、自分の将来につなげていただけるよう指導を充実させていきたい。

また、例数は少ないが、血圧a区分の子どもたちについては生活習慣の危険因子としてばかりでなく、高血圧をきたす原因疾患の有無についても調べておく必要がある。

（大石 敦美）

表 1 項目別判定基準

(平成 19 年 4 月 1 日より)

① 肥満度判定 ※1		④-1 血圧判定 (小学校・男女, 中学校・女子) ※3					
50%以上	a	収縮期圧 (mmHg)	145 以上	a			
30~49.9%	b		144~135	b			
20~29.9%	c		134~120	d			
-19.9~19.9%	n		120 未満	n			
-20%以上	y ※2		70 未満 70~79 80~89 90 以上				
		拡張期圧 (mmHg)					
② 血清脂質判定 (総コレステロールとHDLコレステロールによる)		④-2 血圧判定 (中学校・男子, 高校・男女) ※3					
		総コレステロール	HDLコレステロール		収縮期圧 (mmHg)		
			40mg/dl 以上 40mg/dl 未満				
280 mg/dl 以上	a		a	150 以上		a	
240~279mg/dl	b		a	149~140		b	
220~239mg/dl	c		b	139~120		d	
190~219mg/dl	d		c	120 未満	n		
190mg/dl 未満	n	d	70 未満 70~84 85~94 95 以上				
		拡張期圧 (mmHg)					
③ 血清脂質判定 (LDL コレステロール)		⑤ 家族歴の判定 (調査表による)					
190 mg/dl 以上	a	所見あり : d (ご家族に生活習慣病の方がみられます)					
160~190mg/dl 未満	b	所見なし : n					
140~160mg/dl 未満	c	⑥ 糖尿病の判定 (調査表による)					
110~140mg/dl 未満	d	所見あり : a (糖尿病です)					
110mg/dl 未満	n	所見なし : n					

※1 肥満度の判定は変動の経緯を見ることが大切である。2~3ヶ月の間に肥満度10%以上の増減があった場合は、専門医に相談をすすめる。
 ※2 「肥満」と「やせ」ではその意味合いが異なる。肥満度が-20%を越す「やせ」は、病気が原因のこともあるので、別枠で判定「y」とする。
 ※3 血圧が一定基準を超えた場合に高血圧と判定するため、高血圧 (a および b 判定) と正常血圧 (d および n 判定) とする。

表 2 5段階判定・評価内容

判定	判定概念
a	同年齢の基準からかなり大きくかけ離れている状態で病的状態である可能性があるもの
b	同年齢の基準から明らかに乖離しているもので、放置されてその状態が進行すると病的状態に至る危険性があるもの
c	同年齢の基準を超えているものではあるが異常の程度は比較的軽く、指導によって正常化する可能性の高いもの
d	同年齢の基準をやや超えているものの正常範囲とも考えられるもの
n	同年齢の基準域内にあるもの

表 3 総合判定と指導区分

総合判定	判定基準	指導区分	指導コメント
I (要医学的管理)	I-1	I	引き続き専門医を受診してください。 専門医に相談してください。
	I-2		
	I-3		
II (要経過観察)	どの項目にも(a)がなく いずれか1項目でも(b)	II	医師や学校の先生、保護者の方などと相談し、バランスのとれた食生活と適度な運動を心がけてください。6ヶ月~1年後には再検査を受けてください。
III (要生活指導)	どの項目にも(a)(b)がなく いずれか1項目でも(c)	III	バランスのとれた食生活と適度な運動を心がけてください。
IV (管理不要)	どの項目にも(a)(b)(c)がなく いずれか1項目でも(d)	IV	今後とも正しい生活習慣を心がけてください。次回健診時にいろいろな検査項目の変化にもよく注意してみましょう。
N (正常)	すべての項目が(n)	N	今回の健診結果では特に異常ありませんでした。現在のよい状態を続けるよう心がけてください。

小児生活習慣病予防健診実施数の推移

区分	小学校			中学校			高等学校			合計		
	学校数	受診者数	学校数	受診者数	学校数	受診者数	学校数	受診者数	学校数	受診者数	学校数	受診者数
平成15	106	6,055	72	7,680	18	3,625	196	17,360				
16	108	6,137	73	7,523	20	3,553	201	17,213				
17	103	6,072	69	6,719	19	3,354	191	16,145				
18	93	4,854	67	5,961	19	3,256	179	14,071				
19	81	4,367	47	5,198	14	3,201	142	12,966				
20	86	4,674	55	6,597	13	3,092	154	14,363				
21	59	2,933	41	4,354	10	2,485	110	9,772				
22	57	3,024	41	4,700	8	2,144	106	9,868				
23	56	2,905	40	4,155	8	2,115	104	9,175				
24	55	2,843	41	4,159	7	1,776	103	8,778				
25	53	2,777	41	4,265	6	1,516	100	8,558				
26	53	2,787	41	4,187	7	1,852	101	8,539				
27	53	2,668	41	4,095	7	1,695	101	8,458				
28	53	2,616	41	4,052	6	1,327	100	7,995				
29	53	2,652	41	3,919	2	225	96	6,796				
30	34	1,559	33	2,724	2	266	69	4,549				
令和元	29	1,338	29	2,561	1	153	59	4,052				
2	28	1,259	29	2,659	1	134	58	4,052				
3	28	1,288	29	2,475	0	0	57	3,763				
4	28	1,190	29	2,452	0	0	57	3,642				

※特別支援学校を除く

図3 学校数および受診者数の年次推移

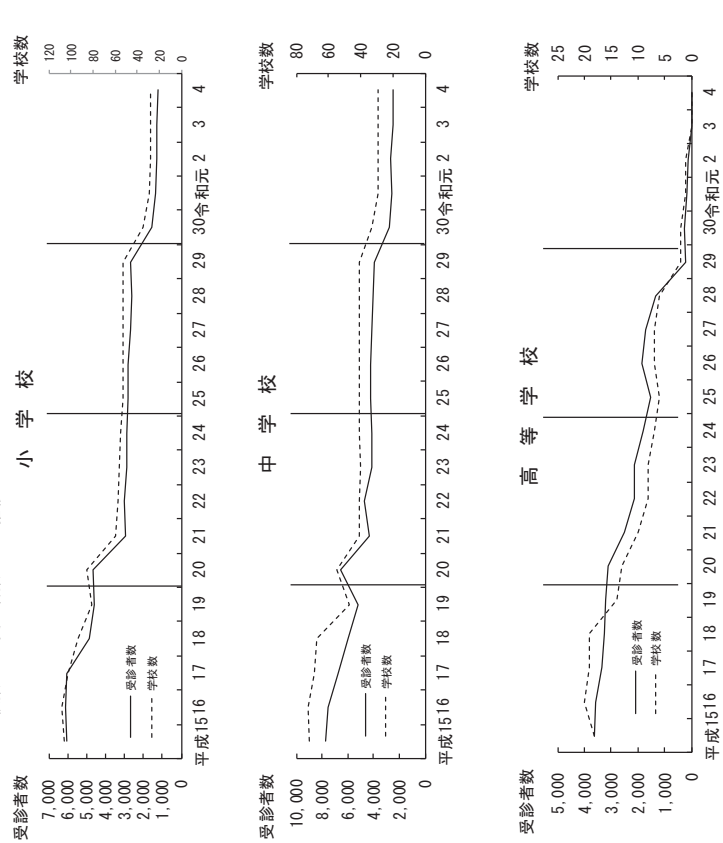


図2 所見別集計

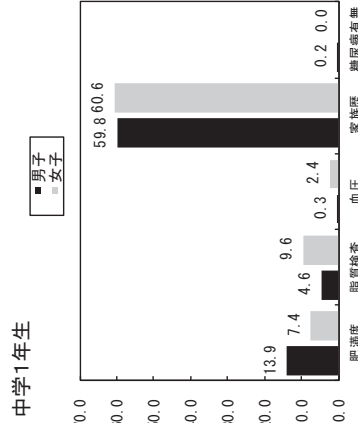
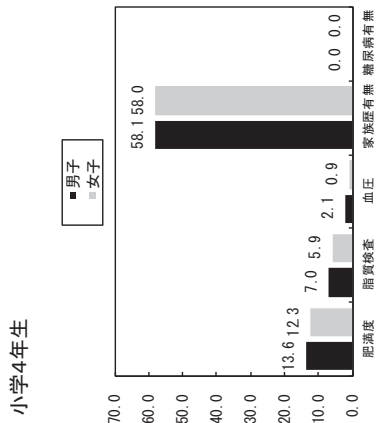
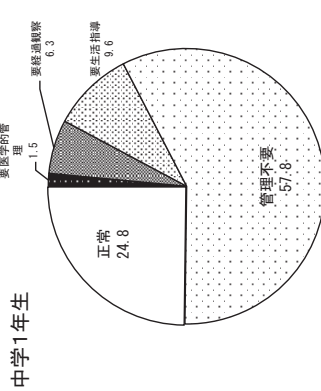
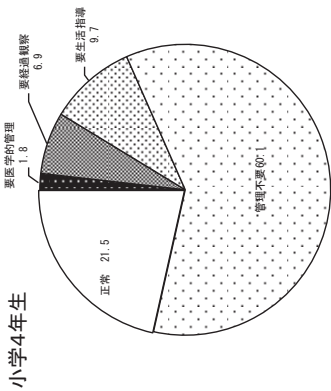


図1 判定別集計



■ I : 要医学的管理
 ■ II : 要経過観察
 ■ III : 要生活指導
 □ IV : 管理不要
 □ N : 正常

表5 年度別実施市町村

年度	健診実施市町村名
平成15	7市、24町、3村
平成16	9市、20町、3村
平成17	10市、12町、1村
平成18	10市、7町
平成19	7市、7町
平成20	8市、6町
平成21	8市、4町
平成22	8市、2町
平成23	8市、2町
平成24	8市、2町
平成25	8市、2町
平成26	8市、2町
平成27	8市、2町
平成28	8市、2町
平成29	6市、2町
平成30	4市、2町
令和元年	4市：富士宮市、伊東市、裾野市、伊豆の国市 1町：川根本町
令和2	4市：富士宮市、伊東市、裾野市、伊豆の国市 1町：川根本町
令和3	4市：富士宮市、伊東市、裾野市、伊豆の国市 1町：川根本町
令和4	4市：富士宮市、伊東市、裾野市、伊豆の国市 1町：川根本町

表6 学校数と実施人数

区分 市町村名	小学校		中学校		合計	
	学校数	実施人数	学校数	実施人数	学校数	実施人数
富士宮市			14	1,216	14	1,216
伊東市	9	301	5	339	14	640
裾野市	9	475	5	480	14	955
伊豆の国市	6	378	3	389	9	767
川根本町	4	36	2	28	6	64
合計	28	1,190	29	2,452	57	3,642

※特別支援学校を除く

表7 学年別実施人数

区分 市町村名	小学校				中学校			合計
	4年	5年	6年	合計	1年	2年	3年	
富士宮市					1,093	87	36	1,216
伊東市	301			301	339			640
裾野市	407	51	17	475	419	46	15	955
伊豆の国市	347	30	1	378	349	36	4	767
川根本町	32	4		36	26		2	64
合計	1,087	85	18	1,190	2,226	169	57	3,642

※特別支援学校を除く

令和4年度 小児生活習慣病予防健診結果

表8 小学校(全学年)

(1)健診実施数

性別	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合計
男	598	598	598	544	43	11	588
女	592	592	592	543	42	7	592
合計	1,190	1,190	1,190	1,087	85	18	1,190

(2)項目別検査実施数

性別	計測(総測定)	血圧測定	総コレステロール	LDLコレステロール	中性脂肪
男	598	598	598	544	544
女	592	592	592	543	543
合計	1,190	1,190	1,190	1,087	1,087

(3)項目別平均値

性別	身長 cm	体重 kg	肥満度 %	最大血圧 mmHg	最小血圧 mmHg	総コレステロール-mmg/dl	LDLコレステロール-mmg/dl	中性脂肪mg/dl
男	136.0	33.7	5.8	107.1	62.3	178.9	63.4	61.9
女	136.6	32.7	3.7	107.7	63.0	181.0	61.9	

(4)総合判定結果(指導区分)

性別	I	II	III	IV	N
男	19	32	64	310	139
女	10	17	62	389	104
合計	29	49	126	699	243

(5)肥満度

性別	a	b	c	n	v
男	16	2.5	55	9.2	473
女	5	0.8	41	6.9	487
合計	20	1.7	96	8.1	960

(6)脂質検査

性別	a	b	c	d	n
男	1	0.2	37	6.2	145
女	4	0.7	13	2.2	29
合計	5	0.4	30	2.5	174

(7)血圧

性別	a	b	d	n
男	3	0.5	13	2.2
女	1	0.2	8	1.4
合計	4	0.3	21	1.8

(8)家族歴

性別	d	n
男	351	58.7
女	350	59.1
合計	701	58.9

※HDLコレステロールが 100mg/dl 以上 男子：8人 女子：4人

表9 小学校(4年生)

(1)健診実施数

性別	4年生
男	544
女	543
合計	1,087

(2)項目別検査実施数

性別	計測(総測定)	血圧測定	総コレステロール	LDLコレステロール	中性脂肪
男	544	544	544	544	544
女	543	543	543	543	543
合計	1,087	1,087	1,087	1,087	1,087

(3)項目別平均値

性別	身長 cm	体重 kg	肥満度 %	最大血圧 mmHg	最小血圧 mmHg	総コレステロール-mmg/dl	LDLコレステロール-mmg/dl	中性脂肪mg/dl
男	135.3	32.3	3.4	106.4	61.9	177.5	64.0	
女	136.1	31.9	2.6	107.1	62.7	179.5	61.9	

(4)総合判定結果(指導区分)

性別	I	II	III	IV	N
男	11	20	42	306	131
女	9	17	33	347	103
合計	20	37	75	653	234

(5)肥満度

性別	a	b	c	n	v
男	8	1.5	30	5.5	36
女	4	0.9	24	4.4	38
合計	13	1.2	54	5.0	74

(6)脂質検査

性別	a	b	c	d	n
男	1	0.2	9	1.7	28
女	4	0.7	7	1.3	21
合計	5	0.5	16	1.5	49

(7)血圧

性別	a	b	d	n
男	2	0.4	9	1.7
女	1	0.2	5	0.9
合計	2	0.2	14	1.3

(8)家族歴

性別	d	n
男	316	58.1
女	315	58.0
合計	631	58.0

※HDLコレステロールが 100mg/dl 以上 男子：7人 女子：3人

(9)糖尿病の有無

性別	a	n
男	544	100.0
女	543	100.0
合計	1087	100.0

※特別支援学校を除く

表10 中学校(全学年)

(1) 健診実施数				
性別	1年生	2年生	3年生	合計
男	1,124	90	31	1,245
女	1,102	79	26	1,207
合計	2,226	169	57	2,452

(2) 項目別検査実施数						
性別	計測(肥満度)	血圧測定	総コレステロール	HDLコレステロール	LDLコレステロール	中性脂肪
男	1,245	1,245	1,245	1,245	627	
女	1,207	1,207	1,207	1,207	589	
合計	2,452	2,452	2,452	2,452	1,216	

(3) 項目別平均値									
性別	身長 cm	体重 kg	肥満度 %	最大血圧 mmHg	最小血圧 mmHg	総コレステロール mg/dl	HDLコレステロール mg/dl	LDLコレステロール mg/dl	中性脂肪 mg/dl
男	155.5	47.8	4.7	109.8	61.3	163.2	59.2	82.2	
女	152.8	45.3	-1.7	107.8	62.6	176.0	62.5	91.5	

(4) 総合判定結果(指導区分)									
性別	I	II	III	IV	N				
男	45	3.6	113	9.1	666	53.5	303	24.3	
女	12	1.0	90	7.5	164	13.6	676	56.0	
合計	57	2.3	208	8.5	277	11.3	1,342	54.7	

(5) 肥満度									
性別	a	b	c	n	Y				
男	37	3.0	116	9.3	77	6.2	987	79.3	28
女	5	0.4	44	3.6	63	5.2	1,017	84.3	78
合計	42	1.7	160	6.5	140	5.7	2,004	81.7	106

(6) 脂質検査									
性別	a	b	c	d	n				
男	4	0.3	7	0.6	58	4.7	172	13.8	1,004
女	5	0.4	25	2.1	121	10.0	209	17.3	847
合計	9	0.4	32	1.3	179	7.3	381	15.5	1,851

(7) 血圧									
性別	a	b	c	d	n				
男	7	0.6	6	0.5	212	17.0	1,020	81.9	
女	3	0.2	29	2.4	161	13.3	1,014	84.0	
合計	10	0.4	35	1.4	373	15.2	2,034	83.0	

(8) 家族歴				
性別	d	n		
男	760	61.0		
女	739	61.2		
合計	1,499	61.1		

※HDLコレステロールが 100mg/dl 以上 男子: 5人 女子: 6人

表11 中学校(1年生)

(1) 健診実施数	
性別	1年生
男	1,124
女	1,102
合計	2,226

(2) 項目別検査実施数						
性別	計測(肥満度)	血圧測定	総コレステロール	HDLコレステロール	LDLコレステロール	中性脂肪
男	1,124	1,124	1,124	1,124	568	
女	1,102	1,102	1,102	1,102	525	
合計	2,226	2,226	2,226	2,226	1,093	

(3) 項目別平均値									
性別	身長 cm	体重 kg	肥満度 %	最大血圧 mmHg	最小血圧 mmHg	総コレステロール mg/dl	HDLコレステロール mg/dl	LDLコレステロール mg/dl	中性脂肪 mg/dl
男	154.8	46.0	2.6	108.8	60.8	162.1	59.8	80.9	
女	152.6	44.6	-2.5	107.4	62.3	174.4	62.6	89.5	

(4) 総合判定結果(指導区分)									
性別	I	II	III	IV	N				
男	27	2.4	76	6.8	90	8.0	636	56.6	26.2
女	6	0.5	64	5.8	124	11.3	652	59.2	23.2
合計	33	1.5	140	6.3	214	9.6	1,288	57.8	24.8

(5) 肥満度									
性別	a	b	c	n	Y				
男	22	2.0	73	6.5	61	5.4	942	83.8	26
女	2	0.2	29	2.6	51	4.6	943	85.6	77
合計	24	1.1	102	4.6	112	5.0	1,885	84.7	103

(6) 脂質検査									
性別	a	b	c	d	n				
男	2	0.2	5	0.4	46	4.0	144	12.8	928
女	2	0.2	17	1.5	87	7.9	198	18.0	788
合計	4	0.2	22	1.0	132	5.9	342	15.4	1,716

(7) 血圧									
性別	a	b	c	d	n				
男	2	0.2	1	0.1	170	15.1	951	84.6	
女	3	0.3	23	2.1	138	12.1	943	85.5	
合計	5	0.2	24	1.1	308	13.6	1,894	85.1	

(8) 家族歴				
性別	d	n		
男	672	59.8		
女	668	60.6		
合計	1,340	60.2		

※HDLコレステロールが 100mg/dl 以上 男子: 5人 女子: 5人

(9) 糖尿病の有無

性別	a	n
男	2	0.2
女	1	0.1
合計	3	0.3

※特別支援学校を除く

性別	a	n
男	2	0.2
女	1	0.1
合計	3	0.3

※特別支援学校を除く

第二章 検査・健(検)診事業

2. 地域・職域保健

- 1) 一般健康診断及び生活習慣病健診
- 2) 特殊健康診断
- 3) ストレスチェック
- 4) 喀痰細胞診による肺がん検診
- 5) 婦人科細胞診による子宮頸がん検診
- 6) 血液型検査
- 7) 細菌検査
- 8) 寄生虫卵検査
- 9) 住民健診
- 10) 特定健康診査・特定保健指導
- 11) ワクチン接種

1) 一般健康診断及び生活習慣病健診

表1 労働基準監督署別実施人数	60
図1 受診者数の推移	60
表2 基本健診項目実施数	60
表3 判定別集計	61
図2 各判定別有所見率	62
表4 労働基準監督署別判定集計	63

2) 特殊健康診断

表1-1 代謝物分布表・検査結果	64
表1-2 代謝物の検査分布表	64
表1-3 鉛分布表・検査結果	64
表2 特殊健康診断成績表(労働基準監督署別)	65

3) ストレスチェック

表1 令和4年度契約区分別受診団体	67
表2 令和4年度男女年代別高ストレス者割合	67
表3 令和4年度業種別高ストレス者割合	67

4) 喀痰細胞診による肺がん検診

表1 集団検診における喀痰細胞診の判定基準と指導区分	68
表2 令和4年度喀痰細胞診検査成績	68
表3 年度別 地域における喀痰細胞診成績	68
表4 年度別 職域における喀痰細胞診成績	68

5) 婦人科細胞診による子宮頸がん検診

表1 ベセスダシステムに基づく細胞診分類	69
表2 地域健診結果	69
表3 職域健診結果	70
表4 精密検査結果	70
表5 年齢階層別結果	70

6) 血液型検査

表1 団体別実数と型別分類	71
表2 過去の受検者数の推移	71

7) 細菌検査

表1 腸内細菌(サルモネラ・赤痢菌)等団体別検査概要	72
表2 腸管出血性大腸菌O157団体別検査概要	72
表3 食品検査概要	72

8) 寄生虫卵検査

表1 寄生虫卵検査成績集計表(セロファン厚層塗抹法)	73
表2 蟯虫卵検査成績表(セロファンテープ検肛法【ウスイ式】)	73

9) 住民健診

表1 各検診の対象者	75
表2 A市、B市のプロセス指標数値	75
表3 特定健診判定(A市)	76
表4 特定健診判定(B市)	80

10) 特定健診・特定保健指導

表1 令和4年度特定健康診査・メタボリックシンドローム判定結果	86
表2 令和4年度特定健康診査・階層化結果	86
表3-1 初回面接実施者特定保健指導支援別実施状況	86
表3-2 初回分割面接実施者特定保健指導支援別実施状況	86
表4 初回面接時と支援終了時の体重の変化	87
表5 初回面接時と支援終了時の腹囲の変化	87

11) ワクチン接種

表1 ワクチン接種 種類・拠点別 集計表	88
----------------------	----

1) 一般健康診断及び生活習慣病健診

[一般健康診断]

令和4年度に実施した一般健康診断では、受診者数は194,212人で昨年度に比べ1,223人(0.6%)減少した。受診者数を労働基準監督署管内別に見ると、三島管内の942人の減少が最も多かった。(表1)

総合判定における有所見率は70.7%であり、昨年度に比べ0.3%の増加となった。

検査項目別では、例年、脂質系が最も有所見率が高く、男性47.1%、女性42.9%、合計45.3%であり、昨年度に比べ5.1%の減少となった。

他の検査項目については、有所見率が昨年度と比べ、貧血で6.0%、胸部で3.8%、糖尿で2.1%増加し、尿酸で1.8%、腎機能で1.3%減少した。(表3)

表4には、労働基準監督署管内別の判定集計を示した。

[生活習慣病健診]

生活習慣病は、一次健診のみに留まらず、アフターフォローとして二次検査、精密検査の充実及び管理栄養士による栄養指導、運動指導士による運動指導を積極的に取り入れて実施していく必要がある。

令和4年度の受診者数は、昨年度に比べ聴力(1000Hz・4000Hz)で988人、糖尿病(HbA1c)で867人、肝機能(γ -GT)で761人増加し、血液一般(白血球系)で2,061人、尿酸で1,989人、血液一般(赤血球系)で1,172人、肝機能(ALT)で1,121人、腎機能(潜血)1,091人で減少した。

有所見率では、血液一般(赤血球系)で6.0%、糖尿病(HbA1c)で4.8%、胸部X線で3.8%増加し、脂質(LDL-コレステロール)で7.4%、尿酸で1.8%減少した。(表2)

[今後の課題]

一般健康診断における有所見者の多くは脂質異常症によるものであり、原因はLDLコレステロール、中性脂肪が高値を示したことであった。

ここ数年同じ傾向で推移していることから、関連資料や学会の動向を意識していく必要があるが、近年実施機会が増加している保健指導の効果にも期待が寄せられる。

また、健診機関としては一次健診から生活改善指導を含めた流れの構築が求められており、健診内容の充実、ハード面の整備、職員の人材育成・確保が必要となる。

(松下 一機)

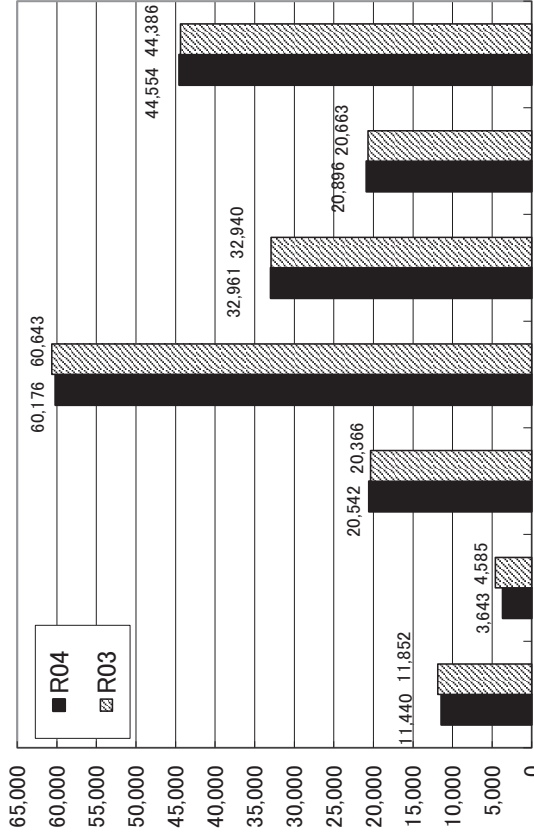
表2 基本健診項目実施数

	受診者数		有 所 見 者		計			
	男性	女性	男性	女性				
	人	%	人	%				
身体計測	93,798	66,206	42,277	45.1	22,360	33.8	64,637	40.4
腹囲	70,436	48,919	28,291	40.2	5,663	11.6	33,954	28.4
裸眼視力	41,901	23,813	-	-	-	-	-	-
矯正視力	44,064	32,815	-	-	-	-	-	-
1000Hz聴力	65,577	42,140	2,160	3.3	1,240	2.9	3,400	3.2
4000Hz聴力	65,577	42,140	6,186	9.4	919	2.2	7,105	6.6
会話聴力	21,785	11,064	2	0.0	2	0.0	4	0.0
血圧	94,162	66,132	15,030	16.0	6,590	10.0	21,620	13.5
潜在血圧	63,130	47,944	1,439	2.3	3,537	7.4	4,976	4.5
蛋白尿	94,252	65,992	1,887	2.0	906	1.4	2,793	1.7
尿素窒素	14,126	5,204	203	1.4	120	2.3	323	1.7
クレアチン	58,805	43,383	5,913	10.1	5,720	13.2	11,633	11.4
心電図検査	67,849	47,524	9,446	13.9	5,909	12.4	15,355	13.3
尿糖	94,252	65,992	3,949	4.2	971	1.5	4,920	3.1
血糖	73,149	53,733	9,610	13.1	4,130	7.7	13,740	10.8
HbA1c	47,366	32,249	6,928	14.6	5,444	16.9	12,372	15.5
赤血球系	75,654	55,529	11,906	15.7	15,291	27.5	27,197	20.7
白血球系	59,219	44,069	3,322	5.6	2,846	6.5	6,168	6.0
A S T	75,388	56,515	6,579	8.7	2,014	3.6	8,593	6.5
A L T	75,388	56,515	13,430	17.8	2,663	4.7	16,093	12.2
γ-G T	75,340	56,394	11,233	14.9	2,208	3.9	13,441	10.2
LDLコレステロール	75,047	55,997	19,614	26.1	13,208	23.6	32,822	25.0
中性脂肪	75,143	56,107	13,537	18.0	4,831	8.6	18,368	14.0
HDLコレステロール	75,088	56,187	5,700	7.6	5,319	9.5	11,019	8.4
尿酸	55,192	36,824	13,487	24.4	891	2.4	14,378	15.6
胃部分線	17,465	10,037	2,786	16.0	1,967	19.6	4,753	17.3
便潜血	38,822	31,510	2,464	6.3	1,613	5.1	4,077	5.8
胸部X線	77,608	59,810	14,206	18.3	9,894	16.5	24,100	17.5
L A P	149	63	13	8.7	3	4.8	16	7.5
T-B i l	10,285	10,600	908	8.8	400	3.8	1,308	6.3
Z T T	0	0	0	0.0	0	0.0	0	0.0

表1 労働基準監督署別実施人数

労働基準監督署名	令和4年度		令和3年度		対前年度比		
	事業所数	受診者数	事業所数	受診者数	増減数 (団体数)	増減率 (%)	
沼津	87	11,440	92	11,852	-5	-412	-3.5
三島	76	3,643	70	4,585	6	-942	-20.5
富士	108	20,542	108	20,366	0	176	0.9
静岡	1,921	60,176	1,861	60,643	60	-467	-0.8
島田	1,292	32,961	1,280	32,940	12	21	0.1
浜松	449	20,896	440	20,663	9	233	1.1
磐田	483	44,554	464	44,386	19	168	0.4
計	4,416	194,212	4,315	195,435	101	-1,223	-0.6

図1 受診者数の推移



沼津 三島 富士 静岡 島田 浜松 磐田

表3 判定別集計

検査項目	性別	合計		異常なし a		心配なし b		要経過観察 c		要再検査 d		要精密検査 e		要受診 f		要治療継続 g		異常なし (a+b)		有所見 (c+d+e+f+g)	
		人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
総合判定	男性	102,900	20.7	4,713	4.6	33,794	32.8	2,739	2.7	6,289	6.1	24,108	23.4	9,929	9.6	26,041	25.3	76,859	74.7		
	女性	83,971	24.0	8,627	10.3	28,005	33.4	1,270	1.5	4,849	5.8	14,383	17.1	6,687	8.0	28,777	34.3	55,194	65.7		
	計	186,871	22.2	13,340	7.1	61,799	33.1	4,009	2.1	11,138	6.0	38,491	20.6	16,616	8.9	54,818	29.3	132,053	70.7		
聴力	男性	87,238	89.2	0	0.0	9,217	10.6	0	0.0	3	0.0	193	0.2	0	0.0	77,825	89.2	9,413	10.8		
	女性	53,173	95.4	0	0.0	2,395	4.5	0	0.0	0	0.0	67	0.1	0	0.0	50,711	95.4	2,462	4.6		
	計	140,411	91.5	0	0.0	11,612	8.3	0	0.0	3	0.0	260	0.2	0	0.0	128,536	91.5	11,875	8.5		
胸部	男性	77,608	80.4	1001	1.3	12,785	16.5	26	0.0	1,093	1.4	202	0.3	100	0.1	63,402	81.7	14,206	18.3		
	女性	59,810	81.7	1037	1.7	8,944	15.0	36	0.1	800	1.3	52	0.1	62	0.1	49,916	83.5	9,894	16.5		
	計	137,418	81.0	2,038	1.5	21,729	15.8	62	0.0	1,893	1.4	254	0.2	162	0.1	113,318	82.5	24,100	17.5		
循環器	男性	94,910	56.2	13,460	14.2	7,441	7.8	3,375	3.6	1,419	1.5	5,142	5.4	10,756	11.3	66,777	70.4	28,133	29.6		
	女性	67,637	63.7	9,984	14.8	5,612	8.3	1,185	1.8	617	0.9	2,171	3.2	4,983	7.4	53,069	78.5	14,568	21.5		
	計	162,547	59.3	23,444	14.4	13,053	8.0	4,560	2.8	2,036	1.3	7,313	4.5	15,739	9.7	119,846	73.7	42,701	26.3		
消化器	男性	42,737	33.729	1,560	3.7	4,109	9.6	5	0.0	2,832	6.6	484	1.1	18	0.0	35,289	82.6	7,448	17.4		
	女性	34,127	27.938	1,655	4.8	2,506	7.3	1	0.0	1,559	4.6	464	1.4	4	0.0	29,593	86.7	4,534	13.3		
	計	76,864	61.667	3,215	4.2	6,615	8.6	6	0.0	4,391	5.7	948	1.2	22	0.0	64,882	84.4	11,982	15.6		
貧血	男性	75,654	59.293	4,455	5.9	8,763	11.6	0	0.0	272	0.4	2,817	3.7	54	0.1	63,748	84.3	11,906	15.7		
	女性	55,529	37.890	2,348	4.2	11,367	20.5	0	0.0	39	0.1	3,327	6.0	558	1.0	40,238	72.5	15,291	27.5		
	計	131,183	74.1	6,803	5.2	20,130	15.3	0	0.0	311	0.2	6,144	4.7	612	0.5	103,986	79.3	27,197	20.7		
白血球	男性	59,219	55.026	871	1.5	1,956	3.3	0	0.0	69	0.1	1,297	2.2	0	0.0	55,897	94.4	3,322	5.6		
	女性	44,069	40.771	452	1.0	1,765	4.0	0	0.0	98	0.2	983	2.2	0	0.0	41,223	93.5	2,846	6.5		
	計	103,288	95.797	1323	1.3	3,721	3.6	0	0.0	167	0.2	2,280	2.2	0	0.0	97,120	94.0	6,168	6.0		
肝機能	男性	76,303	51.632	1,998	2.6	12,159	15.9	0	0.0	2,862	3.8	7,652	10.0	0	0.0	53,630	70.3	22,673	29.7		
	女性	57,876	47.830	1,548	2.7	4,879	8.4	0	0.0	613	1.1	3,006	5.2	0	0.0	49,378	85.3	8,498	14.7		
	計	134,179	99.462	3,546	2.6	17,038	12.7	0	0.0	3,475	2.6	10,658	7.9	0	0.0	103,008	76.8	31,171	23.2		
脂質	男性	75,151	34.152	5,580	7.4	20,670	27.5	1	0.0	437	0.6	7,821	10.4	6,490	8.6	39,732	52.9	35,419	47.1		
	女性	56,218	26.035	6,060	10.8	13,309	23.7	0	0.0	254	0.5	5,658	10.1	4,902	8.7	32,095	57.1	24,123	42.9		
	計	131,369	60.187	11,640	8.9	33,979	25.9	1	0.0	691	0.5	13,479	10.3	11,392	8.7	71,827	54.7	59,542	45.3		
糖	男性	94,803	69.110	11,759	12.4	6,562	6.9	278	0.3	897	0.9	2,559	2.7	3,638	3.8	80,869	85.3	13,934	14.7		
	女性	67,641	51.178	8,014	11.8	5,644	8.3	79	0.1	287	0.4	1,193	1.8	1246	1.8	59,192	87.5	8,449	12.5		
	計	162,444	120.288	19,773	12.2	12,206	7.5	357	0.2	1184	0.7	3,752	2.3	4,884	3.0	140,061	86.2	22,383	13.8		
腎機能	男性	94,807	83.145	776	0.8	7,862	8.3	907	1.0	915	1.0	962	1.0	240	0.3	83,921	88.5	10,886	11.5		
	女性	67,605	56.160	980	1.4	7,173	10.6	808	1.2	1,561	2.3	836	1.2	87	0.1	57,140	84.5	10,465	15.5		
	計	162,412	139.305	1,756	1.1	15,035	9.3	1,715	1.1	2,476	1.5	1798	1.1	327	0.2	141,061	86.9	21,351	13.1		
尿酸	男性	55,192	41.017	74.3	688	1.2	9,046	16.4	1	0.0	95	0.2	4,345	7.9	0	0.0	41,705	75.6	13,487	24.4	
	女性	36,824	34.829	1,104	3.0	642	1.7	0	0.0	1	0.0	248	0.7	0	0.0	35,933	97.6	891	2.4		
	計	92,016	75.846	1,792	1.9	9,688	10.5	1	0.0	96	0.1	4,593	5.0	0	0.0	77,638	84.4	14,378	15.6		

図2 各判定別有所見率

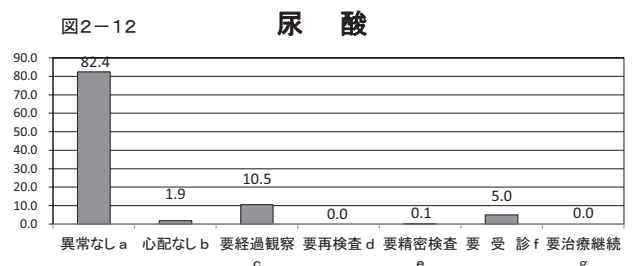
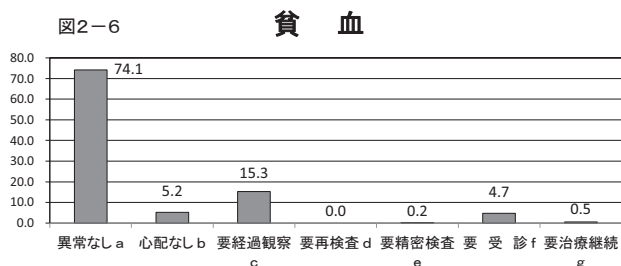
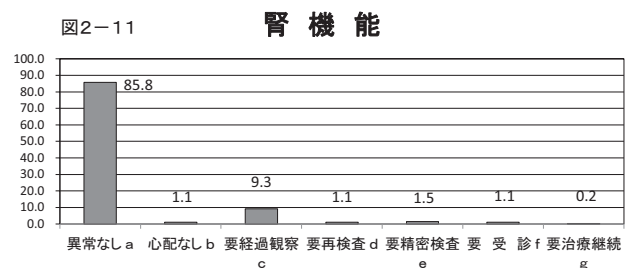
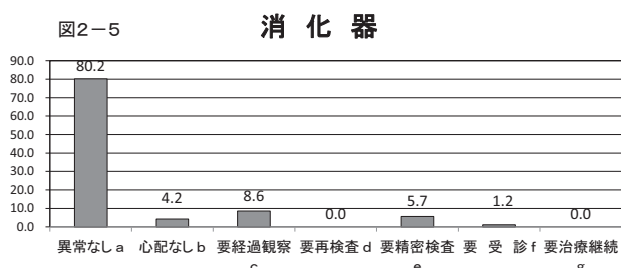
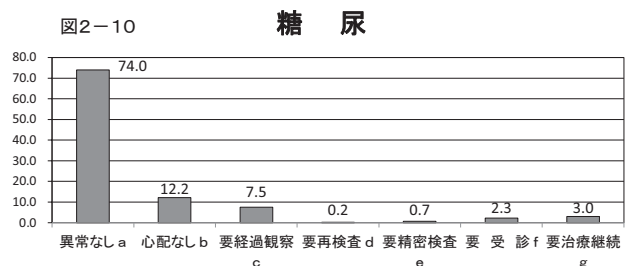
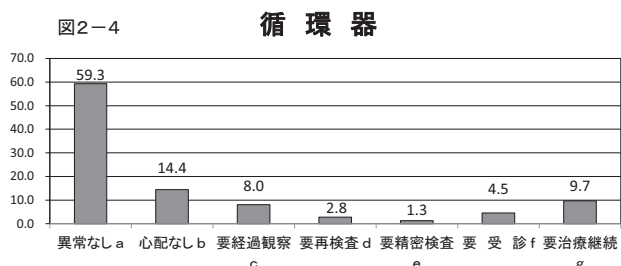
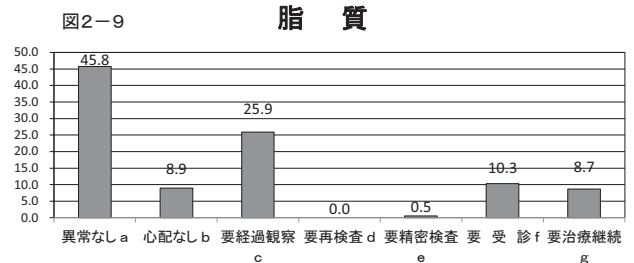
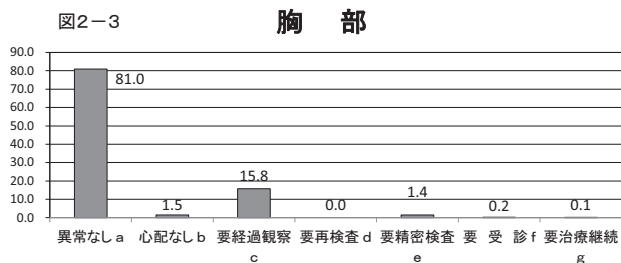
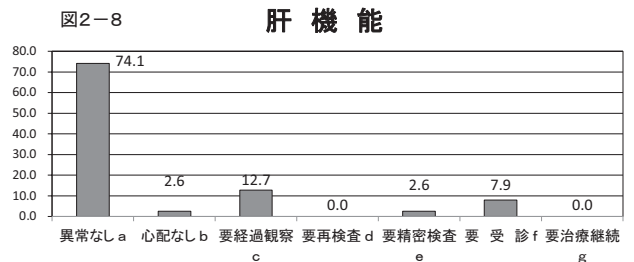
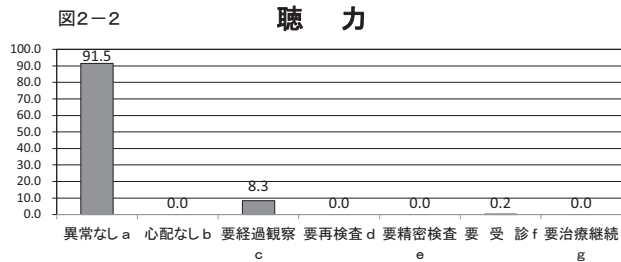
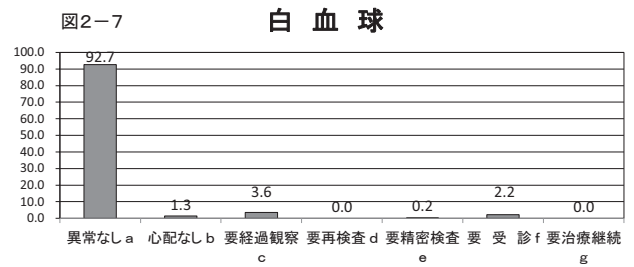
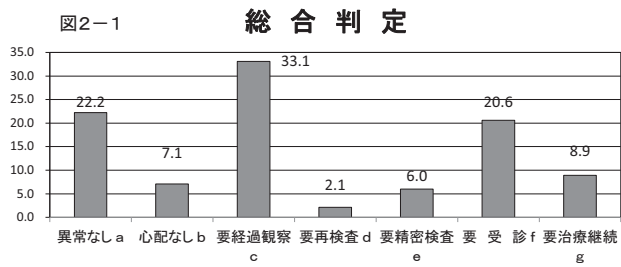


表 4 労働基準監督署別判定集計

労働基準監督署名	性	合計		異常なし a		心配なし b		要経過観察 c		要再検査 d		要精密検査 e		要受診 f		要治療継続 g		異常なし (a+b)		有所見 (c+d+e+f+g)	
		人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
沼津	男性	1,043	18.6	187	3.3	1,804	32.2	208	3.7	119	2.1	1,504	26.9	730	13.0	1,230	22.0	4,365	78.0		
	女性	1,266	21.7	468	8.0	2,325	39.8	148	2.5	223	3.8	812	13.9	603	10.3	1,734	29.7	4,111	70.3		
	計	2,309	20.2	655	5.7	4,129	36.1	356	3.1	342	3.0	2,316	20.2	1,333	11.7	2,964	25.9	8,476	74.1		
三島	男性	1,855	7.2	115	6.2	585	31.5	54	2.9	57	3.1	570	30.7	340	18.3	249	13.4	1,606	86.6		
	女性	1,788	11.8	149	8.3	686	38.4	34	1.9	92	5.1	357	20.0	259	14.5	360	20.1	1,428	79.9		
	計	3,643	9.5	264	7.2	1,271	34.9	88	2.4	149	4.1	927	25.4	599	16.4	609	16.7	3,034	83.3		
富士	男性	13,197	15.1	411	3.1	4,531	34.3	628	4.8	544	4.1	3,364	25.5	1,727	13.1	2,403	18.2	10,794	81.8		
	女性	7,345	16.5	1,097	14.9	2,886	39.3	105	1.4	313	4.3	928	12.6	803	10.9	2,310	31.4	5,035	68.6		
	計	20,542	15.6	1,508	7.3	7,417	36.1	733	3.6	857	4.2	4,292	20.9	2,530	12.3	4,713	22.9	15,829	77.1		
静岡	男性	31,788	19.7	1,660	5.2	11,533	36.3	632	2.0	2,627	8.3	6,335	19.9	2,751	8.7	7,910	24.9	23,878	75.1		
	女性	21,237	25.2	1,722	8.1	7,686	36.2	339	1.6	1,325	6.2	3,378	15.9	1,438	6.8	7,071	33.3	14,166	66.7		
	計	53,025	21.9	3,382	6.4	19,219	36.2	971	1.8	3,952	7.5	9,713	18.3	4,189	7.9	14,981	28.3	38,044	71.7		
島田	男性	20,855	14.1	1,119	5.4	7,001	33.6	534	2.6	1,358	6.5	5,715	27.4	2,190	10.5	4,057	19.5	16,798	80.5		
	女性	12,106	14.5	1,242	10.3	4,429	36.6	217	1.8	884	7.3	2,484	20.5	1,090	9.0	3,002	24.8	9,104	75.2		
	計	32,961	14.3	2,361	7.2	11,430	34.7	751	2.3	2,242	6.8	8,199	24.9	3,280	10.0	7,059	21.4	25,902	78.6		
浜松	男性	9,453	32.8	340	3.6	2,473	26.2	179	1.9	502	5.3	2,282	24.1	581	6.1	3,436	36.3	6,017	63.7		
	女性	11,443	29.1	553	4.8	3,119	27.3	172	1.5	624	5.5	2,883	25.2	767	6.7	3,878	33.9	7,565	66.1		
	計	20,896	30.7	893	4.3	5,592	26.8	351	1.7	1,126	5.4	5,165	24.7	1,348	6.5	7,314	35.0	13,582	65.0		
磐田	男性	20,171	29.1	883	4.4	5,871	29.1	504	2.5	1,088	5.4	4,338	21.5	1,611	8.0	6,759	33.5	13,412	66.5		
	女性	24,383	28.9	3,432	14.1	6,928	28.4	260	1.1	1,423	5.8	3,541	14.5	1,760	7.2	10,471	42.9	13,912	57.1		
	計	44,554	29.0	4,315	9.7	12,799	28.7	764	1.7	2,511	5.6	7,879	17.7	3,371	7.6	17,230	38.7	27,324	61.3		
合計	男性	102,914	20.7	4,715	4.6	33,798	32.8	2,739	2.7	6,295	6.1	24,108	23.4	9,930	9.6	26,044	25.3	76,870	74.7		
	女性	84,147	24.0	8,663	10.3	28,059	33.3	1,275	1.5	4,884	5.8	14,383	17.1	6,720	8.0	28,826	34.3	55,321	65.7		
	計	187,061	22.2	13,378	7.2	61,857	33.1	4,014	2.1	11,179	6.0	38,491	20.6	16,650	8.9	54,870	29.3	132,191	70.7		

注：判定評価は、表 3 判定別集計の総合判定を推計しております。

2) 特殊健康診断

特殊健康診断には、実施が義務づけられているじん肺健康診断および有害業務従事者に対する健診（有機溶剤・電離放射線・特定化学物質・鉛・石棉・高気圧）と、指導勧奨による健康診断（騒音・腰痛・情報機器作業・振動）などに分けることができる。

令和4年度に当協会で特殊健康診断を実施した団体数は、昨年度に比べ265団体増加し3,068団体であった。

実施が義務づけられている特殊健診総受診者は21,762人で、昨年度に比べ1,091人（5.6%）減少し、通達により実施の特殊健診総受診者は22,428人で、昨年度に比べ501人（2.1%）減少した。

総受診者数においては、昨年度の45,782人から1,592人（3.5%）減少して44,190人となった。また各健診受診者を比較すると、振動（13.9%）、その他（0.4%）が増加し、有機溶剤（2.5%）、鉛（3.6%）、電離（2.7%）、特定化学物質（3.5%）、情報機器作業（7.1%）、頸肩腕（6.4%）、腰痛（1.7%）が減少した。

じん肺検診は27.4%減少したが、これは3年以内毎に1回実施のため、当該年度が減少したと考える。また、全体として受診者数が減少しているが、感染症感染拡大による影響があると思われる。
（築山 恒貴）

表1-1 代謝物分布表・検査結果

有機溶剤・特定化学物質名	検査項目	分布区分1	分布区分2	分布区分3	総計
トルエン	尿中馬尿酸	2,567	78	14	2,659
キシレン	尿中メチル馬尿酸	2,145	0	2	2,147
エチルベンゼン	尿中マンデル酸	630	1	0	631
テトラクロロエチレン	尿中トリクロロ酢酸				
	尿中総三塩化物	21	0	0	21
1・1・1トリクロロエタン	尿中トリクロロ酢酸				
	尿中総三塩化物	26	0	0	26
トリクロロエチレン	尿中トリクロロ酢酸				
	尿中総三塩化物	15	0	0	15
NNジメチルホルムアミド	尿中N-メチルホルムアミド	516	9	0	525
ノルマルヘキサン	尿中2.5ヘキサンジオン	1,448	6	0	1,454
スチレン（2020_7月法改正後）	尿中のマンデル酸及びフェニルグリオキシル酸の総量	分布報告はありません			267

表1-2 代謝物の検査分布表

有機特化コード	有機溶剤の名称	検査内容コード	検査内容	単位	分布		
					1	2	3
11	キシレン	1	尿中メチル馬尿酸	g / L	0.5以下	0.5超～1.5以下	1.5超
30	NNジメチルホルムアミド	1	尿中N-メチルホルムアミド	mg / L	10以下	10超～40以下	40超
31・242	スチレン・エチルベンゼン	1	尿中マンデル酸	g / L	0.3以下	0.3超～1以下	1超
253	テトラクロロエチレン	1	尿中トリクロロ酢酸	mg / L	3以下	3超～10以下	10超
		2	尿中総三塩化物	mg / L	3以下	3超～10以下	10超
35	1・1・1トリクロロエタン	1	尿中トリクロロ酢酸	mg / L	3以下	3超～10以下	10超
		2	尿中総三塩化物	mg / L	10以下	10超～40以下	40超
254	トリクロロエチレン	1	尿中トリクロロ酢酸	mg / L	30以下	30超～100以下	100超
		2	尿中総三塩化物	mg / L	100以下	100超～300以下	300超
37	トルエン	1	尿中馬尿酸	g / L	1以下	1超～2.5以下	2.5超
39	ノルマルヘキサン	1	尿中2.5ヘキサンジオン	mg / L	2以下	2超～5以下	5超
251	スチレン	1	尿中のマンデル酸及びフェニルグリオキシル酸の総量	g / L	基準値 0.43以下		

表1-3 鉛分布表・検査結果

検査内容	単位	分布			健診結果			
		1	2	3	分布1	分布2	分布3	計
血液中の鉛の量	μg / 100ml	20以下	20超40以下	40超	325	0	0	325
尿中のデルタアミノレブリン酸の量	mg / l	5以下	5超10以下	10超	325	0	0	325

表2 特殊健康診断成績表(労働基準監督署別)

区分	性別	有機溶剤			鉛			電離放射線			じん肺			特定化学物質			情報機器作業			頸肩腕			腰痛			振動病			その他				
		事業所数	受検者数	有所見率	事業所数	受検者数	有所見率	事業所数	受検者数	有所見率	事業所数	受検者数	有所見率	事業所数	受検者数	有所見率	事業所数	受検者数	有所見率	事業所数	受検者数	有所見率	事業所数	受検者数	有所見率	事業所数	受検者数	有所見率	事業所数	受検者数	有所見率		
沼津	男	443	12	2.7				988	149	15.1	83	2	2.4	1382	93	6.7	77	1	1.3				78	46	59.0				1617	189	10.5	騒音1138	
	女	88	5	5.7				353	124	35.1				28	2	7.1	85	9	10.6				588	385	65.5				56	3	5.4	有害光線355	
	計	531	17	3.2				1341	273	20.4	83	2	2.4	1410	95	6.7	162	10	6.2				666	431	64.7				1673	172	10.3	酸180	
三島	男																38	0	0.0				22	10	45.5								
	女	0								0							17	1	5.9				28	16	57.1				0				
	計																55	1	1.8				50	26	52.0								
富士	男	302	6	2.0				65	19	29.2	646	1	0.2	904	18	2.0	112	25	22.3										2877	485	16.2	騒音3035	
	女	19	0	0.0				2	1	50.0	19	0	0.0	31	0	0.0	49	1	2.0				0					158	12	7.6			
	計	353	6	1.7				67	20	29.9	665	1	0.2	935	18	1.9	161	26	16.1									3035	477	15.7			
静岡	男	1203	108	9.0				125	45	36.0	59	0	0.0	1284	162	12.6	427	205	48.0				210	49	23.3				1694	183	10.8	騒音686 高気圧225 有害光線583	
	女	135	147	8	5.4			4	2	50.0	29	0	0.0	107	10	9.3	243	137	56.4				7	1177	324	27.5			139	6	4.3	レーザー光線1 酸15 亜硫酸17 酵素59	
	計	1350	116	8.6				129	47	36.4	59	0	0.0	1391	172	12.4	670	342	51.0				1387	373	26.9				1833	189	10.3	重量物76 歯科157 有機リン4	
島田	男	1838	217	11.8				248	61	24.6	567	6	1.1	3453	250	7.2	203	29	14.3				235	115	49.9				3143	476	15.1	騒音2988 超音波104 感染症69	
	女	283	553	64	11.6			21	6	28.6	111	20	0	611	66	10.8	157	25	15.9				23	383	204	53.3			225	404	28	6.9	有害光線177 レーザー光線89
	計	2391	281	11.8				269	67	24.9	587	6	1.0	4064	316	7.8	360	54	15.0				618	319	51.6				3547	504	14.2	酸120	
磐田	男	1629	55	3.4				43	0	0.0	291	0	0.0	1563	73	4.7	200	25	12.5				303	129	42.6				2643	291	11.0	騒音2874	
	女	143	590	3	0.5						32	0	0.0	309	11	3.6	44	4	9.1				37	763	308	40.4			106	415	8	1.9	有害光線128
	計	2219	58	2.6				43	0	0.0	299	0	0.0	1872	84	4.5	244	29	11.9				1066	437	41.0				3058	299	9.8	レーザー光線56	
浜松	男	524	25	4.8				44	1	2.3	73	3	4.1	190	3	1.6	120	21	17.5				324	182	56.2				62	6	9.7	騒音40	
	女	85	185	0	0.0			78	5	6.4	26	7	0	53	0	0.0	51	18	35.3				890	495	55.6			13	10	1	10.0	有害光線26 レーザー光線2	
	計	709	25	3.5				122	6	4.9	80	3	3.8	243	3	1.2	171	39	22.8				1214	677	55.8				72	7	9.7	酸4	
計	男	5939	423	7.1				1513	275	18.2	1719	12	0.7	8776	599	6.8	1177	306	26.0				1172	531	45.3				12036	1590	13.2	騒音10761 高気圧225 超音波104 感染症69	
	女	686	1614	80	5.0			458	138	30.1	213	54	0	1139	89	7.8	646	195	30.2				118	3829	1732	45.2			498	1182	58	4.9	有害光線1279 レーザー光線148 酸319 亜硫酸17
	計	7553	503	6.7				1971	413	21.0	1773	12	0.7	9915	688	6.9	1823	501	27.5				5001	2263	45.3				13218	1648	12.5	酵素59 重量物76 有機リン4 歯科157	

3) ストレスチェック

【はじめに】

平成 26 年 6 月公布の労働安全衛生法の改正において、労働者の心理的な負担の程度を把握するための検査（以下「ストレスチェック」という。）及びその結果に基づく面接指導の実施等を内容としたストレスチェック制度が新たに創設され、平成 27 年 12 月に施行された。現在、50 人以上の事業所では年に 1 度のストレスチェックの実施が事業者に義務付けられている。

本制度は労働者のストレスの程度を把握し、労働者自身のストレスへの気づきを促すとともに、職場改善につなげ、働きやすい職場づくりを進めることによって、労働者がメンタルヘルス不調となることを未然に防止すること（一次予防）を目的としている。

当協会においても、平成 27 年 12 月より本制度による業務を開始し 9 年目を迎えた。令和 4 年度のストレスチェックの実施状況をまとめたので報告する。

【ストレスチェック実施状況】

令和 4 年度のストレスチェック実施状況は、表 1 に示したように、268 団体から申し込みがあり、27,157 人が受診した。すべての団体で、標準的な「職業性ストレス簡易調査票」（57 項目）を採用した。

【高ストレス者の割合】

高ストレス者の選定方法は、厚生労働省が作成した「労働安全衛生法に基づくストレスチェック制度マニュアル」で示されている 2 つの選定方法のうち、267 団体が評価基準その 1「合計点数法」を採用し、1 団体が評価基準その 2「素点換算表を使う方法」を採用した。抽出後、実施者本人に報告している。

厚生労働省の基準では受診者の約 10%が高ストレス者となるよう選定基準が設定されている。同基準で行った当協会では 27,157 人中 3,993 人、14.7%が高ストレス者となり、厚生労働省の設定よりやや高い結果となった。（表 1）経年変化で見えていくと、制度を導入した翌年の平成 28 年度は 12.2%、平成 30 年度は 13.9%、令和 3 年度は 14.2%と年々増加傾向にあるといえる。年代別にみると、30 歳代が 18.0%と一番高く、次いで 40 歳代が 16.8%という結果であった。

（表 2）業種別にみると、生活関連サービス業、娯楽業が高ストレス者の割合が一番高く、38.5%であった。（表 3）

【医師面接について】

高ストレス者と判定された 3,993 人のうち、当協会が医師面接を実施した者は 6 人（0.15%）にとどまった。また、保健師等による相談対応は 0 人（0.0%）であった。（表 1）

当協会ではストレスチェックを実施した多くの事業所では、高ストレス者の医師面接は事業場選任の産業医等によって実施しているため実態は把握できない。尚、令和 4 年 1 月～12 月の全国衛生団体連合会の実施結果報告書では、高ストレスと判定され、医師面接を実施した者の割合は 1.5%、相談対応を実施した者の割合は 0.8%とそれぞれ非常に少ない。この結果から当協会でも同様であると考えられる。

【まとめ】

当協会では、ストレスチェック制度の目的とされている一次予防の観点から、実施した全員の結果に目的や概要、ストレスへの対処法や相談窓口等を記載したリーフレットを同封している。また、高ストレス者に向けての医師面接や保健師等による相談についての案内も同封し、事後フォローに繋げている。さらに、希望のあった事業所には「集団分析」を実施し、データを提供している。常用労働者を 10 人以上雇用する民営事業所から無作為に抽出した約 14,000 事業所に行った厚生労働省 労働安全衛生調査の発表によると、R4 年（期間：R3 年 11 月 1 日～R4 年 10 月 31 日）は、「集団分析」を実施した事業所の割合は 72.2%、その結果を活用し職場環境改善を実施した事業所の割合は、80.2%であった。当協会では 9 割近くの事業所で「集団分析」を実施しているが、結果を活用した事業所の割合や活用方法の情報がなく、不明確である。

令和 4 年 3 月に発表されている厚生労働省「ストレスチェック制度の効果的な実施と活用に向けて」によると、ストレスチェック制度により、事業所側は「社員のセルフケアへの関心度の高まり」や「メンタルヘル스에理解のある職場風土の醸成」を効果として感じており、労働者側の半数以上が「自分のストレスを意識するようになった」と効果を挙げている。いずれもストレスチェックの目的とされている一次予防の観点に即した結果となっていると言える。以上から、今後当協会としてはこれらを強調し、努力義務とされている企業にも実施を促し、制度を最大限に生かしていきたい。（山本 由佳梨）

表 1 令和 4 年度 契約区分別受診団体

契約区分	団体数	受診者数(人)	高ストレス(人)	医師面接・相談実施数(人)
ストレスチェックのみ	226	21,292	3,155	0
相談、保健指導含む	3	800	114	0
法定の医師面接に対応	39	5,065	724	6
合計	268	27,157	3,993	6

表 2 令和 4 年度 男女年代別高ストレス者割合

年代	男			女			合計		
	受診者数(人)	高ストレス(人)	高ストレス(%)	受診者数(人)	高ストレス(人)	高ストレス(%)	受診者数(人)	高ストレス(人)	高ストレス(%)
10歳代	74	9	12.2	65	7	10.8	139	16	11.5
20歳代	2,261	296	13.1	1,805	287	15.9	4,066	583	14.3
30歳代	3,060	575	18.8	2,116	355	16.8	5,176	930	18.0
40歳代	3,608	660	18.3	2,959	442	14.9	6,567	1,102	16.8
50歳代	3,506	546	15.6	3,172	465	14.7	6,678	1,011	15.1
60歳代	2,047	162	7.9	1,719	148	8.6	3,766	310	8.2
70歳代	479	27	5.6	267	13	4.9	746	40	5.4
80歳代	13	1	7.7	6	0	0.0	19	1	5.3
総計	15,048	2,276	15.1	12,109	1,717	14.2	27,157	3,993	14.7

表 3 令和 4 年度 業種別高ストレス者割合

業種	受診者数(人)	高ストレス(人)	高ストレス(%)
ゴム製品工業製造業	13	1	8
サービス業(他に分類されないもの)	1,999	274	13.7
その他	490	73	14.9
その他の製造業	1,647	268	16.3
パルプ・紙・紙加工品製造業	618	120	19.4
はん用機械器具製造業	18	4	22.2
プラスチック製品製造業	466	83	17.8
医療、福祉	4,988	715	14.3
印刷・同関連業	985	171	17.4
飲料・たばこ・飼料製造業	351	46	13.1
運輸業、郵便業	970	130	13.4
卸業、小売業	548	79	14.4
化学工業	1,096	144	13.1
家具・装備品製造業	117	21	17.9
教育、学習支援業	1,679	221	13.2
業務用機械器具製造業	515	72	14.0
金属製品製造業	685	118	17.2
建設業	177	21	11.9
公務(他に分類されるものを除く)	4,356	497	11.4
宿泊業、飲食業	139	27	19.4
情報通信業	38	4	10.5
食料品製造業	890	126	14.2
生活関連サービス業、娯楽業	325	125	38.5
生産用機械器具製造業	363	57	15.7
石油製品・石炭製品製造業	54	3	5.6
繊維工業	219	31	14.2
鉄鋼業	49	13	26.5
電気機械器具製造業	980	150	15.3
電子部品・デバイス・電子回路製造業	147	23	15.6
農業、林業	67	4	6.0
非鉄金属製造業	63	2	3.2
不動産業、物品賃貸業	73	13	17.8
複合サービス事業	1	0	0.0
木材・木製品製造業(家具を除く)	73	14	19.2
輸送用機械器具製造業	1,958	343	17.5
総計	27,157	3,993	14.7

4) 喀痰細胞診による肺がん検診

肺がんは、発生部位により肺野部肺がんと肺門部肺がんの二つに分けられる。胸部エックス線検査は、肺野部肺がんの早期発見を、喀痰細胞診は、肺門部肺がんの早期発見を主な目的として行われる。当協会では、昭和58年から喀痰細胞診検査による肺がん検診を実施している。(早野 雅代)

表1 集団検診における喀痰細胞診の判定基準と指導区分 (日本肺癌学会「臨床・病理肺癌取扱い規約第8版」より)

判定区分	細胞所見	指導区分
A	喀痰中に組織球を認めない	材料不適、再検査
B	正常上皮細胞のみ 基底細胞増生	現在異常を認めない 次回定期検査
C	軽度異型扁平上皮細胞 線毛円柱上皮細胞	程度に応じて6ヵ月以内の追加検査と追跡
D	中等度異型扁平上皮細胞 核の増大や濃染を伴う円柱上皮細胞	ただちに精密検査
E	高度(境界)異型扁平上皮細胞または 悪性腫瘍の疑いある細胞を認める 悪性腫瘍細胞を認める	

表2 令和4年度 喀痰細胞診検査成績

* 令和4年度地域の東部・中部地区の受託はなし

区分	地区	受診者	A	(%)	B	(%)	C	(%)	D	(%)	E	(%)
地域	東部	0	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
	中部	0	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
	西部	845	5	0.59	837	99.05	0	0.00	2	0.24	1	0.12
	合計	845	5	0.59	837	99.05	0	0.00	2	0.24	1	0.12
職域	東部	224	6	2.68	217	96.88	1	0.45	0	0.00	0	0.00
	中部	40	0	0.00	40	100.0	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	西部	11	0	0.00	11	100.0	0	0.00	0	0.00	0	0.00
	合計	275	6	2.18	268	97.45	1	0.36	0	0.00	0	0.00

表3 年度別 地域における喀痰細胞診成績

年度	受診者	A	(%)	B	(%)	C	(%)	D	(%)	E	(%)
平成30	1,133	256	22.59	877	77.41	0	0.00	0	0.00	0	0.00
令和元	1,076	237	22.03	838	77.88	1	0.09	0	0.00	0	0.00
2	870	34	3.91	836	96.09	0	0.00	0	0.00	0	0.00
3	886	15	1.69	859	96.95	11	1.24	1	0.11	0	0.00
4	845	5	0.59	837	99.05	0	0	2	0.24	1	0.12

表4 年度別 職域における喀痰細胞診成績

年度	受診者	A	(%)	B	(%)	C	(%)	D	(%)	E	(%)
平成30	305	47	15.41	258	84.59	0	0.00	0	0.00	0	0.00
令和元	284	39	13.73	244	85.92	1	0.35	0	0.00	0	0.00
2	270	44	16.30	226	83.70	0	0.00	0	0.00	0	0.00
3	265	14	5.28	249	93.96	2	0.75	0	0.00	0	0.00
4	275	6	2.18	268	97.45	1	0.36	0	0.00	0	0.00

5) 婦人科細胞診による子宮頸がん検診

〔はじめに〕

国立がん研究センターの報告によると、国内の子宮頸がんの年間罹患数は約 11,000 例、年間死亡者数は約 2,900 人である。がんを治すには、早期発見と早期治療が重要である。子宮頸がんは HPV（ヒトパピローマウイルス）の持続的な感染が原因といわれている。定期的な検診で異形成とよばれる前がん状態で発見、治療することによりがんの発症を未然に防ぐことができる。

当協会では、昭和 47 年度から子宮頸がん検診を実施している。

〔検診方法〕

子宮がん検診車による巡回健診と施設内健診を実施している。子宮頸部からサーベックスブラシで擦って細胞を採取し、液状処理（Sure Path 法）にて標本作製し細胞診検査を行う。細胞診の判定は、ベセスダシステム（表 1）に拠った。

〔成績〕

令和 4 年度の子宮がん検診の受診者数は 14,499 人（対前年度 80 人減）、要精検者 116 人、要精検率 0.8%であった。

表 2 には、地域健診の結果を示した。令和 4 年度は 6,240 人が受診し、38 人（0.6%）が要精密検査となった。

表 3 には、職域による結果を示した。8,259 人が受診し、78 人（0.9%）が要精密検査となった。

要精密検査となった 116 人のうち、追跡調査が可能であった 46 人の結果を表 4 に示した。地域健診の精検受診率は 68.4%（精検受診者 26 人）、職域健診の精検受診率は 25.6%（精検受診者 20 人）であった。

年齢階層別結果を表 5 に示した。40～49 歳が

3,897 人（26.9%）、50～59 歳が 3,785 人（26.1%）と全体のおよそ 53%を占めている。29 歳以下は 594 人（4.1%）と若い年齢層の占める割合は低い。年齢別受診者数に対する要精検者数は、29 歳以下が 3.7%、30～39 歳が 1.0%、40～49 歳が 1.0%、50 歳以上が 0.4%と若い年齢層の要精検率が高い。

〔まとめ〕

全国的に見ても、子宮頸がん及びその前駆病変は 20～40 歳代の罹患率が高く、特に 20 歳代の増加が近年問題となっている。しかし、20～30 歳代の受診率は低い。また若年者に限らず、日本の子宮頸がん検診受診率は約 43%であり、欧米の受診率 70～80%と比較すると極めて低い。がん検診の重要性を啓蒙し、受診者を増やして、がんの早期発見に努めていく必要がある。

地域健診では、精検受診状況と精検受診勧奨状況を市町村へ報告するため、職域健診と比べて精検受診率が高い。しかし、職域健診では精検受診状況の把握が困難で受診勧奨も十分にできない。精検受診率を上げ、早期発見につなげることが課題である。（大畑 みゆき）

表 1 ベセスダシステムに基づく細胞診分類

NILM	陰性
ASC-US	意義不明な異型扁平上皮細胞
ASC-H	HISL を除外できない異型扁平上皮細胞
LSIL	軽度異型扁平上皮内病変
HSIL	高度異型扁平上皮内病変
SCC	扁平上皮癌
AGC	異型腺細胞
AIS	内頸部上皮内腺癌
Adeno ca.	腺癌
Other	その他の悪性腫瘍

表 2 地域健診結果

地区	受診者数	NILM	要精密検査（合計 38）									検査不適
			ASC-US	ASC-H	LSIL	HSIL	SCC	AGC	AIS	Adeno	Other	
東部	755	750	0	0	1	3	0	1	0	0	0	0
中部	1,235	1,229	4	0	0	1	0	1	0	0	0	0
西部	4,250	4,223	7	3	6	11	0	0	0	0	0	0
合計	6,240	6,202	11	3	7	15	0	2	0	0	0	0

表 3 職域健診結果

地区	受診者数	NILM	要精密検査 (合計 78)									検査不適
			ASC-US	ASC-H	LSIL	HSIL	SCC	AGC	AIS	Adeno	Other	
施設健診	5,718	5,662	23	9	14	7	1	2	0	0	0	0
巡回健診	2,541	2,519	8	0	10	4	0	0	0	0	0	0
合計	8,259	8,181	31	9	24	11	1	2	0	0	0	0

表 4 精密検査結果

区分	要精密検査結果 (合計 46)									
	NILM	ASC-US	CIN1	CIN2	CIN3	SCC	AGC	AIS	Adeno ca	Other
地域健診	8	1	10	1	5	0	0	1	0	0
職域健診	7	0	6	4	2	0	0	0	1	0
合計	15	1	16	5	7	0	0	1	1	0

表 5 年齢階層別結果

年齢	受診者数	要精検者数	要精検率 (%)	細胞診検査結果 ベセスダ										
				NILM	ASC-US	ASC-H	LSIL	HSIL	SCC	AGC	AIS	Adeno	Other	不適
～19	4	1	25.0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20～24	213	8	3.8	205	3	0	5	0	0	0	0	0	0	0
25～29	377	13	3.4	364	5	0	4	4	0	0	0	0	0	0
30～34	671	6	0.9	665	2	1	2	1	0	0	0	0	0	0
35～39	1,194	13	1.1	1,181	4	1	6	2	0	0	0	0	0	0
40～44	1,728	11	0.6	1,717	6	0	2	3	0	0	0	0	0	0
45～49	2,169	29	1.3	2,140	10	3	8	5	0	3	0	0	0	0
50～54	2,012	10	0.5	2,002	3	2	1	4	0	0	0	0	0	0
55～59	1,773	14	0.8	1,759	6	2	2	2	1	1	0	0	0	0
60～64	1,606	8	0.5	1,598	2	1	1	4	0	0	0	0	0	0
65～69	1,153	1	0.1	1,152	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
70～74	1,007	2	0.2	1,005	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
75～79	438	0	0.0	438	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
80～	154	0	0.0	154	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	14,499	116	0.8	14,383	42	12	31	26	1	4	0	0	0	0

6) 血液型検査

集団検診の血液型検査では、ABO 式血液型及び Rh 式血液型の検査を行っている。

以前は盛んに行われていた学童の血液型検査であるが、近年の受検者は海外留学生や個人希望者などであり、令和 4 年度は 1 団体 14 件であっ

た。

成人では新規受託団体や雇用時健診、危険業務従事者、海外渡航者などが主で、件数は年ごとに増減があり、令和 4 年度は 18 団体 93 件であった。

(尾崎 栄世)

表 1 団体別実数と型別分類

型別 団体別 (団体数)		A B O 式 と R h 式								
		受検者	A		O		B		AB	
			+	-	+	-	+	-	+	-
			(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
幼稚園	(0)	0								
小学校	(0)	0								
中学校	(0)	0								
高等学校	(0)	0								
大学・専門学校	(1)	14	7		3		4			
特別支援学校・施設	(0)	0								
学校保健計	(1)	14	7	0	3	0	4	0	0	0
一般	事業所	(17)	92	41 (44.6)		24 (26.1)		22 (23.9)		5 (5.4)
	地域	(0)	0							
	教職員	(0)	0							
	個人	(1)	1		1					
	一般計	(18)	93	41 (44.1)	0	25 (26.9)	0	22 (23.6)	0	5 (5.4)
合計	(19)	107	48 (44.8)	0	28 (26.2)	0	26 (24.3)	0	5 (4.7)	0

表 2 過去の受検者数の推移

区分	平成 26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	令和 元年度	2 年度	3 年度	4 年度
学校保健	2	4	0	0	78	34	47	28	14
一般	64	159	106	22	13	11	71	61	93
合計	66	163	106	22	91	45	118	89	107

7) 細菌検査

〔公衆衛生と腸内細菌〕

本事業は、食品衛生法に基づき、集団給食従事者、食品関係営業従事者、食品関係製造従事者及び水道施設従事者などの保菌者を感染源として経口感染する腸管感染症の発生を事前に防止するために行う検査である。従って、受検者の職業からいえば、食品衛生の分野において重要な検査といえる。

腸内細菌（サルモネラ・赤痢菌）等団体別検査概要を表1に示した。令和4年度の検査件数は37,458件であった。これらの検査は、分離培養した後、各種鑑別培地を用いて確認培養を行い、生化学的性状により同定し、併せて各種腸内細菌診断用血清を用いて血清型別を行い決定する。分離された病原菌はサルモネラO4群1件とO7群3件であった。チフス菌、パラチフス菌、赤痢菌などの第三類感染症原因菌は検出されなかった。

腸管出血性大腸菌O157 団体別検査概要を表2に示した。令和4年度の検査件数は35,822件であった。腸管出血性大腸菌O157（第三類感染症原因菌）は検出されなかった。

〔食品と細菌汚染〕

この検査は、いずれも食品製造業者からの依頼であり、各社の自主的な製造基準や納品に必要な細菌学的安全性の証明などを目的として行ったものである。検査は、食品衛生検査指針の微生物編等に準拠し、一般生菌数、大腸菌群、サルモネラ、黄色ブドウ球菌、腸炎ビブリオ、大腸菌、腸管出血性大腸菌O157等を対象とした細菌学的検査を行い、表3のような結果を得た。

（倉島 友子）

表1 腸内細菌（サルモネラ・赤痢菌）等団体別検査概要

区分	検査件数	陽性者数	サルモネラ陽性者						赤痢菌陽性者					
			O4群	O7群	O8群	O9群	O3,10群	その他	A群	B群	C群	D群		
食品取扱者	食品衛生協会	5,642	0											
	幼稚園・保育園	16,051	4	1	3									
	事業所等	12,314	0											
	個人	87	0											
	施設	1,290	0											
	特別支援	3	0											
計	35,387	4	1	3										
学生・生徒	大学等	1,687	0											
	高校生	358	0											
	中学生	26	0											
	計	2,071	0											
合計	37,458	4	1	3										

表2 腸管出血性大腸菌O157 団体別検査概要

団体名	食品取扱者							学生生徒児童					合計
	食品衛生協会	私立幼稚園 私立保育園	事業所等	個人	施設	特別支援	計	大学等	高校生	中学生	幼稚園 保育園	計	
検査件数	5,570	15,766	11,036	86	1,290	3	33,751	1,687	358	26		2,071	35,822
陽性者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	0

表3 食品検査概要

検査の組み合わせ	検査件数	陽性数	陽性の内訳											
			A 一般生菌数	B 大腸菌群	C サルモネラ	D 黄色ブドウ球菌	E 腸炎ビブリオ	F 大腸菌	G 腸管出血性大腸菌O157	H 病原性大腸菌	I カンピロバクター	J 赤痢菌	K チフス菌	L セレウス菌
A														
A+B														
A+B+C														
A+B+C+D														
A+B+C+D+E+G	3	0												
A+B+C+D+F+G														
A+B+D														
A+B+G														
B														
B+C+G														
G	12	0												
合計	15	0												

8) 寄生虫卵検査

糞便検査は、主にセロファン厚層塗抹法を実施している。令和4年度の受検者数は234人で、有卵者数は0人であった。限られた事業所からの依頼となっている。

寄生虫保有率は年々減少しているが、現在でも輸入野菜や国内産野菜での化学肥料に頼らない栽培や無農薬栽培があるため、今後も十分な注意が必要である。

蟯虫検査はウスイ式セロファンテープを用い、二日にわたって採卵する二日法で実施している。受検者数は0人であった。

(倉島 友子)

表1 寄生虫卵検査成績集計表 (セロファン厚層塗抹法)

地 域 (事業所)

区分 団体名	受検者数	有卵者数	%	内 訳											
				回虫卵	%	不受精卵	鉤虫卵	%	鞭虫卵	%	蟯虫卵	横吸虫卵	条虫卵	その他	二種以上
三 島 市	222	0													
富 士 宮 市	12	0													
合 計	234	0													

表2 蟯虫卵検査成績表 (セロファンテープ検肛法【ウスイ式】)

その他 (施設・個人依頼)

区分 郡市名	受検者数	有卵者数	%
静 岡 市			
磐 田 市			
合 計			

9) 住民健診

〔特定健診〕

急速な高齢化の進展に伴い、疾病構造も変化し疾病全体に占めるがん、虚血性心疾患、脳血管疾患、糖尿病等の生活習慣病の割合は増加し、死亡原因でも生活習慣病が約6割、医療費に占める割合も国民医療費の約3分の1となっていることから生活習慣病発症予防対策が必要となっている。

このような状況に対応するため保険者は「高齢者の医療の確保に関する法律」に基づき、2008年から40歳から74歳までの被保険者および被扶養者に対しメタボリックシンドロームに着目した特定健康診査及びその結果により健康の保持に努める必要がある者に対する特定保健指導を実施することが義務付けられている。

令和4年度の国民健康保険加入者の特定健診受診者数は、A市では3,113人（男性1,329人、女性1,784人）で、前年度の3,145人に比べて32人減少している。B市では463人（男性196人、女性267人）で、前年度の469人に比べて6人減少している。

〔がん検診〕

がん検診の目的は、がんを早期発見し適切な治療を行うことによりがん死亡率を減らすことである。がん死亡率の減少を目指すためには科学的根拠のある検診を、適切な精度管理体制を整えた上でを行い、受診率を高く維持することが必要である。

対象者を表1、受診者数、がん発見率等のプロセス指標を表2に示した。

A市については、肺がん検診受診者数は8,992人、昨年と比べて134人の減、胃がん検診受診者数は2,848人、149人の減、大腸がん検診受診者数は7,527人、116人の減となった。乳がん検診受診者数は3,391人、125人の減、子宮がん検診受診者数は2,964人、53人の減となった。

B市については、肺がん検診受診者数は2,681人、昨年と比べて47人の増、胃がん検診の受診者数は1,795人、増減なし、大腸がん検診の受診者数は3,380人、13人の増となった。乳がん検診

受診者数は1,470人、104人の減（乳腺エコー含まない）、子宮がん検診の受診者数は1,685人、64人の減となった。

〔胃がんリスク検診〕

平成25年度より胃がんリスク検診を実施している。

A市の胃がんリスク検診総受診者数は317人で、昨年度と比べて51人の減となった。このうち、胃がん検診との併用者は120人、胃がんリスク検診のみの者は197人であった。

B市の胃がんリスク検診総受診者数は20人で、6人の増という結果となった。

A市受診者の男女比は、男性が27.1%、女性は72.9%と例年同様に女性が圧倒的に多いことがわかった。

また、胃がんリスク検診結果が要精密となった受診者の除菌率は、A市は43.8%であった。

〔まとめ〕

がん検診への取り組みとして、国は受診率を60%以上にすることを目標に無料クーポンや健診手帳の配布、受診率向上キャンペーン等の取り組みを行ってきた。しかし現状の受診率は30～40%台と低いままである。A市についてはそれぞれのがん検診で昨年比では100人以上の減となっている。特定健診は、A市B市共に減少しており、A市については10年前と比較すると1000人以上の受診者減である。高齢化に伴い、かかりつけ医を持つ方が増加したため未受診者が増加しているのか等、受診率の減少理由を分析した上で、今後の受診率向上のために対策を行っていききたい。また、A市B市のプロセス指標を許容値と比較すると昨年と同様に大きく逸脱しているものはなかった。今後も健診機関として、精度の高い健診が提供できるように精度管理の向上に努めていきたいと考える。（加藤詩穂）

表1 各検診の対象者（全額自己負担を含まない）

A市

検診項目	対 象
肺がん検診	40歳以上
胃がん検診	40歳以上
大腸がん検診	40歳以上
前立腺がん検診	50歳以上
乳がん検診	40歳以上の偶数年齢
子宮がん検診	20歳以上の偶数年齢
胃がんリスク検診	40・45・50・55・60・65・70歳(この内過去未受診の者)
乳房エコー検診	20～38歳 偶数年齢
骨密度検診	40・45・50・55・60・65・70歳

※年齢起算日 3月31日

B市

検診項目	対 象
肺がん検診	40歳以上
胃がん検診	40歳以上
大腸がん検診	40歳以上
前立腺がん検診	50歳以上
乳がん検診	40歳以上で前年度未受診の者
子宮がん検診	20歳以上で前年度未受診の者
胃がんリスク検診	40歳以上で胃がん検診とセットで受診する者
乳房エコー検診	20～39歳で、子宮がん検診を受診する者
骨密度検診	40・45・50・55・60・65・70歳

※年齢起算日 4月1日

表2 A市, B市のプロセス指標数値 令和4年度

令和5年9月30日現在

A市

検査項目	受診者数 (人)	要精密 検査以上 (人)	がん 発見者数 (人)	要精密 検査率 (%)	精密検査 受診率 (%)	がん 発見率 (%)	陽性反応 的中率 (%)
肺がん	8,992	208	7	2.3	84.1	0.08	3.37
胃がん	2,848	144	1	5.1	72.2	0.04	0.69
大腸がん	7,527	521	9	6.9	72.9	0.12	1.73
前立腺がん	1,492	99		6.6	61.6		
乳がん	3,391	128	9	3.8	95.3	0.27	7.03
子宮がん	2,964	15	0	0.5	100.0	0.00	0.00
骨密度	742	119					

※子宮がん検診は細胞診のE判定のみ計上する

B市

検査項目	受診者数 (人)	要精密 検査以上 (人)	がん 発見者数 (人)	要精密 検査率 (%)	精密検査 受診率 (%)	がん 発見率 (%)	陽性反応 的中率 (%)
肺がん	2,681	55	1	2.1	78.2	0.04	1.82
胃がん	1,795	94	0	5.2	77.6	0.00	0.00
大腸がん	3,380	238	5	7.0	74.8	0.15	2.10
前立腺がん	1,066	76		7.1	75.0		
乳がん	1,470	60	5	4.1	95.0	0.34	8.33
子宮がん	1,685	10	0	0.6	90.0	0.00	0.00
骨密度	259	38					

※子宮がん検診は細胞診のE判定のみ計上する

胃癌 (A市)

判定内訳

Table with 10 columns: 性別, 年齢, 受診者数, 異常なし, 有所見正常, 要経過観察, 要再検査, 要精密検査, 要受診, 判定不能. Includes rows for Male, Female, and Total.

検査別内訳

Table with 10 columns: 性別, 年齢, 受診者数, 異常なし, 有所見正常, 要経過観察, 要再検査, 要精密検査, 要受診, 判定不能. Includes rows for Gastric X-ray, ABC Endoscopy, and Total.

大腸がん (A市)

判定内訳

Table with 10 columns: 性別, 年齢, 受診者数, 異常なし, 有所見正常, 要経過観察, 要再検査, 要精密検査, 要受診, 判定不能. Includes rows for Male, Female, and Total.

男女年齢階層別判定内訳

Large table with 10 columns: 性別, 年齢, 受診者数, 異常なし, 有所見正常, 要経過観察, 要再検査, 要精密検査, 要受診, 判定不能. Includes rows for Male and Female across various age groups.

胃癌 (A市)

判定内訳

Table with 10 columns: 性別, 年齢, 受診者数, 異常なし, 有所見正常, 要経過観察, 要再検査, 要精密検査, 要受診, 判定不能. Includes rows for Male, Female, and Total.

検査別内訳

Table with 10 columns: 性別, 年齢, 受診者数, 異常なし, 有所見正常, 要経過観察, 要再検査, 要精密検査, 要受診, 判定不能. Includes rows for Gastric X-ray, ABC Endoscopy, and Total.

男女年齢階層別判定内訳

Large table with 10 columns: 性別, 年齢, 受診者数, 異常なし, 有所見正常, 要経過観察, 要再検査, 要精密検査, 要受診, 判定不能. Includes rows for Male and Female across various age groups.

前立腺がん (A市)

判定内訳		異常なし	有所見正常	要経過観察	要再検査	要精密検査	要受診	判定不能
受診者数	1,492	1,393					99	
(%)		93.4					6.6	

年齢階層別判定内訳

年齢	受診者数	異常なし	有所見正常	要経過観察	要再検査	要精密検査	要受診	判定不能
～19								
20～24	1	1					3	
25～29							1	
30～34							5	
35～39							30	
40～44	4	4					21	
45～49	4	4					20	
50～54	78	75					99	
55～59	81	80						
60～64	161	166						
65～69	331	312						
70～74	455	425						
75～79	197	176						
80～	180	160						
年齢不明								
合計	1,492	1,393						

乳がん (A市)

判定内訳		異常なし	有所見正常	要経過観察	要再検査	要精密検査	要受診	判定不能
受診者数	3,754	3,233	42		142	3,8		
(%)		86.1	9.0	1.1				

検査別内訳

検査項目	受診者数	異常なし	有所見正常	要経過観察	要再検査	要精密検査	要受診	判定不能
検体診								
乳房X線1方向	2,633	2,312	227	4		90		
乳房X線2方向	758	682	61	7		38		
乳房エコー	363	269	49	31		14		
(%)		74.1	13.5	8.5		3.9		

年齢階層別判定内訳

年齢	受診者数	異常なし	有所見正常	要経過観察	要再検査	要精密検査	要受診	判定不能
～19								
20～24	27	20	3	4				
25～29	53	37	11	2		3		
30～34	125	92	16	11		6		
35～39	158	120	19	14		5		
40～44	426	373	35	17		17		
45～49	332	279	26	6		21		
50～54	460	398	42	2		18		
55～59	299	268	33	1		7		
60～64	521	470	33	18		18		
65～69	389	337	33	1		18		
70～74	605	536	48			21		
75～79	205	179	23			3		
80～	154	134	15			5		
年齢不明								
合計	3,754	3,233	337	42		142		

子宮がん (A市)

判定内訳		異常なし	有所見正常	要経過観察	要再検査	要精密検査	要受診	判定不能
受診者数	2,964	565	2,169	86	13	78		
(%)		19.1	73.2	2.9	0.4	2.6		

検査別内訳

検査項目	受診者数	異常なし	有所見正常	要経過観察	要再検査	要精密検査	要受診	判定不能
内診	2,964	2,584	164	86		78		
(%)		87.2	5.5	2.9		2.6		
頸部細胞診	2,964	616	2,332		15			
(%)		20.8	78.7		0.5			

年齢階層別判定内訳

年齢	受診者数	異常なし	有所見正常	要経過観察	要再検査	要精密検査	要受診	判定不能
～19								
20～24	14	2	11	1				
25～29	39	3	33		3			
30～34	93	8	82	1				
35～39	124	11	103	1				
40～44	279	22	216	19	2	5		
45～49	279	29	203	12	3	21		
50～54	377	52	280	15	14	16		
55～59	252	47	183	11		6		
60～64	442	107	315	9	2	6		
65～69	311	71	230	2		5		
70～74	489	136	333	10		5		
75～79	158	41	111	3		1		
80～	107	36	69	2				
年齢不明								
合計	2,964	565	2,169	86	13	78		

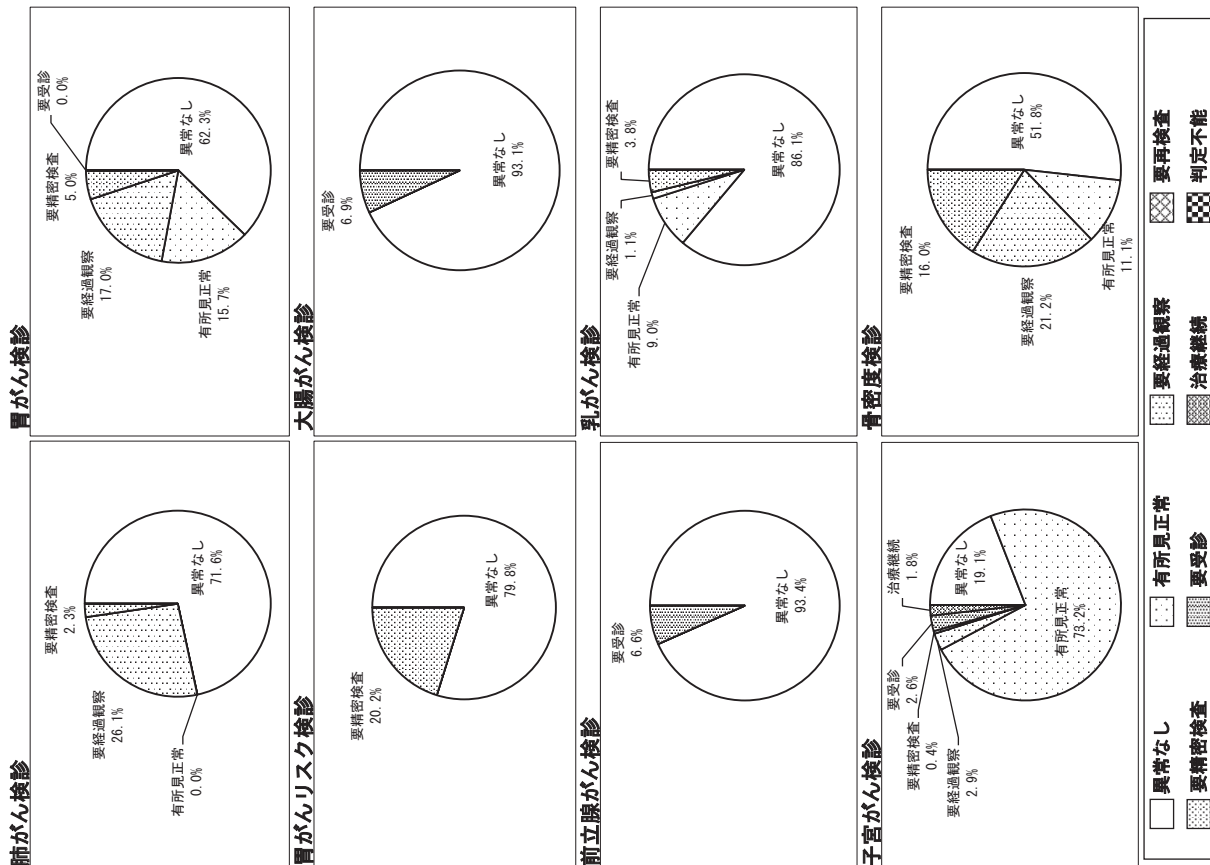
骨密度 (A市)

判定内訳		異常なし	有所見正常	要経過観察	要再検査	要精密検査	要受診	判定不能
受診者数	742	384	82	157	119			
(%)		51.8	11.1	21.2	16.0			

年齢階層別判定内訳

年齢	受診者数	異常なし	有所見正常	要経過観察	要再検査	要精密検査	要受診	判定不能
～19								
20～24								
25～29								
30～34								
35～39								
40～44	65	65						
45～49	43	43						
50～54	128	119	5	2				
55～59	64	50	5	6				
60～64	139	51	29	41				
65～69	118	27	19	46				
70～74	173	29	22	53				
75～79	9		1	7				
80～	1			1				
年齢不明								
合計	742	384	82	157	119			

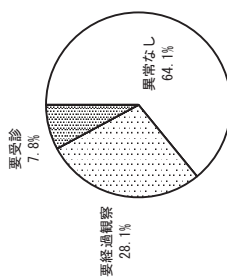
各検診判定 (A市)



推算系球体濾過量 (A市)

性別	年齢	男女年齢階層別判定内訳						
		異常なし	有所見正常	要経過観察	要再検査	要精密検査	要受診	治療継続
男性	40~44	42	3	3			2	
	45~49	63	8	8			2	
	50~54	49	5	13			2	
	55~59	70	55	28			31	
	60~64	101	71	107			85	
	65~69	382	244	219				
	70~74	806	302					
75~								
年齢不明								
合計	1,329	826	381			122		
(%)		62.2	28.7			9.2		
女性	40~44	56	53	2			1	
	45~49	64	60	4			2	
	50~54	84	71	11			2	
	55~59	83	59	19			5	
	60~64	255	181	61			13	
	65~69	515	314	166			35	
	70~74	727	431	230			66	
75~								
年齢不明								
合計	1,784	1,169	493			122		
(%)		65.5	27.6			6.8		
総合計	3,113	1,995	874			244		
(%)		64.1	28.1			7.8		

推算系球体濾過量



- 異常なし
- 有所見正常
- 要経過観察
- 要再検査
- 要精密検査
- 要受診
- 治療継続
- 判定不能

表 4 B市
特定健診 (B市)

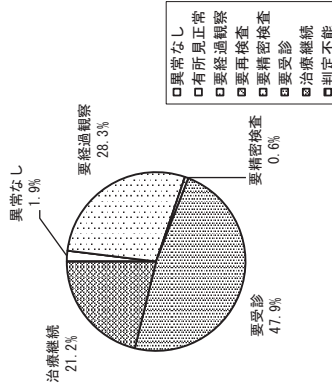
特定健診判定

性別	年齢	受診者数	異常なし	有所見正常	要経過観察	要再検査	要精密検査	要受診	治療継続	判定不能
男性	40~44	5	1	1	1	1		3		
	45~49	12	2	4	4			6	2	
	50~54	15	7	7				7	1	
	55~59	11	3	3				6	2	
	60~64	17	3	3	10			10	4	
	65~69	69	10	10	37			28	22	17
70~74	65	1		19			28	17		
75~	2						1	1		
年齢不明										
合計		196	2	47	98			49	49	
(%)		1.0	24.0	25.0	50.0			25.0		
女性	40~44	21	3	2	1			6	1	
	45~49	23	2	11				7	2	
	50~54	16	9	2				7		
	55~59	15	1	1				9	3	
	60~64	41	16	16	17			17	8	
	65~69	85	1	20	46			29	16	
	70~74	60	1	15	29			3	1	
	75~	6	1					3	1	
	年齢不明									
	合計		267	7	84	3		124	49	
	(%)		2.6	31.5	1.1	46.4		18.4		
	総合計		463	9	131	3		222	98	
	(%)		1.9	28.3	0.6	47.9		21.2		

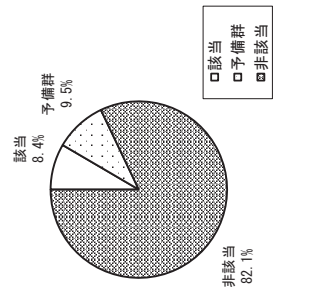
メタボリックシンドローム判定

性別	受診者数	該当	予備群	非該当
男性	196	32	34	130
(%)		16.3	17.3	66.3
女性	267	7	10	250
(%)		2.6	3.7	93.6
合計	463	39	44	380
(%)		8.4	9.5	82.1

特定健診判定



メタボリックシンドローム判定



肺がん (B市)

判定内訳

性別	年齢	受診者数	異常なし	有所見正常	要経過観察	要再検査	要精密検査	要受診	治療継続	判定不能
男性	40~44	1,011	687	299				25		
	(%)		68.0	29.6				2.5		
	45~49	1,670	1,160	480				30		
	(%)		69.5	28.7				1.8		
	合計		2,681	1,847	779			55		
(%)			68.9	29.1			2.1			

検査別内訳

検査部位	性別	年齢	受診者数	異常なし	有所見正常	要経過観察	要再検査	要精密検査	要受診	治療継続	判定不能
胸部X線	男性	40~44	1,011	687	299				25		
		(%)		68.0	29.6				2.5		
	女性	45~49	1,670	1,160	480				30		
		(%)		69.5	28.7				1.8		
		合計		2,681	1,847	779			55		
(%)			68.9	29.1			2.1				
喀痰細胞診	男性	40~44	6	6							
		(%)		100.0							
	女性	45~49	1	1							
		(%)		100.0							
		合計		7	7						
(%)			100.0								

男女年齢層別判定内訳

性別	年齢	受診者数	異常なし	有所見正常	要経過観察	要再検査	要精密検査	要受診	治療継続	判定不能
男性	20~24									
	25~29									
	30~34									
	35~39									
	40~44	31	26	5						
	45~49	28	25	3						
	50~54	48	41	6				1		
	55~59	43	28	15						
	60~64	78	64	12				2		
	65~69	239	153	81				5		
	70~74	280	200	75				5		
	75~79	157	91	59				7		
	80~	107	59	43				5		
年齢不明										
合計		1,011	687	299			25			
(%)			68.0	29.6			2.5			
女性	20~24									
	25~29									
	30~34									
	35~39									
	40~44	132	119	13						
	45~49	141	114	25				2		
	50~54	127	105	22						
	55~59	121	83	36				2		
	60~64	211	144	65				2		
	65~69	365	236	120				9		
	70~74	338	216	116				6		
	75~79	149	100	47				2		
	80~	86	43	36				7		
年齢不明										
合計		1,670	1,160	480			30			
(%)			69.5	28.7			1.8			
総合計		2,681	1,847	779			55			

胃がん (B市)

判定内訳										
性別	年齢	受診者数	異常なし	有所見正常	要経過観察	要再検査	要精密検査	要受診	治療継続	判定不能
男性	～19	742	464	74	153	51				
	(%)		62.5	10.0	20.6	6.9				
	女性	1,053	660	187	158	48				
	(%)		62.7	17.8	15.0	4.6				
	合計	1,795	1,124	261	311	99				
(%)		62.6	14.5	17.3	5.5					

大腸がん (B市)

判定内訳										
性別	年齢	受診者数	異常なし	有所見正常	要経過観察	要再検査	要精密検査	要受診	治療継続	判定不能
男性	～19	1,199	1,096					103		
	(%)		91.4					8.6		
	女性	2,181	2,046					135		
	(%)		93.8					6.2		
	合計	3,380	3,142					238		
(%)		93.0					7.0			

検査別内訳

性別	年齢	受診者数	異常なし	有所見正常	要経過観察	要再検査	要精密検査	要受診	治療継続	判定不能
胃部X線のみ	男性	733	461	72	153	47				
	(%)		62.9	9.8	20.9	6.4				
	女性	1,042	650	187	158	47				
	(%)		62.4	17.9	15.2	4.5				
	合計	1,775	1,111	259	311	94				
(%)		62.6	14.6	17.5	5.3					
胃部X線ABC検診併用	男性	9	3	2		4				
	(%)		33.3	22.2		44.4				
	女性	11	10			1				
	(%)		90.9			9.1				
	合計	20	13	2		5				
(%)		65.0	10.0		25.0					

男女年齢層別判定内訳

性別	年齢	受診者数	異常なし	有所見正常	要経過観察	要再検査	要精密検査	要受診	治療継続	判定不能
男性	～19									
	20～24									
	25～29									
	30～34									
	35～39									
	40～44	35	34					1		
	45～49	39	36					3		
	50～54	57	55					2		
	55～59	55	53					2		
	60～64	96	88					8		
65～69	265	243					22			
70～74	315	280					35			
75～79	199	180					19			
80～	138	127					11			
年齢不明										
合計	1,199	1,096					103			
(%)		91.4					8.6			
女性	～19									
	20～24									
	25～29									
	30～34									
	35～39									
	40～44	173	160					13		
	45～49	179	169					10		
	50～54	146	139					7		
	55～59	163	157					6		
	60～64	284	260					24		
65～69	458	431					27			
70～74	442	420					22			
75～79	217	205					12			
80～	119	105					14			
年齢不明										
合計	2,181	2,046					135			
(%)		93.8					6.2			
総合計	3,380	3,142					238			

男女年齢層別判定内訳

性別	年齢	受診者数	異常なし	有所見正常	要経過観察	要再検査	要精密検査	要受診	治療継続	判定不能
男性	～19									
	20～24									
	25～29									
	30～34									
	35～39	30	23	5	4	2				
	40～44	33	23	4	3	2				
	45～49	43	30	8	4	2				
	50～54	42	33	2	5	2				
	55～59	72	58	6	7	1				
	60～64	181	105	23	32	21				
65～69	208	126	16	52	14					
70～74	81	44	6	29	2					
75～79	52	22	4	21	5					
80～										
年齢不明										
合計	742	464	74	153	51					
(%)		62.5	10.0	20.6	6.9					
女性	～19									
	20～24									
	25～29									
	30～34									
	35～39	115	83	19	6	7				
	40～44	128	92	25	8	3				
	45～49	97	64	19	11	3				
	50～54	91	65	19	6	1				
	55～59	147	88	27	25	7				
	60～64	209	117	43	37	12				
65～69	168	95	23	38	10					
70～74	66	42	8	13	3					
75～79	32	14	2	14	2					
80～										
年齢不明										
合計	1,053	660	187	158	48					
(%)		62.7	17.8	15.0	4.6					
総合計	1,795	1,124	261	311	99					

前立腺がん (B市)

判定内訳		受診者数	異常なし	有所見正常	要経過観察	要再検査	要精密検査	要受診	判定不能
		1,066	990					76	
(%)			92.9					7.1	

年齢階層別判定内訳

年齢	受診者数	異常なし	有所見正常	要経過観察	要再検査	要精密検査	要受診	判定不能
～19								
20～24							1	
25～29							12	
30～34							17	
35～39							11	
40～44	2	2					16	
45～49	3	3					76	
50～54	50	50						
55～59	63	62						
60～64	113	101						
65～69	283	266						
70～74	288	269						
75～79	165	154						
80～	99	83						
年齢不明								
合計	1,066	990						

乳がん (B市)

判定内訳		受診者数	異常なし	有所見正常	要経過観察	要再検査	要精密検査	要受診	判定不能
		1,920	1,576	180	88	75	1	0.1	
(%)			82.1	9.4	4.6	3.9			

検査別内訳

	受診者数	異常なし	有所見正常	要経過観察	要再検査	要精密検査	要受診	判定不能
検体診								
乳房X線1方向	1,106	996	64	10	35	1		
乳房X線2方向	364	309	27	4	24	0.1		
乳房エコー	482	84.9	7.4	1.1	6.6			
合計		61.2	19.7	15.8	3.3			

年齢階層別判定内訳

年齢	受診者数	異常なし	有所見正常	要経過観察	要再検査	要精密検査	要受診	判定不能
～19								
20～24	20	14	3	1	2			
25～29	16	10	3	3	3			
30～34	101	65	18	12	6			
35～39	114	61	24	26	3			
40～44	293	201	26	11	15			
45～49	184	137	23	10	14			
50～54	170	144	12	7	7			
55～59	154	131	12	3	8			
60～64	209	184	15	5	4	1		
65～69	267	237	15	5	10			
70～74	288	260	20	4	4			
75～79	102	93	7	1	1			
80～	42	39	2		1			
年齢不明								
合計	1,920	1,576	180	88	75	1		

子宮がん (B市)

判定内訳		受診者数	異常なし	有所見正常	要経過観察	要再検査	要精密検査	要受診	判定不能
		1,685	293	1,260	36	10	30	56	
(%)			17.4	74.8	2.1	0.6	1.8	3.3	

検査別内訳

	受診者数	異常なし	有所見正常	要経過観察	要再検査	要精密検査	要受診	判定不能
内診	1,685	1,484	79	36	30	56		
		88.1	4.7	2.1	1.8	3.3		
頸部細胞診	1,685	318	1,354		10	3		
		18.9	80.4		0.6	0.2		

年齢階層別判定内訳

年齢	受診者数	異常なし	有所見正常	要経過観察	要再検査	要精密検査	要受診	判定不能
～19								
20～24	26	4	16		3	2	1	
25～29	20	2	16			1		
30～34	110	6	92	3	1	1	7	
35～39	128	13	106	1	1	6	15	
40～44	209	14	165	8	1	7	11	
45～49	179	13	143	4	1	1	8	
50～54	142	22	106	4	1	2	4	
55～59	121	18	94	3		3		
60～64	183	37	138	5		2		
65～69	217	46	162	5		1		
70～74	245	80	158	3	2			
75～79	69	24	43					
80～	36	14	21					
年齢不明								
合計	1,685	293	1,260	36	10	30	56	

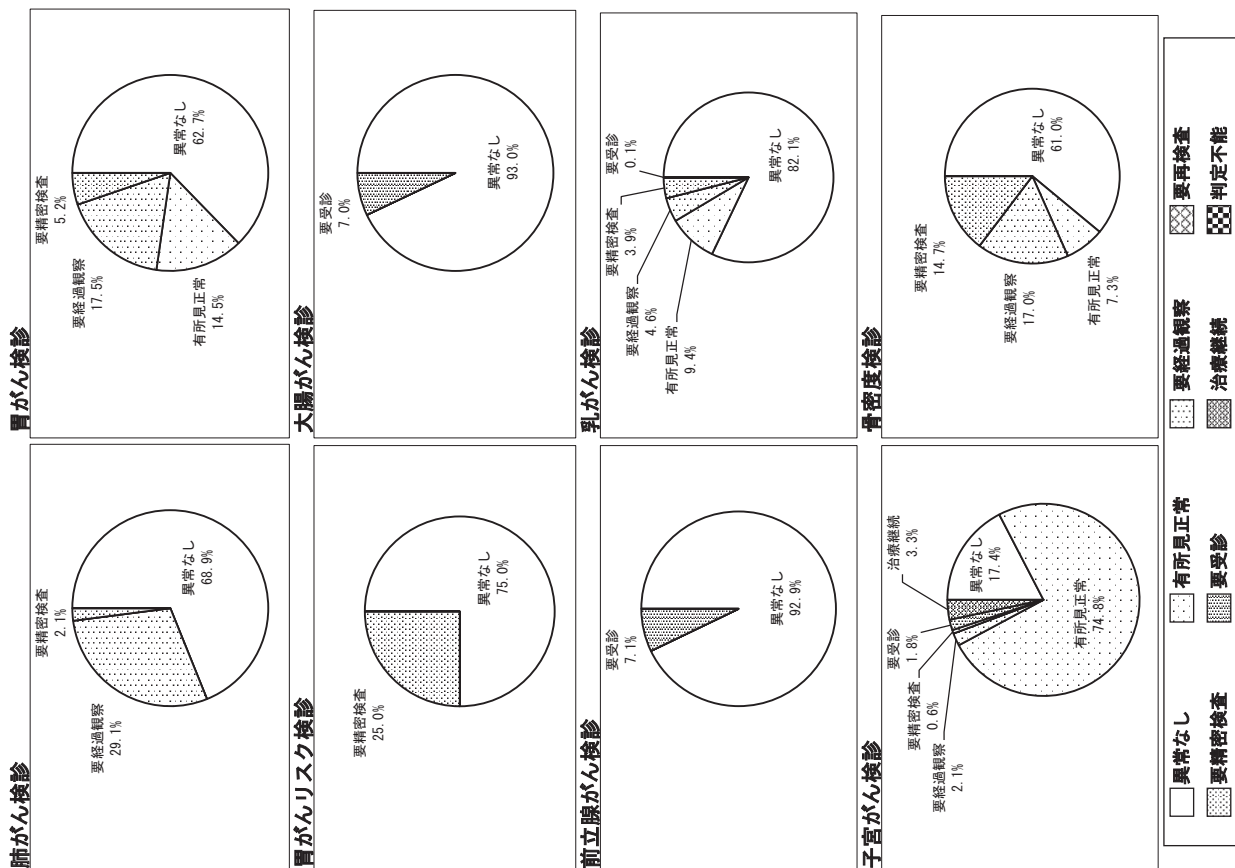
骨密度 (B市)

判定内訳		受診者数	異常なし	有所見正常	要経過観察	要再検査	要精密検査	要受診	判定不能
		259	158	19	44	38			
(%)			61.0	7.3	17.0	14.7			

年齢階層別判定内訳

年齢	受診者数	異常なし	有所見正常	要経過観察	要再検査	要精密検査	要受診	判定不能
～19								
20～24								
25～29								
30～34								
35～39	1	1						
40～44	56	55	1					
45～49	24	24						
50～54	29	29						
55～59	15	13						
60～64	32	16	4	11	1			
65～69	53	8	7	18	20			
70～74	48	12	7	12	17			
75～79	1							
80～								
年齢不明								
合計	259	158	19	44	38			

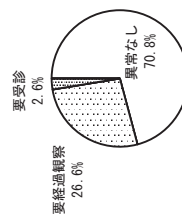
各検診判定 (B市)



推算系球体濾過量 (B市)

性別	年齢	受診者数	男女年齢階層別判定内訳					要受診	治療継続	判定不能
			異常なし	有所見正常	要経過観察	要再検査	要精密検査			
男性	40~44	5	5		1					
	45~49	12	11		2					
	50~54	15	13		2					
	55~59	11	9		2					
	60~64	17	11		6					
	65~69	69	45		21		3			
70~74	65	34		24		7				
75~	2	1		1						
年齢不明										
合計		196	129		57		10			
(%)			65.8		29.1		5.1			
女性	40~44	21	20		1					
	45~49	23	20		3					
	50~54	16	14		2					
	55~59	15	13		2					
	60~64	41	30		11					
	65~69	85	61		23		1			
70~74	60	37		23						
75~	6	4		1						
年齢不明										
合計		267	199		66		2			
(%)			74.5		24.7		0.7			
総合計		463	328		123		12			
(%)			70.8		26.6		2.6			

推算系球体濾過量



- 異常なし
- 有所見正常
- 要経過観察
- 要再検査
- 要精密検査
- 要受診
- 治療継続
- 判定不能

10) 特定健診・特定保健指導

【はじめに】

メタボリックシンドロームに着目した特定健診・特定保健指導は今年度で15年目を迎えた。当協会における令和4年度の特定健診・特定保健指導の実施状況をまとめたので報告する。

【特定健診】

令和4年度の特定健康診査の実施者数は87,456人であった。そのうち、メタボリックシンドロームと判定された人は11,783人(13.5%)で、予備軍と判定された人は10,059人(11.5%)であった。(表1)

また、「標準的な健診・保健指導に関するプログラム」に基づき階層化を行った結果、積極的支援に該当した者は7,114人(9.4%)、動機付け支援に該当した者は5,193人(6.8%)であった。(表2)

【特定保健指導】

平成30年度より第3期特定保健指導の開始に伴い、以下3点の変更されたルールに配慮し、それぞれの契約保険者との契約により実施した。

- ① 特定健診当日に結果が揃わなくても、初回面接の分割実施を可能とする。
- ② 特定保健指導の実施評価時期を3ヶ月以上の継続支援実施後とする。(以前は6ヶ月以上の継続支援実施後であった。)
- ③ 2年連続して積極的支援に該当した場合、1年目に比べ、2年目の状態が改善していれば、2年目の特定保健指導は動機付け支援相当で可能とする。

特定保健指導の実施者数は816人(積極的支援353人、動機付け支援457人、動機付け支援相当6人)であり、昨年度に比べて3人減少した。

そのうち、支援が終了した者は令和5年9月末時点で723人(88.6%)であった。支援別にみると、積極的支援が294人(83.3%)、動機付け支援が424人(92.8%)、動機付け支援相当は5人(83.3%)であった。途中脱落者は88人(10.8%)と昨年度より1.2%減少した。(表3-1)

導入されて5年目となる初回分割面接の実施者は108人(積極的支援23人、動機付け支援85人、動機付け支援相当0人)であった。終了した者は令和5年

9月末時点で75人(69.4%)であった。支援別にみると、積極的支援が10人(43.5%)、動機付け支援が65人(76.5%)であった。(表3-2)

特定保健指導支援終了者のうち、体重が1kg以上減少した人は3ヶ月での支援では351人(51.6%)、6ヶ月での支援で24人(55.8%)であった。増減1kg未満の人は3ヶ月での支援では266人(39.1%)、6ヶ月での支援では15人(34.9%)、1kg以上増加した人は3ヶ月での支援では63人(9.3%)、6ヶ月での支援では4人(9.3%)であった。(表4)

また、腹囲が1cm以上減少した人は3ヶ月での支援では374人(55.0%)、6ヶ月での支援では21人(48.8%)であった。増減1cm未満の人は3ヶ月での支援では228人(33.5%)、6ヶ月での支援では17人(39.5%)、1cm以上増加した人は3ヶ月での支援では78人(11.5%)、6ヶ月での支援では5人(11.6%)であった。(表5)

支援別に比較すると、1kg以上の体重の減少者は、積極的支援の人が166人(56.5%)、動機付け支援の人(動機付け支援相当を含む)が209人(48.7%)であった。1cm以上の腹囲の減少者は、積極的支援の人が170人(57.8%)、動機付け支援の人(動機付け支援相当を含む)が225人(52.4%)であった。

【まとめ】

厚生労働省の発表によると、令和3年度の特定健康診査の実施率は56.5%、特定健康診査を受けた者のうち特定保健指導の対象になった者は5,262,265人であり、受診者全体の17.3%となっている。特定保健指導対象者のうち特定保健指導を終了した者(途中脱落者は含まない)は1,294,289人であり、特定保健指導対象者全体の24.6%となっている。

特定保健指導対象者数は令和2年度の5,225,668人に対し、令和3年度は36,597人増加している。また、特定保健指導実施率は令和2年度の特定保健指導実施率(23.0%)より1.6%増加した。

当協会における特定保健指導実施者数は、昨年度に比べて3人減少とほぼ横ばいだった。特定保健指導の実施者数のうち、支援が終了した者は723人(88.6%)であり、初回分割面接実施者は75人(69.4%)であった。前年度は支援が終了した者

は721人(88.0%)であり、初回分割面接実施者は110人(73.8%)であった。

支援終了率を比較すると、全数では昨年度より0.6%の増加とほぼ横ばいの状況である。また、初回分割面接実施者の支援終了者の割合は昨年度より4.4%減少している。この原因の一つとして積極的支援の半数以上が途中脱落していることがあげられる。初回分割面接実施のメリットとして、対象者の健康への関心が高い健診当日に指導を実施できるという点がある。一方で、腹囲・BMI・血圧と問診データのみでの初回面接となるため、特定保健指導の重要性を十分理解されず、結果として2回目面接の連絡が取れなくなったり、継続支援が円滑に進まないというデメリットが生じる。一長一短の特徴であり、この制度が効果的であるかは対象者によって大きく変わってしまうと考えられ、今回はデメリットが上回ってしまう結果になった。令和6年度から始まる第4期特定保健指導では、健診当日に初回面接を実施すると、プロセス評価としてポイントを算定できるようになる。これは実績評価の際に有効にはたらくため、分割面接を含めた健診当日の特定保健指導をより推し進める契約保険者も出てくると考えられる。実施率向上とともに支援終了率向上を目指すためにも、今後の初回分割面接の在り方を検討していきたい。

特定保健指導の効果は、体重・腹囲ともに全体の約半数にみられた。支援別に比較すると体重・腹囲ともに積極的支援で効果がみられているため、積極的な介入が改善につながったと思われる。また、支援期間別にみると、積極的支援では3ヶ月支援のほうが1kg以上の体重・腹囲減少があった者の割合が高い。一方、動機付け支援では6ヶ月支援のほうが1kg以上の体重減少があった者の割合が高い。しかし、3ヶ月支援の対象者が大多数となっており、単に割合で評価することはできないと考える。第4期特定保健指導での「3ヶ月後に実績評価をする」という変更点を鑑みても、今後の期間別での評価は検討が必要である。

令和4年度も引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から出張による指導を控え、情報通信技術(Zoom)を活用した遠隔面接を主流に実施した。厚生労働省は令和2年にビデオ通話が可能な情報通信技術を活用した初回面接におけるグループ支援の実施を可能とするとともに、情報通信技術を活用した継続支援について、対面で行う場合と同等のポイントを算定すると通知した。このような時代に即した制度の見直しにより、特定保健指導の支援方法が多様化している。第4期特定保健指導でも、さらなるICTの活用が勧められている。個別での遠隔面接は、集団指導と比較すると対象者の情報を得やすく、個性性の高い指導を行うことができる。また、遠方の対象者でも訪問せずに面接ができるため、移動時間を短縮できることが長所である。一方で、日程調整をする先方担当者の負担が大きいことや指導に使用する資料や情報の授受が複雑になることが難点となる。様々な点を考慮して遠隔面接と集団指導、個別指導を決定していくことが必要である。

第4期特定保健指導での大きな変更点としても一つ、アウトカム評価を導入するという点がある。これは、初回面接から3ヶ月以上経過した時点で対象者に体重や腹囲の減少が認められたか、生活習慣の改善は認められたかなどの項目に沿ってポイントが加算されるものであり、現在の制度で行っているプロセス評価と合計したポイントが基準を上回ることで、特定保健指導を終了とするものである。運用ルールの大幅な変更に伴い、支援の方法も複雑となり、今まで以上に柔軟な対応が求められている。

そのため、法の遵守を念頭に置きながら、限られた支援者や時間の中でも大きな効果が得られるように、契約保険者と情報交換を密に行い、適切な指導が実施できるよう準備を進めていきたい。

今後も、より多くの方に特定健診と特定保健指導の大切さを理解していただき、対象者が、主体的に生活習慣の改善に取り組めるような保健指導の提供に努めていきたい。

(松浦 綾乃)

表1 令和4年度 特定健康診査・メタボリックシンドローム判定結果

区分	受診者数		基準該当		予備群該当		非該当		判定不能	
	40-64歳 65-74歳	計	40-64歳 65-74歳	計	40-64歳 65-74歳	計	40-64歳 65-74歳	計	40-64歳 65-74歳	計
男性	42,243 6,552	9,823	8,072 1,751	18.9 26.7	7,128 976	16.7 14.9	27,273 3,812	63.1	218 13	0.5 0.2
女性	33,174 5,039	1,960	1,517 443	4.6 8.8	1,707 248	5.1 4.9	29,882 4,343	89.6	68 5	0.2 0.1
合計	75,865 11,591	11,783	9,589 2,194	12.6 18.9	8,835 1,224	11.6 10.6	57,155 8,155	74.7	286 18	0.4 0.2

* 年齢起算日は、令和5年3月31日付けで算出した。

1：受診者合計に対するそれぞれの該当群合計の割合

2：対象年齢群合計に対する該当群の割合

表2 令和4年度 特定健康診査・階層化結果

区分	受診者数	積極的支援		動機付け支援		情報提供		判定不能	
		該当者数	%	該当者数	%	該当者数	%	該当者数	%
男性	42,691	6,252	14.6	3,292	7.7	33,052	77.4	95	0.2
女性	33,174	862	2.6	1,901	5.7	30,390	91.6	21	0.1
合計	75,865	7,114	9.4	5,193	6.8	63,442	83.6	116	0.2

* 年齢起算日は、令和5年3月31日付けで算出した。 正規の階層化がされる受診者（40～64歳）に対し計上した。

○初回面接分割実施について

腹囲・体重・血圧・喫煙歴の結果から健診当日に対象者を抽出し、特定保健指導初回面接を健診当日に実施。後日すべての健診結果を踏まえ、決定した支援レベルや方法を電話等で本人に報告する。報告電話を初回面接②と位置付けているため初回面接分割実施とされている。

○動機付け支援相当について

2年連続で積極的支援と該当された場合、BMI30未満であれば腹囲1cm以上かつ体重1kg以上、BMI30以上であれば、腹囲2cm以上かつ体重2kg以上と昨年度のデータより改善が見られた場合、動機付け支援と同等の支援方法で支援を実施するとわれている。

表3-1 初回面接実施者 特定保健指導支援別実施状況

区分	初回面接実施者数 (初回分割面接実施者を含めない人数)		支援終了		途中脱落		継続支援中	
	人	%	人	%	人	%	人	%
積極的支援	353 (330)	294 (284)	83.3 (86.1)	55 (42)	15.6 (12.7)	4 (4)	1.1 (1.2)	
動機付け支援	457 (372)	424 (359)	92.8 (96.5)	32 (12)	7.0 (3.2)	1 (1)	0.2 (0.3)	
動機付け支援相当	6 (6)	5 (5)	83.3 (83.3)	1 (1)	16.7 (16.7)	0 (0)	0.0 (0.0)	
総計	816 (708)	723 (648)	88.6 (91.5)	88 (55)	10.8 (7.8)	5 (5)	0.6 (0.7)	

* すべてのデータは令和5年9月30日現在

* () 内は初回分割面接実施者を含めない人数

表3-2 初回分割面接実施者 特定保健指導支援別実施状況

区分	初回分割面接実施者数		支援終了		途中脱落		継続支援中	
	人	%	人	%	人	%	人	%
積極的支援	23	43.5	13	56.5	0	0.0	0	0.0
動機付け支援	85	76.5	20	23.5	0	0.0	0	0.0
動機付け支援相当	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
総計	108	69.4	33	30.6	0	0.0	0	0.0

* すべてのデータは令和5年9月30日現在

表4 初回面接時と支援終了時の体重の変化

区分	積極的支援						動機付け支援						動機付け支援相当						計					
	3か月		6か月		3か月		6か月		3か月		6か月		3か月		6か月		3か月		6か月		3か月		6か月	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
1kg以上の 体重減少	153	57.1	13	50.0	196	48.2	11	64.7	2	40.0	0	0	351	51.6	24	55.8								
1kg未満の 体重増減	89	33.2	10	38.5	174	42.8	5	29.4	3	60.0	0	0	266	39.1	15	34.9								
1kg以上の 体重増加	26	9.7	3	11.5	37	9.1	1	5.9	0	0.0	0	0	63	9.3	4	9.3								
合計	268	100.0	26	100.0	407	100.0	17	100.0	5	100.0	0	0	680	100.0	43	100.0								

* 令和5年9月30日現在での支援終了者のみを対象とした

* 初回分割面接実施者を含む

* 継続支援を実施していない対象者（初回面接のみ実施した対象者）は除外

表5 初回面接時と支援終了時の腹囲の変化

区分	積極的支援						動機付け支援						動機付け支援相当						計					
	3か月		6か月		3か月		6か月		3か月		6か月		3か月		6か月		3か月		6か月		3か月		6か月	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
1cm以上の 腹囲減少	157	58.6	13	50.0	214	52.6	8	47.1	3	60.0	0	0	374	55.0	21	48.8								
1cm未満の 腹囲増減	79	29.5	10	38.5	147	36.1	7	41.2	2	40.0	0	0	228	33.5	17	39.5								
1cm以上の 腹囲増加	32	11.9	3	11.5	46	11.3	2	11.8	0	0.0	0	0	78	11.5	5	11.6								
合計	268	100.0	26	100.0	407	100.0	17	100.0	5	100.0	0	0	680	100.0	43	100.0								

* 令和5年9月30日現在での支援終了者のみを対象とした

* 初回分割面接実施者を含む

* 継続支援を実施していない対象者（初回面接のみ実施した対象者）は除外

1 1) ワクチン接種

【はじめに】

「ワクチン」とは、「主に感染症を防ぐ目的で人や動物に投与される、免疫を不活化する為の無害化された病原体などの物質を含む医薬品」です。ワクチンは、免疫系が病原体の抗原に対する抗体を作るように促す為、先にワクチンを接種しておく事で、実際に本当の病原体にさらされた時に重症化しない様に作られています。

【インフルエンザワクチン】

現行のインフルエンザワクチンは、接種すればインフルエンザに絶対にかからない、というものではありません。しかし、インフルエンザの発病を予防することや、発病後の重症化や死亡を予防することに関しては、一定の効果があるとされています。

【B型肝炎ワクチン】

B型肝炎ワクチンを接種することにより、B型肝炎ウイルスの抗体（免疫）を獲得することができ、ウイルスにさらされても感染や発症をしにくくなります。抗体を獲得するには、4 か月～6 か月の間に3回接種することが望ましく、その効果は長い方で20年以上続くと言われていています。

【新型コロナウイルスワクチン】

新型コロナウイルスワクチンとして、日本国内での接種が始まったのは「m（メッセンジャー）RNA ワクチン」です。

mRNA ワクチンには、新型コロナウイルスの表面上に突き出した突起状のたんぱく質の設計図が書き込まれた mRNA が、脂質の膜でくるまれて入って

います。接種したワクチン内の mRNA は、体内で細胞の中に入り込み、細胞内にある「たんぱく質製造工場」で、設計図に書いてある突起状のたんぱく質をつくり出します。このたんぱく質が、新型コロナウイルスの特徴的な目印（抗原）の役目をします。「異物」をみつけた体内の免疫システムが動き出し、新型コロナウイルスの目印めがけて攻撃をする抗体が作り出されます。

令和4年9月から接種が始まっているオミクロン対応2価ワクチンは、従来株の mRNA に加え、オミクロン型に共通するスパイクタンパク質の mRNA が含まれており、今後の変異株に対してもより有効であることが期待されています。

【まとめ】

新型コロナウイルスワクチンについては、2019年12月中国湖北省武漢市で新型コロナウイルス感染症 COVID-19 の発症が報道されてから4年が経とうとしております。新型コロナウイルス感染症については、感染拡大を防止し、地域住民の生命及び健康を守るため職域、施設接種に取り組んで参りました。

7回目接種も始まり感染者数も減少してきてはありますが、季節性インフルエンザとの「同時流行」が懸念される中、当会が掲げる「みんなの健康を守る」という理念に基づき、今後もワクチン接種事業を推進していきます。

（滝浪 聡之）

表1 ワクチン接種 種類・拠点別 集計表

ワクチン種類	藤枝健診センター		ヘルスポート		浜松健診センター		合 算	
	巡回	所内	巡回	所内	巡回	所内	巡回	所内
インフルエンザ ワクチン	5,899	469		95	4,808	443	10,707	1,007
B型肝炎 ワクチン	1,423	3		6	71	10	1,494	19
コロナ ワクチン	16,775	1,100		1,648	0	4,163	16,775	6,911
その他 (感染症等)	100	1		0	0	0	100	1
合 計	24,197	1,573		1,749	4,879	4,616	29,076	7,938

※その他（感染症等）…麻疹・風疹・水痘・耳下腺炎・百日咳・破傷風のワクチン接種が含まれます。

第二章 検査・健(検)診事業

3. 人間ドック

1) 人間ドック

1) 人間ドック

表1 受診者数の推移	90
図1 受診者数の推移	90
表2 コース別受診者数	90
表3 年齢階層別人間ドック受診者数	91
図2 年齢階層別人間ドック受診者数	91
表4 年齢階層別における人間ドック受診者の推移	92
図3 年齢階層別人間ドック受診者の推移	92
表5 人間ドック受診者数における発見がん数	93
表6 人間ドック健診結果一覧表	94
図4 人間ドック有所見率(要経過観察以上)	95
表7 人間ドック年齢別・判定割合	95
図5 人間ドック年齢別・判定割合	96
図6 人間ドックオプション実績	96
表8 人間ドック受診者におけるオプション実績の推移	97
図7 人間ドック受診者におけるオプション実績の推移	97

1) 人間ドック

〔はじめに〕

平成 9 年藤枝市に、人間ドックの健診施設として総合健診センター・ヘルスポートを開設、平成 24 年 1 月には新棟が落成し、以来受診者や企業等の要望に応えながら健診の充実を図ってきている。また、日本総合健診医学会の優良総合健診施設の認定を受け精度向上の維持に努めている。

健診コースは、基本ドックを始め、婦人科検診、脳ドック、骨ドック、二次検査等を実施しているが、健康保険組合等の希望する専用のコースにも対応している。

ものわすれドックでは、認知症のリスクを知り、予防に努めるものとして注目が高まっている。

胃部検査においては、希望により胃部内視鏡検査を実施している。同検査での経鼻法は好評を得ている。また、がん関連検査として胸部CT、大腸CT、マンモグラフィ、乳房超音波検査など、動脈硬化検査として血圧脈波検査、頸動脈エコーなどのオプション検査も充実させた。さらに、腸内環境が健康に密接に関係していることから、令和元年度から腸内フローラ検査をオプションに加えた。

〔受診者数の推移〕

令和 4 年度は総受診者数 24,528 人、人間ドック(基本ドック)受診者数は昨年度に比べ 335 人増加の 13,937 人と、当初計画した目標人数に到達した。

〔令和 4 年度健診実施状況〕

総受診者数は 24,528 人(男性 10,482 人、女性 14,046 人)であった。このうち、人間ドック(基本ドック)は 13,937 人(男性 8,081 人、女性 5,856 人)、婦人科 6,370 人、脳ドック(A・B)1,731 人、骨ドック 618 人、その他健診 1,280 人、二次検査 1,210 人でピロリ菌の除菌が減った。

〔年齢階層別 ドック受診者〕

ドック受診者の年齢階層をみると、50 歳代が最も多く 4,877 人 (34.9%)、次いで 40 歳代が 4,193 人 (30.0%) となり、この年代で全体の約 7 割を占めている。

〔ドック受診者(オプション項目含む)判定結果〕

全体では、頸動脈超音波(61.9%)、脂質(48.2%)、眼底・眼圧 (44.4%)、循環器(44.0%)、腹部超音波(40.9%)、肝・膵(39.4%)、血液一般(33.8%)の検査項目で高い有所見率となっている。

男性、女性ともに、腹部超音波、頸動脈超音波、脂質で高い有所見率が示されている。

〔人間ドック受診者数における発見がん数〕

表 5 の項目で検査を実施した数のうち、紹介状等で追跡調査できた確定がん発見者数は 37 人であった。

〔まとめ〕

有所見率を見ると、生活習慣病の指標となる脂質、肝機能の検査で異常を示す割合が多い。人間ドックでは保健指導や栄養指導を同時に受けられるので、生活習慣を見直す良い機会として、今後も保健師・栄養士から積極的なアプローチを行っていく。

平成 28 年 9 月から、従来のものわすれドックに血液検査のMC I スクリーニング検査を加え、アルツハイマー病の原因物質であるアミロイドベータペプチドを排出したり防御する働きのある 3 種類の血液中のタンパク質の量を調べている。

結果は脳神経外科の専門医から受けられるので、今後受診者が増えていくことが予測される。

二次検査では、循環器の専門医による心臓超音波検査・負荷心電図、消化器の専門医による胃部内視鏡検査なども積極的に行っている。

胃部内視鏡検査の申込み増加にともない、木・金曜日と第 2、4 の月曜日の午後の実施に加え、月に 2 回ほど水曜日の午後にも実施できる体制を継続している。

(小林 辰雄)

表1 受診者数の推移

区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	前年度比
基本ドック	12,617	12,938	13,107	13,602	13,937	335
婦人科	6,351	6,551	6,353	6,336	6,370	34
脳ドック	1,950	1,903	1,749	1,818	1,731	-87
その他健診	1,113	1,068	1,112	1,314	1,280	-34
二次検査	1,948	1,637	1,386	1,287	1,210	-77
健診合計	23,979	24,097	23,707	24,357	24,528	171

※基本ドック：基本ドックと脳ドック A コースの合計人数

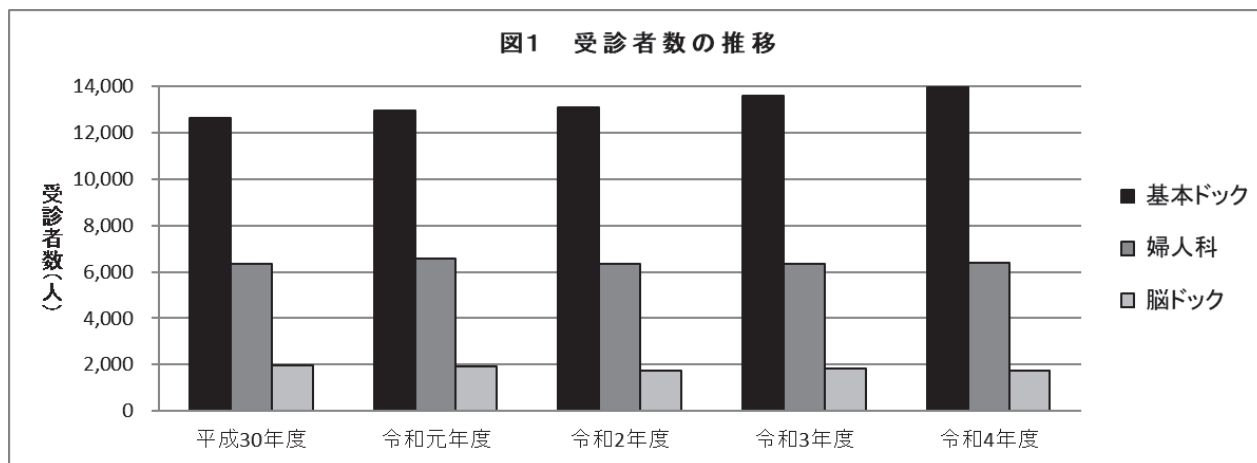


表2 コース別 受診者数

区分	基本ドック	婦人科	脳ドック	骨密度検査	その他健診	二次検査	合計
男性	8,081	0	1,024	124	614	763	10,606
女性	5,856	6,370	707	494	666	447	14,540
計	13,937	6,370	1,731	618	1,280	1,210	25,146

表3 年齢階層別 人間ドック受診者数

基本ドック	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	合計
男性	72	621	2,330	2,847	1,688	495	28	8,081
女性	53	498	1,863	2,030	1,123	280	9	5,856
計	125	1,119	4,193	4,877	2,811	775	37	13,937

図2 年齢階層別 人間ドック受診者数

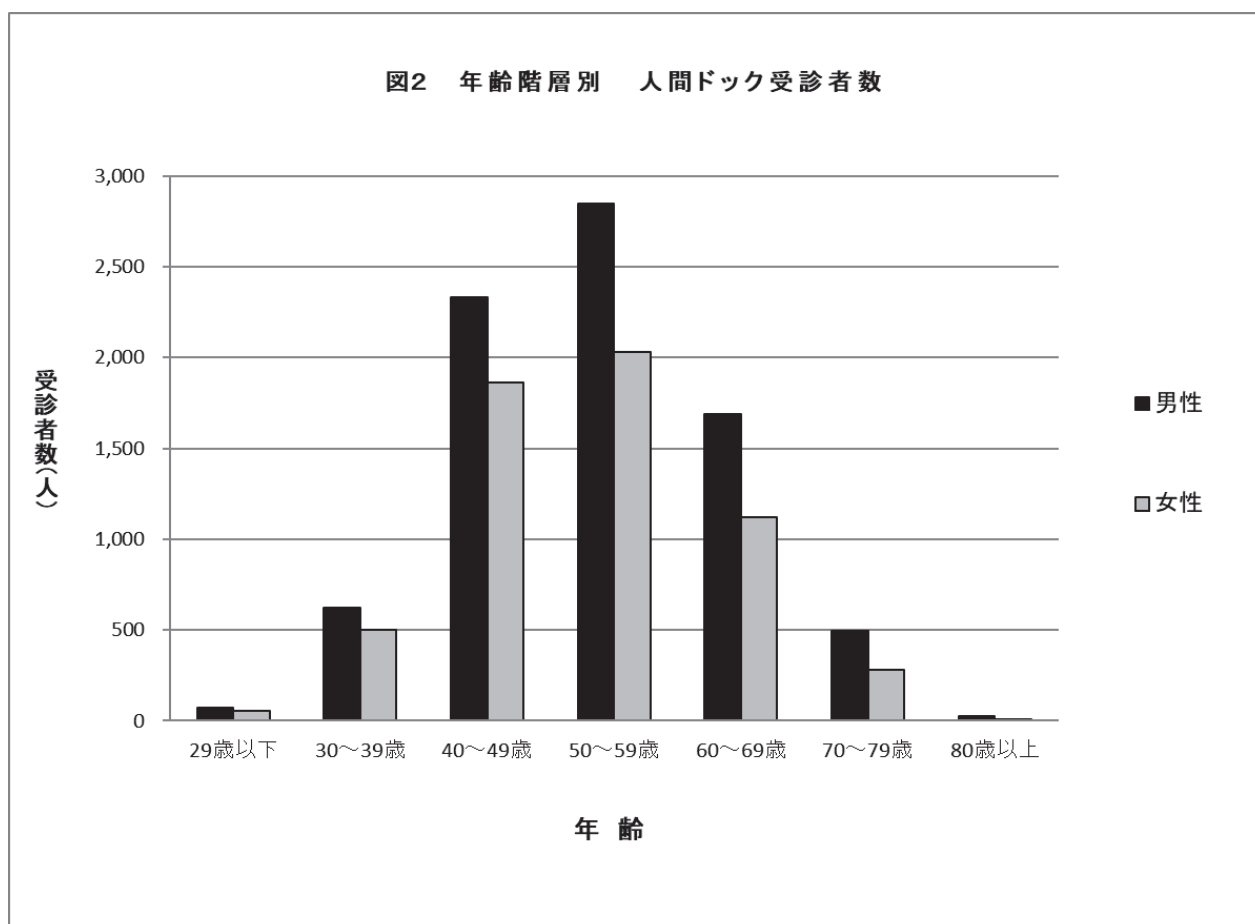


表4 年齢階層別における人間ドック受診者数の推移

区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
29歳以下 男性	39	54	59	64	72
29歳以下 女性	45	45	51	43	53
30～39歳 男性	610	603	637	634	621
30～39歳 女性	498	496	516	487	498
40～49歳 男性	2,408	2,439	2,419	2,430	2,330
40～49歳 女性	1,842	1,829	1,895	1,895	1,863
50～59歳 男性	2,771	2,761	2,763	2,798	2,847
50～59歳 女性	1,665	1,741	1,801	1,911	2,030
60～69歳 男性	1,392	1,422	1,475	1,570	1,688
60～69歳 女性	909	981	967	1,073	1,123
70～79歳 男性	286	371	350	453	495
70～79歳 女性	127	164	152	212	280
80歳以上 男性	20	21	16	21	28
80歳以上 女性	5	11	6	11	9

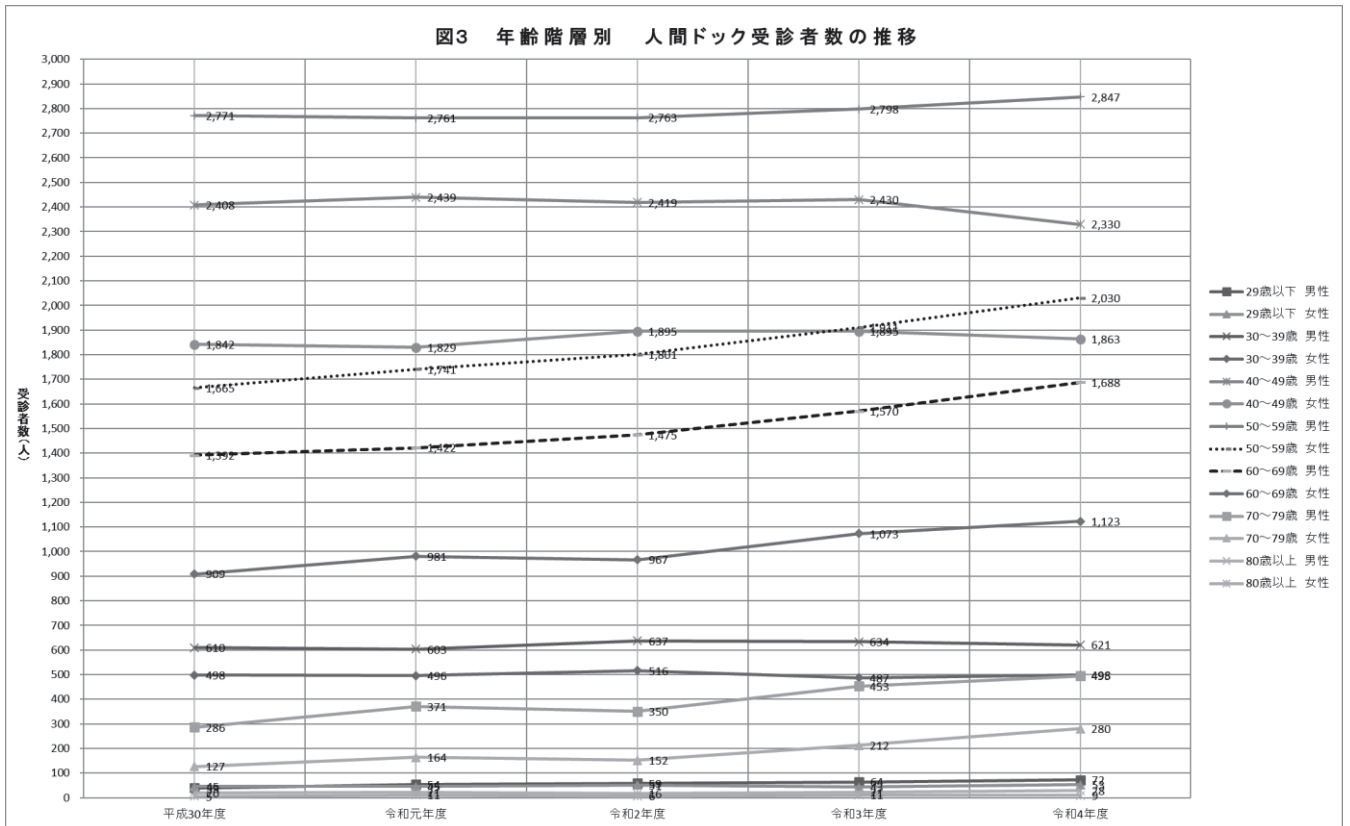


表5 人間ドック受診者数における発見がん数

検査	検査実施者数	発見がん数 (疑い含む)	確定発見がん数
肺がん	13,853	34	3
食道がん	12,296	6	2
胃がん	12,296	12	3
肝臓がん	13,883	6	1
胆のうがん	13,883	4	0
膵臓がん	13,883	3	0
腎臓がん	13,883	5	1
大腸がん	13,722	84	10
前立腺がん	2,075	7	3
乳がん	3,964	14	10
子宮頸がん	3,344	7	1
子宮体がん	0	0	0
卵巣がん	325	0	0
血液がん	13,936	1	0
その他	13,937	5	3
合計		188	37

〈人間ドック〉

表6 人間ドック健診結果一覧表

区分	受診者数	異常なし %	有所見正常 %	要経過観察 %	要再検査 %	要精密検査 %	要受診 %	要治療継続 %	
総合判定	男性	8,081	26 0.3	135 1.7	2,281 28.2	597 7.4	631 7.8	2,962 36.7	1,449 17.9
	女性	5,856	6 0.1	138 2.4	2,284 39.0	352 6.0	415 7.1	1,795 30.7	866 14.8
	計	13,937	32 0.2	273 2.0	4,565 32.8	949 6.8	1,046 7.5	4,757 34.1	2,315 16.6
基本	男性	8,079	3,505 43.4	0 0.0	4,569 56.6	0 0.0	0 0.0	5 0.1	0 0.0
	女性	5,856	3,442 58.8	0 0.0	2,387 40.8	0 0.0	0 0.0	27 0.5	0 0.0
	計	13,935	6,947 49.9	0 0.0	6,956 49.9	0 0.0	0 0.0	32 0.2	0 0.0
呼吸器	男性	8,079	6,122 75.8	819 10.1	919 11.4	22 0.3	139 1.7	15 0.2	43 0.5
	女性	5,855	4,515 77.1	727 12.4	475 8.1	11 0.2	77 1.3	13 0.2	37 0.6
	計	13,934	10,637 76.3	1,546 11.1	1,394 10.0	33 0.2	216 1.6	28 0.2	80 0.6
循環器	男性	8,081	3,035 37.6	1,053 13.0	1,401 17.3	387 4.8	90 1.1	341 4.2	1,774 22.0
	女性	5,856	2,954 50.4	769 13.1	1,083 18.5	189 3.2	59 1.0	148 2.5	654 11.2
	計	13,937	5,989 43.0	1,822 13.1	2,484 17.8	576 4.1	149 1.1	489 3.5	2,428 17.4
眼底・眼圧	男性	8,057	3,950 49.0	294 3.6	2,541 31.5	0 0.0	6 0.1	780 9.7	486 6.0
	女性	5,821	3,283 56.4	188 3.2	1,579 27.1	0 0.0	1 0.0	469 8.1	301 5.2
	計	13,878	7,233 52.1	482 3.5	4,120 29.7	0 0.0	7 0.1	1,249 9.0	787 5.7
消化器	男性	8,033	3,266 40.7	2,097 26.1	1,696 21.1	18 0.2	657 8.2	60 0.7	239 3.0
	女性	5,800	2,578 44.4	1,813 31.3	962 16.6	6 0.1	348 6.0	18 0.3	75 1.3
	計	13,833	5,844 42.2	3,910 28.3	2,658 19.2	24 0.2	1,005 7.3	78 0.6	314 2.3
腹部超音波	男性	8,045	2,489 30.9	1,727 21.5	3,680 45.7	9 0.1	104 1.3	18 0.2	18 0.2
	女性	5,838	2,772 47.5	1,218 20.9	1,755 30.1	7 0.1	80 1.4	1 0.0	5 0.1
	計	13,883	5,261 37.9	2,945 21.2	5,435 39.1	16 0.1	184 1.3	19 0.1	23 0.2
血液一般	男性	8,080	5,194 64.3	441 5.5	2,214 27.4	50 0.6	0 0.0	169 2.1	12 0.1
	女性	5,856	3,378 57.7	206 3.5	1,876 32.0	25 0.4	2 0.0	270 4.6	99 1.7
	計	13,936	8,572 61.5	647 4.6	4,090 29.3	75 0.5	2 0.0	439 3.2	111 0.8
糖尿病	男性	8,080	2,747 34.0	3,304 40.9	1,175 14.5	18 0.2	22 0.3	296 3.7	518 6.4
	女性	5,856	2,271 38.8	2,516 43.0	809 13.8	5 0.1	3 0.1	114 1.9	138 2.4
	計	13,936	5,018 36.0	5,820 41.8	1,984 14.2	23 0.2	25 0.2	410 2.9	656 4.7
脂質	男性	8,080	3,359 41.6	548 6.8	1,672 20.7	500 6.2	0 0.0	710 8.8	1,291 16.0
	女性	5,856	2,284 39.0	1,028 17.6	1,291 22.0	181 3.1	0 0.0	291 5.0	781 13.3
	計	13,936	5,643 40.5	1,576 11.3	2,963 21.3	681 4.9	0 0.0	1,001 7.2	2,072 14.9
尿酸	男性	8,052	5,710 70.9	34 0.4	1,065 13.2	1 0.0	0 0.0	383 4.8	859 10.7
	女性	5,843	5,480 93.8	244 4.2	83 1.4	0 0.0	0 0.0	19 0.3	17 0.3
	計	13,895	11,190 80.5	278 2.0	1,148 8.3	1 0.0	0 0.0	402 2.9	876 6.3
肝・膵	男性	8,080	3,980 49.3	304 3.8	2,828 35.0	40 0.5	0 0.0	906 11.2	22 0.3
	女性	5,856	3,775 64.5	386 6.6	1,382 23.6	13 0.2	0 0.0	292 5.0	8 0.1
	計	13,936	7,755 55.6	690 5.0	4,210 30.2	53 0.4	0 0.0	1,198 8.6	30 0.2
腎機能	男性	8,080	6,032 74.7	57 0.7	1,582 19.6	91 1.1	71 0.9	185 2.3	62 0.8
	女性	5,855	4,162 71.1	276 4.7	1,041 17.8	80 1.4	31 0.5	232 4.0	33 0.6
	計	13,935	10,194 73.2	333 2.4	2,623 18.8	171 1.2	102 0.7	417 3.0	95 0.7
梅毒・炎症	男性	8,020	7,294 90.9	1 0.0	642 8.0	61 0.8	0 0.0	22 0.3	0 0.0
	女性	5,819	5,330 91.6	0 0.0	446 7.7	33 0.6	0 0.0	9 0.2	1 0.0
	計	13,839	12,624 91.2	1 0.0	1,088 7.9	94 0.7	0 0.0	31 0.2	1 0.0
リウマチ	男性	7,552	7,043 93.3	28 0.4	420 5.6	0 0.0	0 0.0	43 0.6	18 0.2
	女性	5,513	5,047 91.5	22 0.4	364 6.6	0 0.0	0 0.0	29 0.5	51 0.9
	計	13,065	12,090 92.5	50 0.4	784 6.0	0 0.0	0 0.0	72 0.6	69 0.5
腫瘍マーカー	男性	6,586	6,219 94.4	0 0.0	117 1.8	78 1.2	79 1.2	83 1.3	10 0.2
	女性	5,013	4,904 97.8	0 0.0	31 0.6	34 0.7	28 0.6	16 0.3	0 0.0
	計	11,599	11,123 95.9	0 0.0	148 1.3	112 1.0	107 0.9	99 0.9	10 0.1
婦人科	女性	3,360	456 13.6	2,307 68.7	392 11.7	20 0.6	38 1.1	81 2.4	66 2.0
	乳房	3,964	2,623 66.2	431 10.9	721 18.2	0 0.0	2 0.1	185 4.7	2 0.1
喀痰	男性	135	133 98.5	2 1.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	女性	52	52 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	計	187	185 98.9	2 1.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
骨密度	男性	110	95 86.4	9 8.2	5 4.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 0.9
	女性	398	221 55.5	49 12.3	76 19.1	0 0.0	37 9.3	0 0.0	15 3.8
	計	508	316 62.2	58 11.4	81 15.9	0 0.0	37 7.3	0 0.0	16 3.1
MRI	男性	975	442 45.3	318 32.6	202 20.7	0 0.0	5 0.5	8 0.8	0 0.0
	女性	664	310 46.7	231 34.8	115 17.3	0 0.0	2 0.3	6 0.9	0 0.0
	計	1,639	752 45.9	549 33.5	317 19.3	0 0.0	7 0.4	14 0.9	0 0.0
頸動脈超音波	男性	508	148 29.1	0 0.0	344 67.7	0 0.0	0 0.0	11 2.2	5 1.0
	女性	437	212 48.5	0 0.0	222 50.8	0 0.0	0 0.0	3 0.7	0 0.0
	計	945	360 38.1	0 0.0	566 59.9	0 0.0	0 0.0	14 1.5	5 0.5
胸部CT	男性	449	55 12.2	305 67.9	82 18.3	3 0.7	4 0.9	0 0.0	0 0.0
	女性	148	18 12.2	100 67.6	27 18.2	2 1.4	1 0.7	0 0.0	0 0.0
	計	597	73 12.2	405 67.8	109 18.3	5 0.8	5 0.8	0 0.0	0 0.0
その他	男性	132	117 88.6	0 0.0	6 4.5	0 0.0	5 3.8	3 2.3	1 0.8
	女性	95	57 60.0	0 0.0	19 20.0	0 0.0	8 8.4	2 2.1	9 9.5
	計	227	174 76.7	0 0.0	25 11.0	0 0.0	13 5.7	5 2.2	10 4.4

図4 人間ドック 有所見率(要経過観察以上)

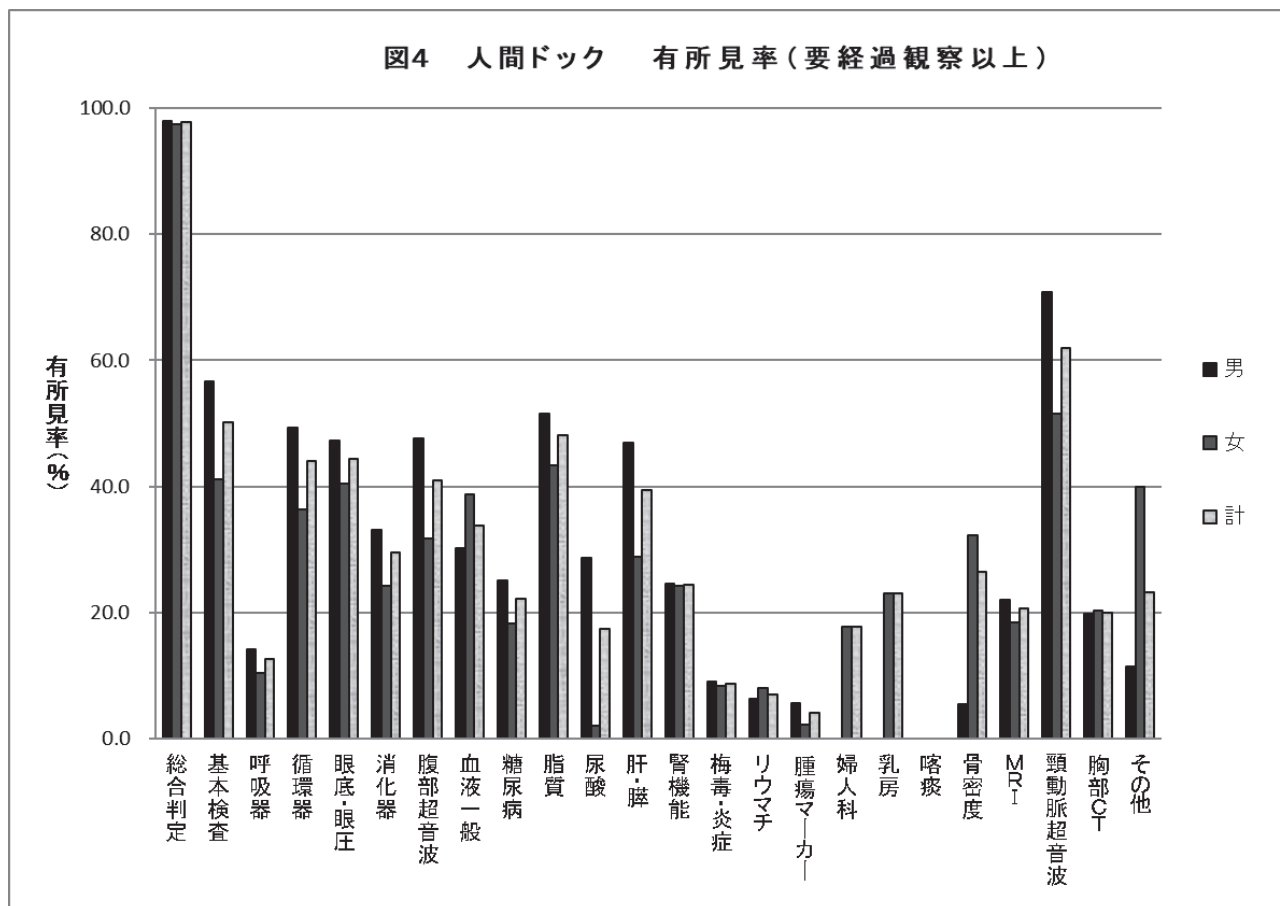


表7 人間ドック年齢別・判定割合

区分		受診者数	A (異常なし)	B (心配なし)	C (要経過観察)	D (要再検査)	E (要精密検査)	F (要受診)	G (要治療継続)
男性	29歳以下	72	2	6	37	1	3	23	0
	30-39歳	621	6	36	264	30	48	217	20
	40-49歳	2,330	14	72	886	178	108	845	227
	50-59歳	2,847	4	18	768	236	221	1,039	561
	60-69歳	1,688	0	3	280	116	173	635	481
	70-79歳	495	0	0	38	34	75	194	154
	80歳以上	28	0	0	8	2	3	9	6
	男性合計	8,081	26	135	2,281	597	631	2,962	1,449
女性	29歳以下	53	1	4	31	4	4	8	1
	30-39歳	498	3	31	256	31	35	134	8
	40-49歳	1,863	1	69	908	93	105	543	144
	50-59歳	2,030	1	28	739	137	147	655	323
	60-69歳	1,123	0	6	305	70	95	353	294
	70-79歳	280	0	0	43	17	27	100	93
	80歳以上	9	0	0	2	0	2	2	3
	女性合計	5,856	6	138	2,284	352	415	1,795	866
全体	29歳以下	125	3	10	68	5	7	31	1
	30-39歳	1,119	9	67	520	61	83	351	28
	40-49歳	4,193	15	141	1,794	271	213	1,388	371
	50-59歳	4,877	5	46	1,507	373	368	1,694	884
	60-69歳	2,811	0	9	585	186	268	988	775
	70-79歳	775	0	0	81	51	102	294	247
	80歳以上	37	0	0	10	2	5	11	9
	全体計	13,937	32	273	4,565	949	1,046	4,757	2,315

図5 人間ドック 年齢別・判定割合

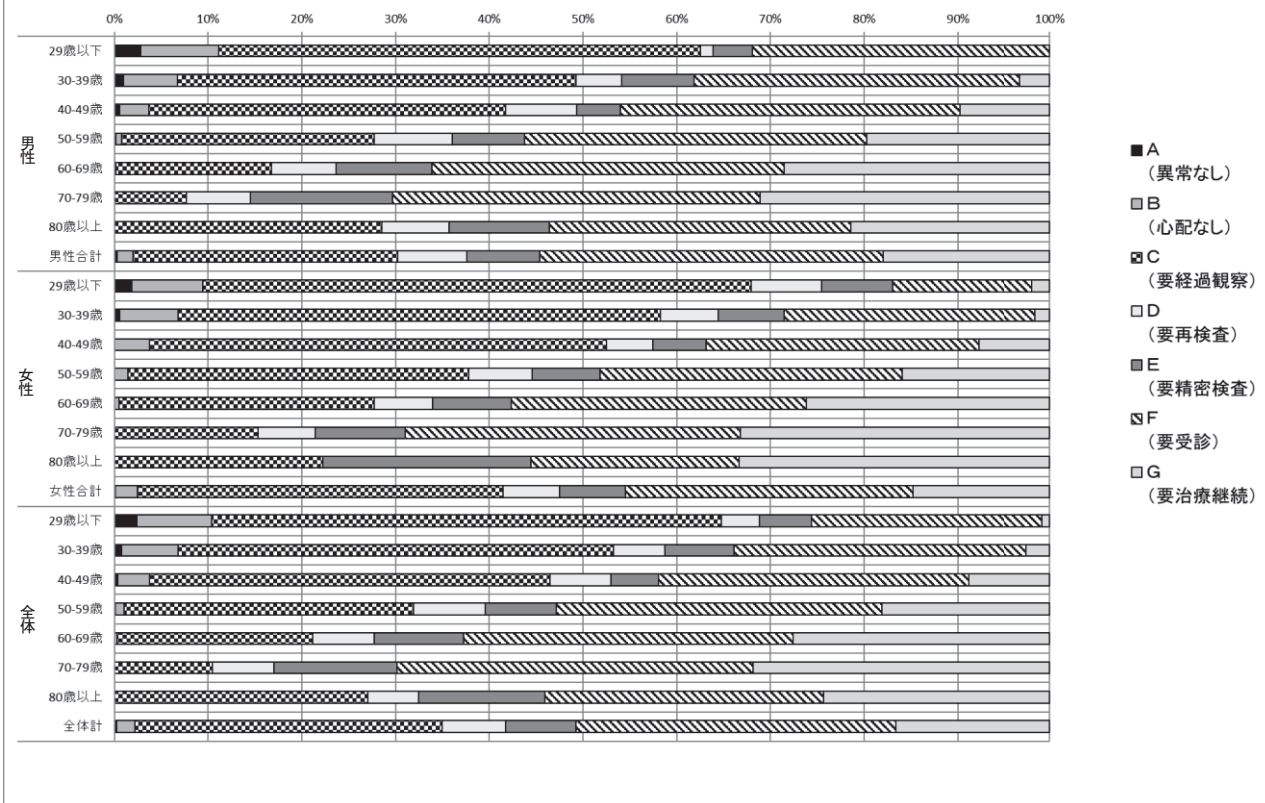


図6 人間ドック オプション実績

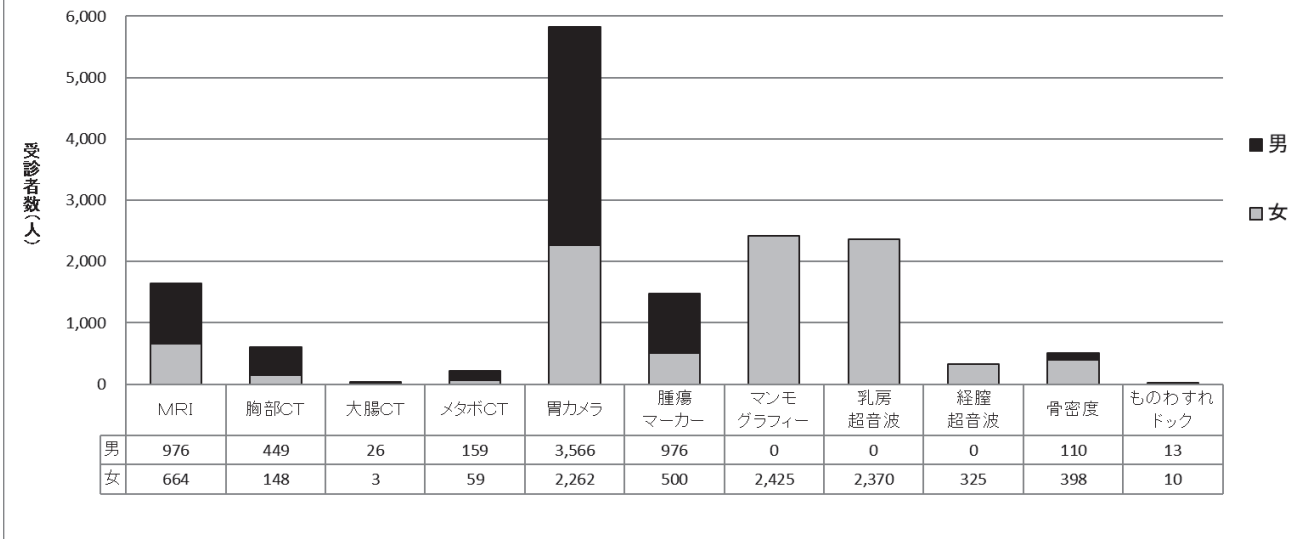
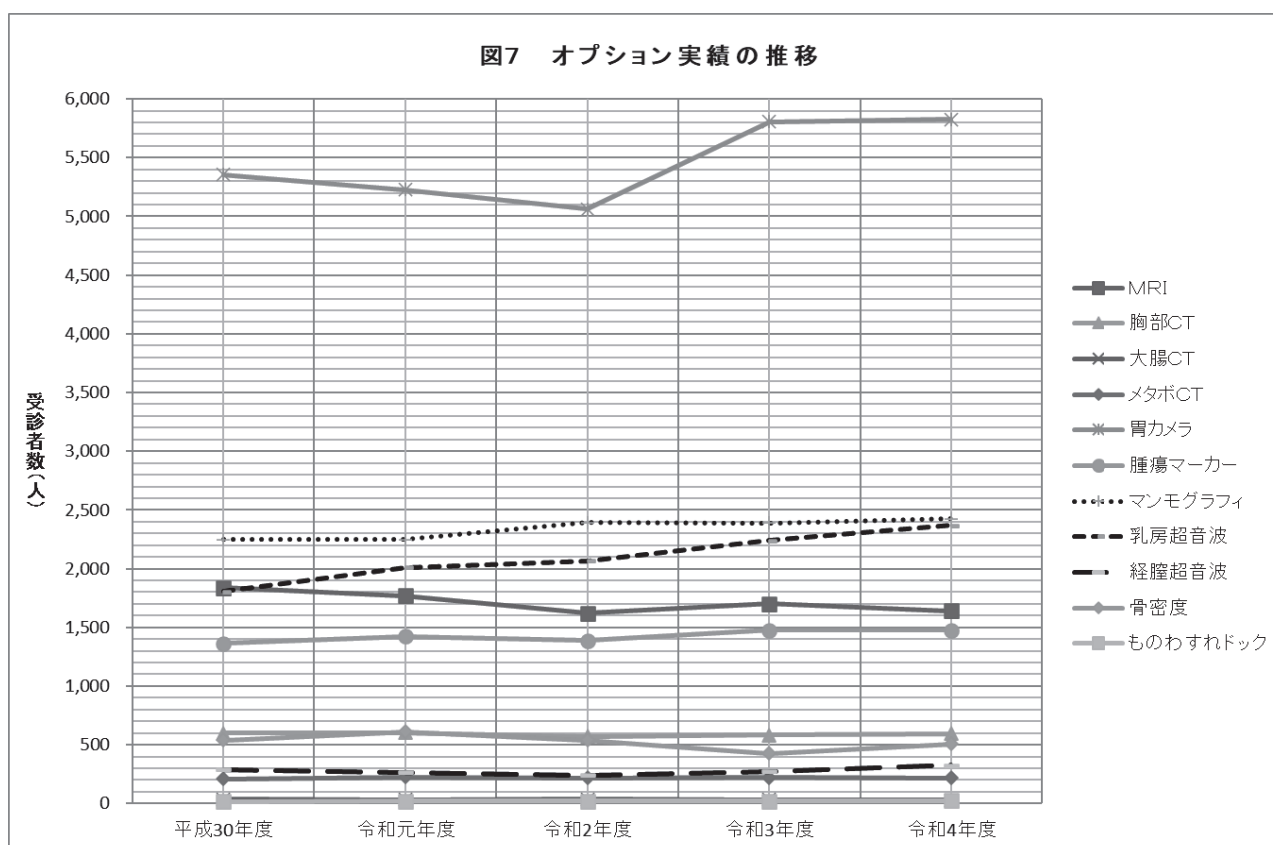


表8 人間ドック受診者におけるオプション実績の推移

区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
MR I	1,836	1,770	1,621	1,699	1,640
胸部CT	600	605	572	584	597
大腸CT	36	34	38	32	29
メタボCT	208	225	217	223	218
胃カメラ	5,354	5,227	5,061	5,806	5,828
腫瘍マーカー	1,364	1,425	1,386	1,476	1,476
マンモグラフィ	2,247	2,249	2,392	2,390	2,425
乳房超音波	1,804	2,009	2,065	2,238	2,370
経膈超音波	291	264	241	274	325
骨密度	541	613	537	427	508
ものわずれドック	16	19	21	22	23

図7 オプション実績の推移



第二章 検査・健(検)診事業

4. 母子保健

1) 先天性代謝異常症等検査

1) 先天性代謝異常症等検査

表1 先天性代謝異常症等の症状、検査方法・・・・・・・・100

図1 先天性代謝異常症等検査システム・・・・・・・・101

表2 令和4年度先天性代謝異常症等検査の月別実施状況・・101

表3 令和4年度先天性代謝異常症等検査の年度別患児発見数・・102

1) 先天性代謝異常症等検査

〔はじめに〕

先天性代謝異常症や内分泌の病気の中には、発症前に発見し治療を開始すれば障害の予防または軽減を期待できる病気がある。このような病気に対して出生後すぐに検査を行い、早期発見・治療することにより障害を防ごうとする事を「新生児マススクリーニング」という。

〔新生児マススクリーニングの歴史〕

静岡県における先天性代謝異常スクリーニングは、厚生省母子保健事業の一環として、新生児を対象に、昭和53年1月より開始された。

当初は、フェニルケトン尿症、メープルシロップ尿症、ホモシスチン尿症、ヒスチジン血症、ガラクトース血症の5疾患が対象であったが、昭和54年11月から先天性甲状腺機能低下症、昭和64年1月から先天性副腎過形成症が加えられた。

その後、ヒスチジン血症については、厚生省心身障害研究班及び社会福祉法人恩賜財団母子愛育会総合母子保健センター特殊ミルク共同安全開発委員会の報告に基づき、平成4年9月よりスクリーニング対象疾患から除外された。

平成23年3月に出された厚生労働省の通達を受け、静岡県下でも平成25年10月より「アミノ酸代謝異常症」及び「有機酸代謝異常症」、「脂肪酸代謝異常症」のタンデムマススクリーニングが導入され、対象疾患が20疾患となった。

さらに、平成27年10月よりカルニチンパルミトイルトランスフェラーゼ2欠損症が追加され、対象疾患は21疾患となっている。新生児マススクリーニングの対象疾患及び主な症状を表1に示した。

静岡県では、スクリーニング開始当初から昭和55年3月までは静岡県衛生研究所（現静岡県環境衛生科学研究所）において検査が行われていたが、同年4月以降は当協会が委託を受けている。現在では、政令指定都市である静岡市、浜松市、それ以外の地域の静岡県から委託を受け、引き続き静岡県全域の検査を行っている。

〔検査方法の変遷〕

アミノ酸代謝異常症検査法は、開始から平成10年度までガスリー法で行った。平成11年度にマイクロプレート酵素法、平成13年度にはアミノ酸分析計も導入し検査精度が飛躍的に向上した。平成19年度からはタンデムマススペクトル（誘導体化）法を用いて検査を行った。平成25

年10月のタンデムマススクリーニング導入と同時に、誘導体化法から非誘導体化法に変更した。

先天性甲状腺機能低下症及び先天性副腎過形成症検査は、ELISA法で行っている。先天性副腎過形成症検査は平成13年度に3位抗体試薬が7位抗体に変更されたため、検査精度が向上した。

〔検査システム〕

新生児マススクリーニング検査システムを図1に示した。新生児に対して、生後4～5日目（哺乳開始4日目以降）に各採血医療機関において採血が行われる。採血した血液は特殊なる紙にしみこませ、乾燥し、検体とする。検体は郵送で検査機関（当協会）に集められ、しみこんでいる血液中の成分が測定される。

検査の結果、疾患が疑われる場合には、当協会が直ちに電話及びFAXにて出産病院に報告後、精密検査の手続きを行う。平成25年10月より開始されたタンデムマススクリーニング対象疾患は稀少疾患であり、小児科専門医といえどもなじみのない疾患が多い。しかし、どこで発見されても障害発生予防のための一定レベルの適切な対応が取れる体制を作る必要がある。そのため、タンデムマススクリーニングの精密検査は、自治体指定の6病院で行っている。

事業評価は、先天性代謝異常等検査事業連絡会にて新生児マススクリーニングに関連する機関によって行われる。

また、外部精度管理機関マススクリーニング研究室から定期的に試験用検体が送付され、その測定値を報告するとともに評価を受けている。このことにより、全国レベルでの精度管理がなされ、精度の維持、向上に大きな役割を果たしている。

〔検査実施数と患児発見数〕

令和4年度の初回検体数は21,455人であり、そのうち37人に対して精密検査依頼を行った。（表2）

令和4年度の精密検査の結果、プロピオン酸血症1人、メチルクロトニルグリシン尿症1人、極長鎖アシル CoA 脱水素酵素欠損症1人、先天性甲状腺機能低下症9人、先天性副腎過形成症1人を早期発見、早期治療できた。（表3）

また、対象疾患以外の疾患が見つかる場合もあるが、令和4年度は発見がなかった。

疾患の確定には数年かかる場合があり、当協会では2年後まで追跡調査を行っている。患児数は昨年度年報の数と異なる場合がある。

[まとめ]

当協会の取り組みとして、先天性代謝異常症等検査事業連絡会にて、検査実績報告と基準値等の見直しを行った。

マススクリーニング学会や研修会に参加し、検査技術の向上や対象疾患に対する見識を高めている。学会で得られた情報は、自治体、精密検査病院、採血医療機関等に配信し情報の共有を図っている。

検査精度維持のために採血医療機関へ採血要領を配布し、採血状態の良い検体が提出されるように啓蒙活動を行っている。

これからも、新生児マススクリーニングの精度向上のため、情報提供や啓蒙活動を行ってきたい。

(池ヶ谷 やす代)

[委託元]

- ① 静岡県の委託元
健康福祉部子ども未来局子ども家庭課
- ② 静岡市の委託元
子ども未来局子ども家庭課
- ③ 浜松市の委託元
健康福祉部健康増進課

表 1 先天性代謝異常症等の症状、検査方法

疾 患 名		主 な 症 状	検 査 方 法
アミノ酸代謝異常症	フェニルケトン尿症	発達遅延、けいれん	タンデムマス法 (非誘導体化法)
	メープルシロップ尿症	発達遅延、酸血症	
	ホモシスチン尿症	発達遅延、水晶体脱臼、血栓症	
	シトルリン血症1型	高アンモニア血症、昏睡、発達遅延	
	アルギニノコハク酸尿症	高アンモニア血症、昏睡、発達遅延	
有機酸代謝異常症	メチルマロン酸血症	酸血症、腎不全、発達遅延	タンデムマス法 (非誘導体化法)
	プロピオン酸血症	酸血症、腎不全、発達遅延、嘔吐発作	
	イソ吉草酸血症	高アンモニア血症昏睡、異臭、嘔吐発作	
	メチルクロトニルグリシン尿症	酸血症、嘔吐発作、昏睡	
	ヒドロキシメチルグルタル酸血症	低血糖昏睡、酸血症、嘔吐発作	
	複合カルボキシラーゼ欠損症	高乳酸血症昏睡、湿疹、運動失調	
	グルタル酸血症1型	頭囲拡大、不随意運動の急性発症	
脂肪酸代謝異常症	中鎖アシル-CoA脱水素酵素欠損症	乳幼児期突然死、急性脳症	タンデムマス法 (非誘導体化法)
	極長鎖アシル-CoA脱水素酵素欠損症	乳幼児期突然死、急性脳症、筋症状	
	三頭酵素/長鎖3-ヒドロキシアシル-CoA脱水素酵素欠損症	乳幼児期突然死、急性脳症、筋症状	
	カルニチンパルミトイルトランスフェラーゼ1欠損症	急性脳症、肝障害	
	カルニチンパルミトイルトランスフェラーゼ2欠損症	乳幼児期突然死、急性脳症、筋症状	
	全身性カルニチン欠乏症	乳幼児期突然死、急性脳症、筋症状	
糖質代謝異常症	ガラクトース血症	発達遅延、肝障害、白内障	ポイトラー法、 脱水素酵素マイクロプレート法
内分泌疾患	先天性甲状腺機能低下症	発達遅延、特有な顔付き、小人症	ELISA法
	先天性副腎過形成症	男性化症状、皮膚色素沈着、脱水ショック	ELISA法

図 1 先天性代謝異常症等検査システム

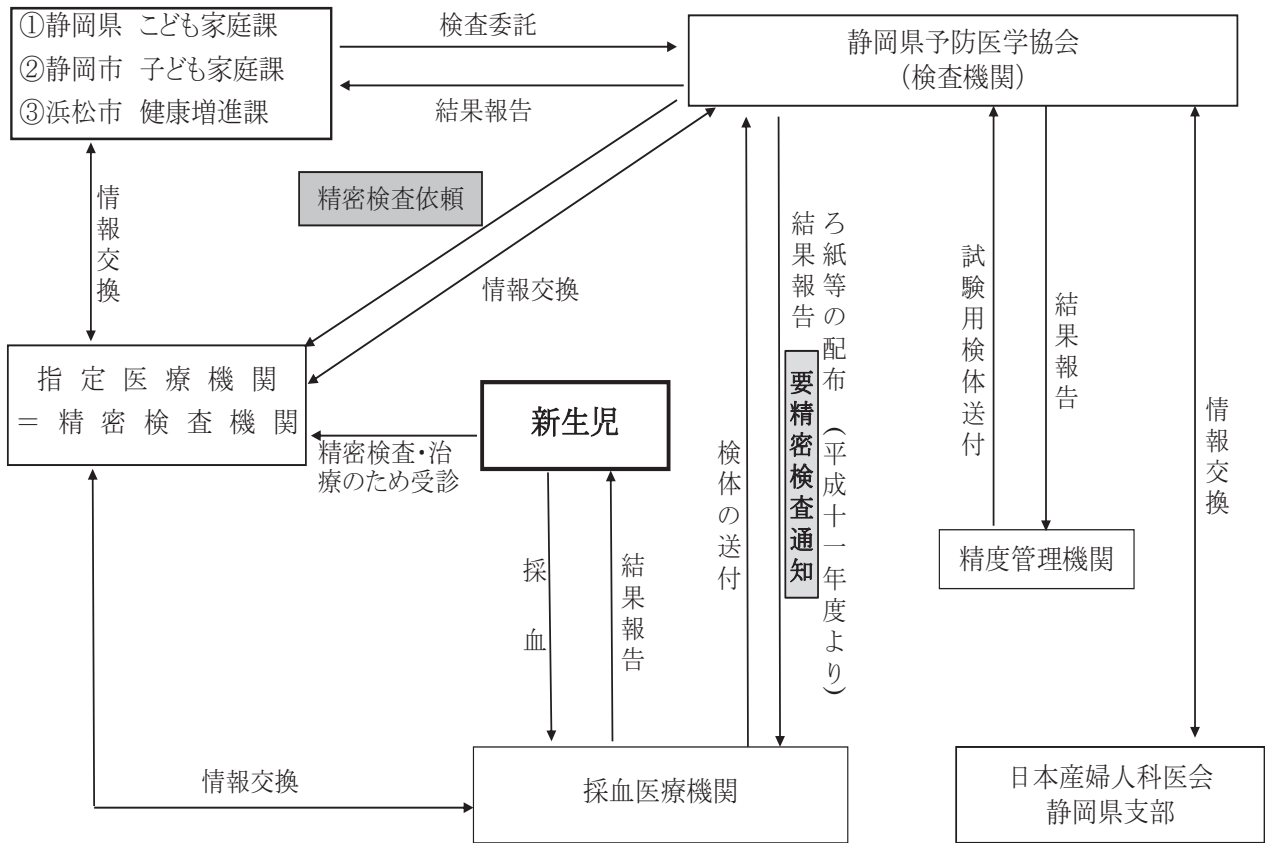


表 2 令和 4 年度 先天性代謝異常症等検査の月別実施状況

項目 月	初回 検体数	再 採 血 依 頼 数						精密検査依頼数					
		アミノ酸代謝 異常症疑	有機酸代謝 異常症疑	脂肪酸代謝 異常症疑	ガラクトース 血症疑	先天性 甲状腺機能 低下症疑	先天性副腎 過形成症疑	アミノ酸代謝 異常症疑	有機酸代謝 異常症疑	脂肪酸代謝 異常症疑	ガラクトース 血症疑	先天性 甲状腺機能 低下症疑	先天性副腎 過形成症疑
4	1,592	2	4	4	6	22	22	0	0	0	0	2	0
5	1,876	0	2	2	5	32	28	0	1	1	0	3	1
6	1,792	0	3	3	2	19	18	0	0	1	0	1	0
7	1,719	0	5	1	3	15	13	0	0	0	0	1	0
8	2,110	2	7	2	2	25	5	0	0	1	0	1	0
9	2,033	1	3	2	2	35	14	0	0	0	0	3	0
10	1,860	0	7	4	1	26	21	0	0	0	0	2	0
11	1,827	4	5	4	5	31	19	0	1	0	0	4	0
12	1,606	4	6	0	7	25	25	0	0	0	0	0	1
1	1,858	1	3	2	6	31	31	0	2	0	0	1	1
2	1,519	1	5	2	1	29	13	1	2	0	0	2	1
3	1,663	0	4	0	3	38	21	0	1	1	0	2	0
合計	21,455	15	54	26	43	328	230	1	7	4	0	22	4

表3 令和4年度 先天性代謝異常症等検査の年度別患児発見数

疾患名	年度 受検者数(人)	昭和53 ~平成29	平成30	令和1	令和2	令和3	令和4	合計	発見率	全国での 発見率 *9	
		1,512,073	26,450	24,894	23,710	22,886	21,455				1,631,468
アミノ酸 代謝異常症	フェニルケトン尿症	15	2	0	0	1	0	18	1/90,600	1/66,000	
	メープルシロップ尿症	0	0	0	0	0	0	0	未発見	1/538,400	
	ホモシスチン尿症	3	0	0	0	0	0	3	1/543,800	1/235,500	
	シトルリン血症1型	*1	1	0	0	0	0	1	1/252,300	1/233,100	
	アルギニノコハク酸尿症	*1	0	0	0	0	0	0	未発見	1/1,036,000	
有機酸 代謝異常症	メチルマロン酸血症	*1	1	1	0	0	0	2	1/126,100	1/111,000	
	プロピオン酸血症	*1	2	0	0	1	1	5	1/50,500	1/50,100	
	イソ吉草酸血症	*1	0	0	0	0	0	0	未発見	1/932,400	
	メチルクロトニルグリシン尿症	*1	1	0	0	0	0	1	1/126,100	1/179,300	
	ヒドロキシメチルグルタル酸血症	*1	0	0	0	0	0	0	未発見	1/5,206,000	
	複合カルボキシルーゼ欠損症	*1	0	0	0	0	0	0	未発見	1/777,000	
	グルタル酸血症1型	*1	0	1	0	0	0	0	1	1/252,300	1/548,400
脂肪酸 代謝異常症	中鎖アシル-CoA脱水素酵素欠損症	*1	2	0	0	0	0	2	1/126,100	1/115,100	
	極長鎖アシル-CoA脱水素酵素欠損症	*1	5	0	1	0	0	7	1/36,000	1/78,300	
	三頭酵素/長鎖3-ヒドロキシアシル-CoA脱水素酵素欠損症	*1	0	0	0	0	0	0	未発見	1/2,330,900	
	カルニチンパルミトイルトランスフェラーゼ1欠損症	*1	0	0	0	0	0	0	未発見	1/777,000	
	カルニチンパルミトイルトランスフェラーゼ2欠損症	*2	0	0	0	0	0	0	未発見	1/444,000	
	全身性カルニチン欠乏症	*1	0	0	0	1	0	0	1	1/252,300	
その他の疾患		4 *5	1 *6	1 *7	0	0	0	6			
糖質代謝 異常症	ガラクトース血症	30	0	0	0	1	0	31	1/52,600 *8	1/37,300	
内分泌 疾患	先天性甲状腺機能低下症	*3	613	14	11	15	13	9	675	1/2,400	1/2,500
	先天性副腎過形成症	*4	65	2	1	0	0	1	69	1/11,800	1/16,400

- * 1 平成25年10月開始 受検者数= 252,279 (人)
- * 2 平成27年10月開始 受検者数= 190,931 (人)
- * 3 昭和54年11月に開始 受検者数= 1,550,713 (人)
- * 4 平成元年に開始 受検者数= 803,381 (人)
- * 5 メチオニアデニルシルトランスフェラーゼ欠損症、シリン欠損症、ピオチン欠乏
- * 6 シリン欠損症
- * 7 新生児ヘモクロマトーシス
- * 8 劇症型のI型は未発見
- * 9 特殊ミルク共同安全開発事業広報誌「特殊ミルク情報 第58号(2023年)」より

第三章 健康啓発、会議、人事等

1. 健康啓発
2. 全国大会等への参加
(会議、研修会、研究会等)
3. 行事・会議
4. 人事
5. 総合健診センター

1. 健康啓発

県民の健康保持増進を目指して、各種の健康教育・広報活動を展開している。令和4年度は、広報紙「けんこう静岡」及び「事業年報」の発行、啓発資料の配布など疾病予防・健康づくりのための啓蒙普及活動を行った。

1) 健康教育事業

例年開催している「学校保健セミナー」及び「産業保健セミナー」については、令和2年度から新型コロナウイルス感染予防対策の一環として中止した。しかし、令和5年年明け以降感染者が低減したことから同年3月に学校保健セミナーを開催した。

2) 広報・普及啓蒙事業

(ア) 広報紙の発行

当協会の事業内容と活動状況を伝えるとともに、生活習慣病等の健康に関する正しい知識の普及啓発のため、広報紙「けんこう静岡」を発行した。

○ 第149号～152号

(令和4年4月、7月、10月、令和5年1月発行)
14,000部

【配布先】県、市町、教育委員会、幼稚園、保育園
幼保園、小学校、中学校、高等学校
県内大学、各種団体、健診事業所等

(イ) 事業年報の発行

○「令和3年度(2021年度)事業年報」の発行
1,000部

(ウ) 啓発資料の配布

○ 予防医学ジャーナル
(公財)予防医学事業中央会 864部

2. 全国大会等への参加 (会議、研修会、研究会等)

1) 各種会議、研修会等

前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大により、各種会議・研修会ともに中止となるものもあったが、WEB形式で開催されたものについては、一部参加した。

- 令和4年度第1回全国運営会議
(WEB 令和4年7月6日)
- 第39回全国情報統計研修会
(WEB 令和4年8月26日)
- 令和4年度第2回全国運営会議
(鹿児島市 令和4年10月27日)
- 第67回 予防医学事業推進全国大会
(鹿児島市 令和4年10月5日)
- 令和4年度 技術運営会議
(金沢市 令和5年3月2日)
- 令和4年度 技術運営会議
(金沢市 令和5年3月2日)
- 第56回 全国予防医学技術研究会
(金沢市 令和5年3月3日)

2) 学 会

- 第49回日本マスキング学会学術集会
(WEB 令和4年8月26日～27日)
- 第63回日本人間ドック学会学術大会
(WEB 令和4年9月12日～30日)
- 第30回日本消化器関連学会
(福岡市 令和4年10月27日～30日)
- 日本総合健診医学会第51回大会
(東京都 令和5年1月27日～28日)
- 第87回日本循環器学会学術集会
(福岡市 令和5年3月10日～12日)

3. 行事・会議

1) 理 事 会 等

第1回理事会(令和4年6月8日)では、令和3年度事業報告・収支決算、JKA補助事業による胃部胸部X線デジタル検診車の導入について、資産取得資金の取崩し及び新規保有について、理事の任期満了に伴う選任候補者について、監事の選任候補者について、令和4年度定時評議員会の開催が決議された。

第2回理事会(令和4年7月11日)で

〈健康啓発〉

は、理事長、専務理事、常務理事の選定が決議された。

第3回理事会（令和4年8月13日）では、本部（附属診療所、静岡事務所含む）の建物建設について決議された。

第4回理事会（令和5年3月14日）では、令和5年度事業計画案、令和5年度収支予算案、資金調達及び設備投資の見込み、資産取得資金の取崩しおよび積み立て計画の変更について決議された。

なお、令和4年5月24日小柳津監事及び田中監事による監査が行われた。

2) 評議員会等

定時評議員会については、令和4年6月21日、書面評決により、令和3年度事業報告、収支決算、任期満了に伴う理事の選任（9名）、監事1名の選任が決議された。

3) 運営会議

毎月1回（月末の月曜日）専務理事、常務理事の外、幹部職員が出席し、定例会を開催した。常務理事兼事務局長からの指示事項、事業の運営方法及び経営上の諸問題等各種案件について、検討、協議した。

4) 渉外担当者会議

渉外担当者会議は、新型コロナウイルス感染拡大により開催を中止した。

5) 職員研修

管理職及びそれに準ずる職員を対象とした研修を毎月WEB形式にて開催し、資質の向上を図った。

また、個人情報保護の徹底を図るため、監査員研修、正職員を対象にした紙面による個人情報保護に関する研修及び理解度テストを実施した。

4. 人 事

1) 理事

令和2年6月26日に開催された定時評議員会において、以下の理事及び監事を選任した。

(理事)

横田通夫 氏、田川隆介 氏、加藤吉隆 氏
篠原 彰 氏、渡邊憲治 氏、靱木 茂 氏
三橋 寛 氏、北條罔生 氏、原田雅文 氏

(監事)

石川 誠 氏

令和4年7月11日に開催された令和4年度第2回理事会において、以下の代表理事1名、業務執行理事2名を選定した。

理事長 横田通夫 氏
専務理事 田川隆介 氏
常務理事 加藤吉隆 氏

5. 総合健診センター

新型コロナウイルス感染拡大により、毎月1回実施していた優良認定顧客部会は年に2回に分け実施した。また、毎週水曜日に開催していたヘルスポート会議は引続き中止された。

検討事項にあたっては、都度、関係者で協議し上層部の承認後に決定事項を遅滞なく職員に周知した。

第四章 研究業績

第 56 回予防医学研究会は、コロナウィルス感染が続いているので参加を取りやめ、口頭発表は実施しなかった。

付録 協会案内

1. (公財)静岡県予防医学協会の沿革
2. (公財)静岡県予防医学協会役員名簿
3. (公財)静岡県予防医学協会組織図
4. 協会の健(検)診・検査業務内容
5. 協会案内図

1 公益財団法人 静岡県予防医学協会の沿革

- 昭和34年 「静岡県寄生虫予防協会」(任意団体) (設立 昭和34年4月1日)
事務所を静岡市追手町9-6 静岡県衛生部予防課内に置く
- 昭和36年 静岡県内3箇所において実施していた検査所を統合
- 昭和38年 協会事務所を静岡市羽鳥829番地に移転
プレハブ平屋建(90㎡)の事務所を設置
財団法人 日本寄生虫予防会に加入し「静岡県支部」となる
- 昭和42年 「財団法人 静岡県寄生虫予防協会」設立 (県知事認可 昭和42年5月18日)
- 昭和43年 協会事務所新築落成 (鉄筋コンクリート2階建延330㎡) (落成 昭和43年3月31日)
第13回寄生虫予防全国大会を静岡市で開催 (昭和43年8月8日～9日)
- 昭和47年 「財団法人 静岡県衛生検査協会」と改称 (県知事認可 昭和47年9月11日)
臨床検査技師、衛生検査技師等に関する法律に基づく「衛生検査所」として登録
寄生虫検査以外の諸検査を開始
財団法人予防医学事業中央会「静岡県支部」となる (承認 昭和47年11月7日)
- 昭和48年 県内最初の血液検査機器:コールターカウンターモデルS整備(昭和48年7月)
- 昭和52年 「付属診療所」併設 (認可 昭和52年7月1日)
- 昭和53年 社団法人 全国労働衛生団体連合会(全衛連)の会員となる (承認 昭和53年4月1日)
- 昭和55年 協会事務所増築(鉄筋コンクリート3階建 延916.32㎡) (落成 昭和55年3月15日)
- 昭和57年 西部検査所 登録検査所として認可 (認可 昭和57年8月19日)
- 昭和58年 「財団法人 静岡県予防医学協会」と改称 (県知事認可 昭和58年8月29日)
- 昭和60年 機関紙「けんこう静岡」創刊号発行 (昭和60年4月1日)
- 昭和61年 「中小企業共同安全衛生改善事業助成制度に係る健康診断機関」となる
「全衛連鉛検査機関名簿登録機関」となる (承認 昭和61年5月1日)
- 昭和62年 協会として最初のレントゲン車(胸部、骨粗しょう症用) 日本自転車振興会の助成により配備
西部検査所 付属診療所併設 (認可 昭和62年4月10日)
- 昭和63年 「全衛連総合精度管理事業参加機関」となる (昭和63年12月20日)
- 平成元年 第33回予防医学事業推進全国大会を静岡市で開催(平成元年9月20日～21日)
- 平成3年 第44回技術研修会(尿沈渣)を開催 (平成3年2月26日～28日)
- 平成5年 全国統計実務研修大会を浜松市で開催 (平成5年9月2日～3日)
- 平成7年 第1回学校保健セミナーを静岡市で開催(平成7年2月17日)
- 平成8年 総合健診センター「ヘルスポート」(藤枝市)を日本自転車振興会の助成により着工 (平成8年6月20日)
第31回予防医学技術研究集会を浜松市で開催 (平成9年1月22日～24日)
- 平成9年 総合健診センター「ヘルスポート」開設 (開所式 平成9年4月5日)
(レントゲン車(胸部検診用)を配備 (平成9年6月23日))
法人格取得30周年記念事業として講演会を開催(静岡市) (平成10年3月30日)

- 平成10年 西部検査所を浜松市小池町に移転（平成10年8月7日）
第1回産業保健セミナーを静岡市で開催（平成11年3月15日）
- 平成12年 レントゲン車(胃部検診用)を配備（平成12年5月16日）
住居表示が静岡市葵区建徳1-3-43となる
- 平成13年 レントゲン車(胸部検診用)を配備（平成13年4月6日）
総合健診センター「ヘルスポート」労災保険二次健診等給付医療機関指定(平成13年7月1日)
- 平成14年 レントゲン車(胃部検診用)を配備（平成14年5月16日）
- 平成15年 レントゲン車(胃部検診用)を配備（平成16年1月16日）
- 平成17年 協会として最初の乳房検診用レントゲン車を配備（平成18年3月30日）
- 平成19年 西部検査所を浜松市東区下石田町に移転（平成20年2月1日）
第42回予防医学技術研究集会を静岡市で開催（平成20年2月29日～3月31日）
- 平成20年 協会として最初のデジタルレントゲン車(胸部検診用)を配備（平成20年5月30日）
協会として最初のデジタルレントゲン車(胃部検診用)を配備（平成20年8月29日）
デジタルレントゲン車(胸部・胃部検診用)を配備（平成20年10月29日）
- 平成21年 予防医学事業推進全国大会を静岡市で開催(平成21年9月30日～10月1日)
PACS装置(医用画像装置)一式を購入
東部事務所を沼津市西沢田に移転(平成22年1月1日)
- 平成22年 公益財団法人移行認定に向けて、知事より「最初の評議員の選任に関する理事の定め認可」を受ける。(平成22年7月2日認可)
- 平成23年 ・全国情報統計研修会を静岡市で開催（平成23年8月25日～26日）
・臨時理事会及び評議員会で定款の変更の案を議決（平成23年9月30日）。公益財団法人への移行認定申請書を知事あて提出（平成23年10月17日）。知事より公益財団法人として認定を受ける。(平成24年3月23日)
・総合健診センターヘルスポート新築移転。落成祝賀会(平成24年1月14日)業務開始(平成24年1月16日)
・ヘルスポートにMRI(核磁気共鳴画像診断装置)、X線CTスキャナ、マンモグラフィー(デジタル乳房X線撮影装置)、医用画像観察装置、大腸CT等を整備(平成24年2月)
・ヘルスポート既存施設を改修し、静岡センター機能の一部を移転し、新たに藤枝健診センターとして業務を開始(平成24年3月)
・協会として最初のマンモグラフィー車(婦人科検診車)を配備(平成24年3月18日)
- 平成24年 ・公益財団法人に移行。公益財団法人静岡県予防医学協会に名称変更(平成24年4月1日移行登記)
・デジタルレントゲン車(胸部検診用)を配備(平成24年9月)
・全国業務会議を静岡市で開催(平成25年2月21日～22日)
・デジタルレントゲン車(胸部・胃部検診用)を配備(平成25年3月7日)
- 平成25年 ・デジタルレントゲン車(乳房検診用)を配備(平成25年8月23日)
・西部検査所 北側新棟完成(平成25年9月17日)
・デジタルレントゲン車(胃部検診用)を配備(平成25年11月28日)
- 平成26年 ・デジタルレントゲン車(胸部検診用)を配備（平成26年7月8日）
- 平成27年 ・新総合健診検査システムを導入(平成27年4月1日)

- ・東部事務所を沼津市岡宮に移転(平成27年10月28日)
- 平成 28 年 ・PACS装置(医用画像装置)を購入(更新)
・尿自動分析装置を導入
- 平成 29 年 ・デジタルレントゲン車(胸部検診用:車いす対応)を配備(平成29年9月13日)
- 平成 30 年 ・デジタルレントゲン車(胸部・胃部検診用)を配備(平成30年6月29日)
- 令和 元年 ・令和元年度 予防医学事業推進近畿・東海・北陸地区会議を静岡市で開催(令和元年11月28日～29日)
- 令和 2 年 ・健診システムサーバー一式更新
- 令和 3 年 ・ワクチン接種車両を2台配備(令和3年11月9日)
- 令和 4 年 ・浜松健診センター放射線新棟完成

2 公益財団法人 静岡県予防医学協会 役員名簿

R.4.7.15作成

評議員名簿

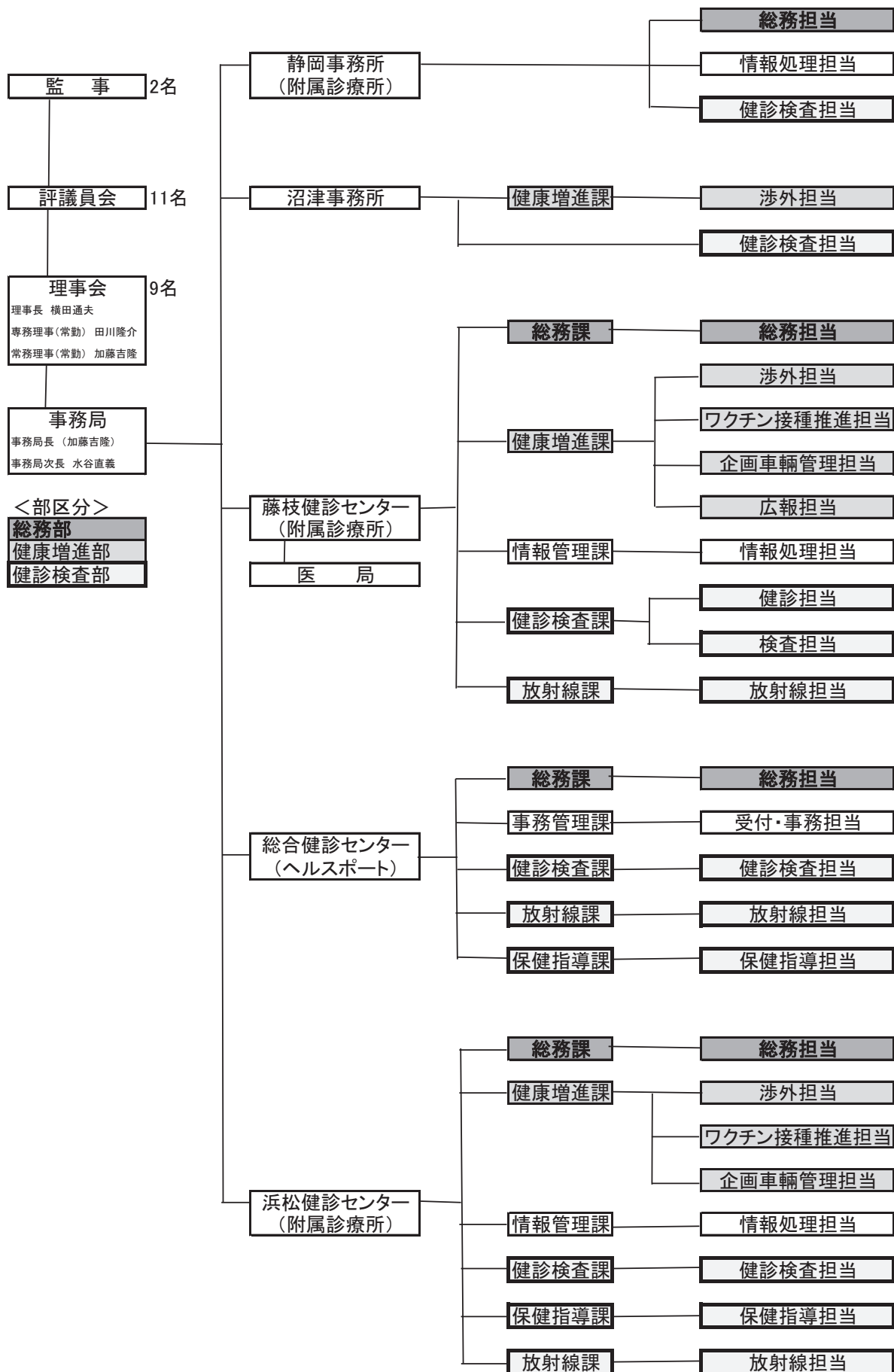
役員名	氏 名	職業・役職名
評議員	天野 一	静岡県議会議員
〃	中谷 多加二	静岡県議会議員
〃	三間屋 純一	医療法人財団 百葉の会 理事 介護老人保健施設 星のしずく施設長
〃	青木 一雄	青木医院院長、(一社)静岡県医師会 裁定委員
〃	杉谷 正東	静岡県医師健康保険組合 常務理事
〃	松村 龍夫	医療法人社団 凜和会 理事
〃	秋山 欣三	(公社)静岡県薬剤師会 副会長
〃	中村 孟	元 スズキ(株) 常任監査役
〃	佐藤 栄作	医療法人社団 栄成会理事長、おおや整形外科クリニック院長
〃	仲田 晃弘	静岡県私学協会 副会長
〃	大内 仁之	(一社)静岡県歯科医師会 専務理事
計	11名	

役員(理事・監事)名簿

役 員	氏 名	職業・役職名
理事長	横田 通夫	医療法人社団綾和会理事長駿河西病院長
専務理事	田川 隆介	(公財)静岡県予防医学協会総合健診センター長
常務理事	加藤 吉隆	(公財)静岡県予防医学協会事務局長
理 事	篠原 彰	篠原医院院長、(一社)静岡県医師会顧問
〃	渡邊 憲治	医療法人社団わたなべクリニック理事長
〃	榎木 茂	医療法人社団 岡崎会 有玉病院 副院長
〃	北條 罔生	元 静岡市衛生研究所長
〃	三橋 寛	元 社会保険浜松病院 放射線科部長
〃	原田 雅文	静岡縣市町村職員共済組合 事務局長
計	9名	

監 事	小柳津 隆弘	元 静岡新聞社 取締役編集局長
〃	石川 誠	静岡県校長会 事務局長
計	2名	
総 計	22名	

3 公益財団法人 静岡県予防医学協会 組織図



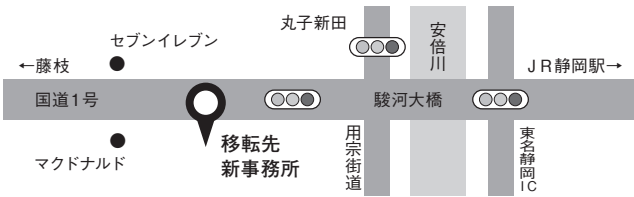
4 静岡県予防医学協会の健（検）診・検査業務内容

検	区分	職域・地域健診				がん検診	学校保健 腎臓病検診 糖尿病検診 心臓病検診 負血検査	母子保健	その他	ヘルスポート（藤枝）				健康 教育	備考
		定期健診	生活習慣病 健診	特殊健康 診断	婦人科					脳 ドック	A	B	ドック		
検	寄生虫卵検査	寄生虫卵													<ul style="list-style-type: none"> ・ けんこう静岡発行 ・ 講演会／研修会の開催 ・ 予防医学ジャーナル等の配布
	ぎょう虫卵検査	ぎょう虫卵													
	尿検査	尿蛋白、尿潜血、尿糖、比重、PH、沈渣（潜血、蛋白陽性の場合）													
	血液学的検査	白血球数、赤血球数、血色素量、赤血球容積比、平均赤血球容積、平均赤血球血色素量、平均赤血球血色素濃度													
	生化学検査	AST(GOT)、ALT(GPT)、LDH、ALP、γ-GT(γ-GTP)、CH-E、TG、総コレステロール、HDL-C、LDL-C、アルブミン、T-BIL、尿素窒素、尿酸、空腹時血糖、HbA1c等													
	血清学的検査	血液型、梅毒反応、HBs抗原・抗体、HCV抗体、風疹抗体、トキソプラズマ抗体、ブルセラ抗体													
	細菌学的検査	サルモネラ菌、赤痢菌、腸管出血性大腸菌O-157等													
	病理学的検査	細胞診（子宮がん、肺がん他）													
	代謝異常常症等検査	アミノ酸代謝異常常症、有機酸代謝異常常症、脂防酸代謝異常常症、糖質代謝異常常症、先天性甲状腺機能低下症、先天性副腎過形成症													
	生	その他の検査	便潜血反応（大腸がん）												
胸部X線検査		結核、肺がん検査													
胃部X線検査		胃がん検査													
血圧測定															
聴力検査															
眼底検査		眼底撮影													
心臓病検査		心電(管)図検査、負荷心電図													
脊柱側弯症検査		モアレ写真撮影、シルエッター法													
眼圧検査															
肺機能検査															
体	MRI	基本ドックに追加、MRA（脳血管像）含む													
	ヘルカルCT	基本ドックに追加													
	マンモグラフィ	乳房X線検査													
	診察（問診）	医師の診察、健康教育等													

5 案内図

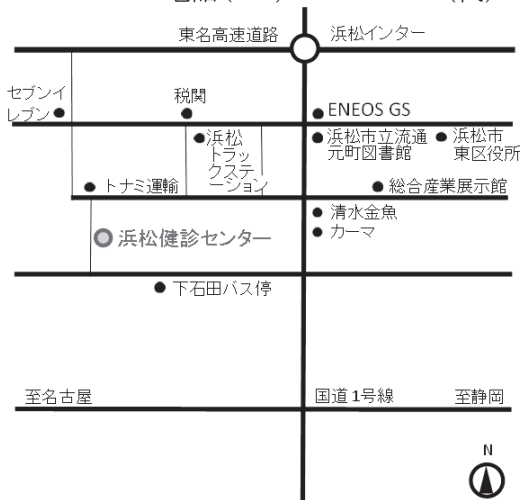
●静岡事務所

〒421-0111 静岡市駿河区丸子新田 186 - 5
電話 (054) 270 - 5177 (代)



●浜松健診センター

〒435-0006 浜松市中央区下石田町 951
電話 (053) 422-7800 (代)



●旧・静岡事務所

〒421-1292 静岡市葵区建徳 1-3-43
電話 (054) 278-7716 (代)

●総合健診センター・ヘルスポート

〒426-8638 藤枝市善左衛門 2-19-8
電話 (054) 636-6460 (代)

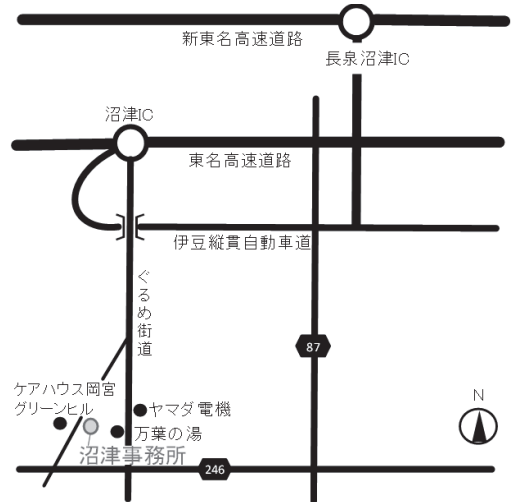
●藤枝健診センター

〒426-0053 藤枝市善左衛門 2-11-5
電話 (054) 636-6461 (代)



●沼津事務所

〒410-0011 沼津市岡宮 1210-1
電話 (055) 921-1934 (代)



公益財団法人 静岡県予防医学協会

●附属診療所・登録衛生検査所

中小企業共同安全衛生改善事業助成制度健康診断機関

(公財)予防医学事業中央会静岡県支部

全国労働衛生団体連合会会員

全衛連総合精度管理事業参加機関

労災保険特別加入健康診断実施機関

●総合健診センター・ヘルスポート

日本総合健診医学会優良総合健診施設

(公社)日本人間ドック学会会員

全国健康保険組合連合会自動化健診施設

労災保険二次健診等給付指定医療機関

●事務所

静岡事務所	〒421-0111 静岡市駿河区丸子新田 186-5	電話	(054)270-5177(代)
	E-mail shizuoka-yobo@shsa.net	FAX	(054)270-5178
旧・静岡事務所	〒421-1292 静岡市葵区建穂 1丁目 3-43	電話	(054)278-7716(代)
	E-mail shizuoka-yobo@shsa.net	FAX	(054)278-7717
藤枝健診センター	〒426-0053 藤枝市善左衛門 2-11-5	電話	(054)636-6461(代)
	E-mail shizuoka-yobo@shsa.net	FAX	(054)636-6462
総合健診センター・ヘルスポート	〒426-8638 藤枝市善左衛門 2-19-8	電話	054)636-6460(代)
	E-mail healthport@shsa.net	フリーダイヤル	0120-39-6460
		FAX	(054)636-6465
浜松健診センター	〒435-0006 浜松市中央区下石田町 951	電話	(053)422-7800(代)
	E-mail healthport@shsa.net	FAX	(053)422-7801
沼津事務所	〒410-0007 沼津市岡宮 1210-1	電話	(055)921-1934(代)
	E-mail syobo-tobu@shsa.net	FAX	(055)921-1588

令和4年度(2022年度)事業年報

通巻第51号

令和6年(2024年)3月発行

発行人 横田 通夫
製作・編集 健康増進部および関係各部署
発行所 公益財団法人 静岡県予防医学協会
〒421-0111 静岡市駿河区丸子新田 186 番地の 5
<https://www.shsa.net/>
印刷所 池田屋印刷株式会社